Panasonic

パーソナルコンピューター
取扱説明書

品番 CF-A1 シリーズ

Let's note

98

活用編
便利・通信・モバイル・拡張

説明書の構成

取扱説明書

セットアップ編

コンピューターを使うための準備作業をするときに。また、初めてのかたを対象に、Windows（ウィンドウズ）の基本操作を具体例を通して説明しています。

活用編（本書）

安全上のご注意などの取り扱いについての説明に始まり、便利な機能や通信のしかた、省電力機能、周辺機器の拡張のしかたなどについて説明しています。

CF-A1R モデルのみ

●ワイヤレスステーション取扱説明書
ワイヤレスステーションの取り扱いや設置のしかた、仕様などについて説明しています。

オンラインマニュアル

画面上で参照できるマニュアルです。
「オンラインマニュアル」の見かたについては、取扱説明書『活用編』（本書）をご覧ください。

困ったときの Q&A

本機が思ったように動かないなど困ったときの対処方法をQ&A方式で説明しています。

コマンド一覧

次のコマンド一覧を用意しています。ATコマンドを使って通信する場合にご利用ください。
- 内蔵モデムコマンド一覧（CF-A1Vモデルのみ）
- ワイヤレスステーションモデムコマンド一覧（CF-A1Rモデルのみ）
- ワイヤレスコムポートコマンド一覧

上手に使って上手に節電

保証書別添付

このたびはパナソニックパーソナルコンピューターをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
- この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

もくじ

ご使用前に

コミュニケーション

モバイル

拡張

使いかた

必要なときに

困ったときは

本書の読みかた

本書の表記上の約束

- キーの文字は、説明や操作に必要な文字だけを四角で囲んでいます。
  （例） N み は N や み と表記します。
- あるキーを押しながら、別のキーを押すときは、次のように「＋」を使って表記します。
  （例） Fn ＋ F6
- 「スタート」→[Windowsの終了]などは、[スタート]をクリックした後、[Windowsの終了]をクリックすることを意味します。
  （内容によっては、ダブルクリックが必要であったり、ポインターを置くだけでいい場合もあります。）
- 本書は下記の２モデルに共通の説明書です。本書中では、それぞれのモデルを略称で表記します。

モデル名	略称
CF-A1R（ワイヤレス通信モジュール内蔵）	ワイヤレスモデル
CF-A1V（モデム内蔵）	モデムモデル

- 本書中の本体イラストや画面は、ワイヤレスモデル を例にしています。
- 本書中の画面例は、一部実際と異なる場合があります。

ご使用前に

「安全上のご注意」は、必ずご覧ください。

本機をご使用になる前に、知っておいていただきたい「安全上のご注意」や「使用上のお願い」について説明しています。また、「各部の名称と働き」についても説明しています。

もくじ

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や障害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物質的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で、説明しています。（下記は、絵表示の一例です。）

⊘	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
❗	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠警告

本機を改造しないまた、本書に記載のない方法で分解しない

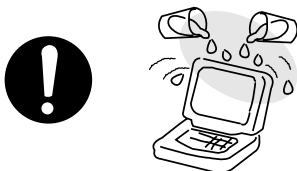
分解禁止

高電圧に注意

本機を分解・改造しない

［本体に表示した事項］

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。また、改造や間違った方法での分解は火災の原因にもなります。

上に水などの入った容器や金属物を置かない

水などがこぼれたり、クリップ、コインなどの異物が中に入ったりすると、火災・感電の原因になります。

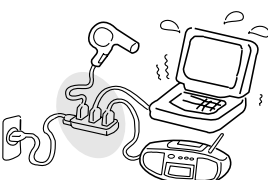
- 内部に異物が入った場合は、すぐに電源を切って電源プラグとバッテリーパックを抜き、販売店にご相談ください。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

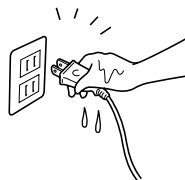
プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
  長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100V以外での使用はしない

禁止

たこ足配線等で定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

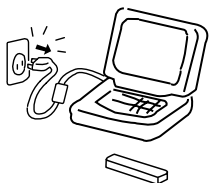
- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

⚠警告

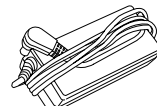
異常が起きたらすぐに電源プラグとバッテリーパックを抜く

電源プラグを抜く

・本体が破損した
・本体内に異物が入った ・異臭がする
・煙が出ている ・異常に熱い
などの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。

● 異常が起きたらすぐに電源を切って電源プラグとバッテリーパックを抜き、販売店にご相談ください。

電源コード・電源プラグ・AC アダプターを破損するようなことはしない

（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない）

禁止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

● コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

⚠警告 ワイヤレスモデル のみ

航空機内では電源を切る*1

運航の安全に支障をきたすおそれがあります。

病院内や医用電気機器のある場所では電源を切る*1（手術室、集中治療室、CCU*2等には持ち込まない）

本機からの電波が医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

*2 CCUとは、冠状動脈疾患監視病室の略称です。

満員電車の中など混雑した場所では、付近に心臓ペースメーカーを装着している方がいる可能性があるので、電源を切る*1

電波によりペースメーカーの作動に影響を与える場合があります。

心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す

電波によりペースメーカーの作動に影響を与える場合があります。

自動ドア、火災報知器等の自動制御機器の近くで使用しない

禁止

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

*1 コンピューター本体を使用したいときは、ワイヤレス通信モジュールの電源を「OFF」にしてください。
(ワイヤレス通信モジュールの電源を「OFF」にするには→43ページ)

安全上のご注意

必ずお守りください

⚠注意

不安定な場所に置かない

バランスが崩れて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

炎天下の車中に長時間放置しない

高温により、キャビネットが変形したり、内部の部品が故障または劣化したりすることがあります。このような状態のまま使用すると、ショートや絶縁不良等により火災・感電につながることがあります。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

本機の上に重いものを置かない

バランスが崩れて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

通風孔をふさがない

内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

電源プラグを接続したまま移動しない

電源コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

- 電源コードが傷ついた場合は、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご相談ください。

1時間ごとに10～15分間の休憩をとる

長時間続けて使用すると、目や手などの健康に影響を及ぼすことがあります。

湿気やほこりの多い場所に置かない

火災・感電の原因になることがあります。

電源コードは、電源プラグ部分を持って抜く

電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

必ず指定のACアダプターを使用する

指定以外のACアダプターを使用すると、火災の原因になることがあります。

長時間直接触れて使用しない

本機やACアダプターの温度の高い部分に長時間、直接触れていると、低温やけど※の原因になります。

※低温やけどについて
体温より少し高い温度のものでも、皮膚の同じ個所に、長時間、直接触れていると、低温やけどを起こすおそれがあります。

⚠注意 モデムモデルのみ

モデムは日本国内の一般電話回線で使用する

会社、事務所等の内線電話回線（構内交換機）やデジタル公衆電話のデジタル側コンセントに接続したり、海外で使用したりすると、火災・感電の原因になることがあります。

使用上のお願い

- お客様の使用誤り、その他異常な条件下での使用により生じた損害、および本機の使用または使用不能から生ずる付随的な損害について、当社は一切の責任を負いません。
- 本機は、医療機器、生命維持装置、航空交通管制機器、その他人命に関わる機器・装置・システムでの使用を意図しておりません。本機をこれらの機器・装置・システムなどに使用され生じた損害について、当社は一切責任を負いません。
- お客様または第三者が本機の操作を誤ったとき、静電気等のノイズの影響を受けたとき、または故障・修理のときなどに、本機に記憶または保存されたデータ等が変化・消失する恐れがあります。大切なデータおよびソフトウェアを思わぬトラブルから守るために、以下のことに注意してください。

ご使用前に

LCDパネル（ディスプレイ）の取り扱い

●LCDパネルは衝撃や振動に弱く、破損しやすいため、持ち運びの際には十分ご注意ください。また、LCDパネル部を持って、持ち運ばないでください。

●カラー液晶ディスプレイは精度の高い技術で製造されていますが、ちょっとした環境変化等で点灯しなかったり、常時点灯したりする画素ができることがあります。これらの画素が0.002%以下（有効画素が99.998%以上）のものは故障ではありません。あらかじめご了承ください。

ハードディスクのデータ保護

●コンピューターに衝撃を与えない。また、電源が入っている状態でコンピューターを持ち運ばない。
ハードディスクは衝撃に弱く、破損するとデータやアプリケーションが使えなくなることがあります。コンピューター本体の取り扱いには十分注意してください。

●Windows*やアプリケーションソフトの動作中およびHDDアクセスランプ（ ）の点灯中は、電源を切らない。

●ハードディスクに保存している必要なデータは、万一の場合（故障・変化・消失など）に備えて定期的にバックアップをとる。

●データの機密保護としてセキュリティー機能を活用する。（→121ページ）

* 正式名称は、Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating systemです。
本書ではWindowsまたはWindows 98と表記します。

コンピューターウィルス

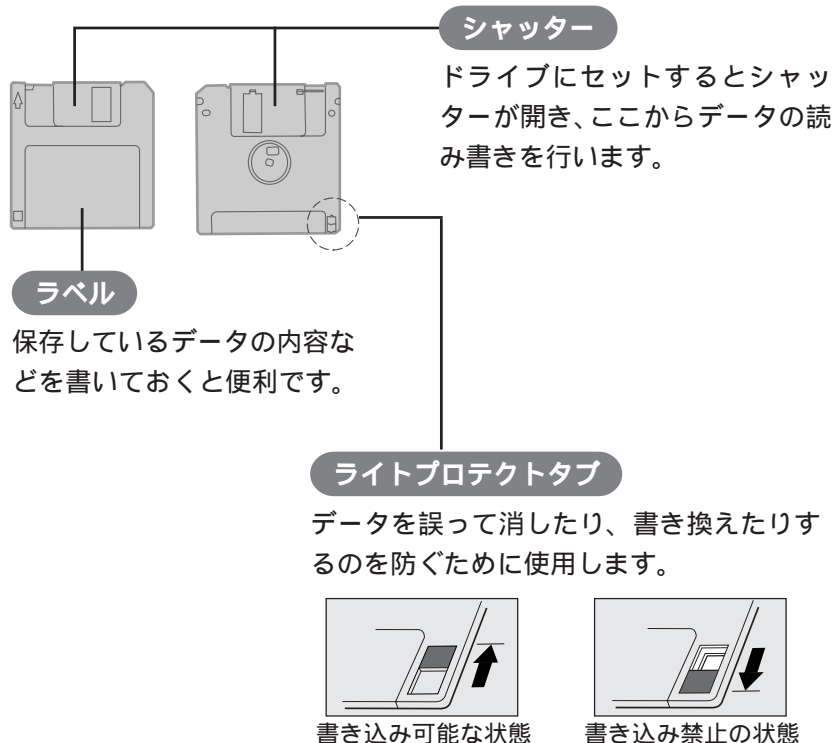
●最新のウィルスチェックプログラム（市販）を入手し、チェックを行う。
特に以下の場合、ウィルスチェックを行うことをおすすめします。
- コンピューターを起動するとき
- データを入手したとき
  フロッピーディスクなどの外部メディアから、またネットワーク、パソコン通信、電子メールなどから入手したデータ（圧縮されている場合は、圧縮解凍後のファイル）を使用または実行する前にウィルスチェックを行ってください。

フロッピーディスクのデータ保護

●フロッピーディスクドライブのランプが点灯中に、電源を切ったり、フロッピーディスクドライブの取り出しボタンに触れたりしない。
フロッピーディスクの破損の原因になり、データやアプリケーションが使えなくなることがあります。

●一度使用したフロッピーディスクをフォーマット（初期化）する場合はその前に内容を確認する。
フォーマットを行うとそのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えてしまいます。あらかじめ必要なデータがないか確認することをおすすめします。

●書き込み禁止タブ（ライトプロテクトタブ）を使う。
重要なデータを保存している場合におすすめします。
これにより、データの削除や上書き保存を禁止することができます。

●フロッピーディスクの取り扱いに注意する。
データの破損やフロッピーディスクが取り出せなくなるようなトラブルを避けるために次の点に注意してください。
・シャッターを手で開けない
・磁気を帯びたものを近づけない
・高温・低温になりやすいところ、湿気やほこりの多いところに保管しない
・ラベルを重ねて貼らない

◀フロッピーディスクを使用する場合は、フロッピーディスクドライブ（付属）と周辺接続ケーブル（付属）が必要です。

シャッター
ドライブにセットするとシャッターが開き、ここからデータの読み書きを行います。

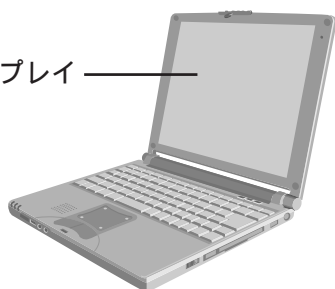
ラベル
保存しているデータの内容などを書いておくと便利です。

ライトプロテクトタブ
データを誤って消したり、書き換えたりするのを防ぐために使用します。

書き込み可能な状態

書き込み禁止の状態

お手入れのしかた

・ディスプレイ部分
ガーゼなどの乾いたやわらかい布で、軽く拭いてください。
・ディスプレイ以外の部分
水または、水で薄めた台所用洗剤（中性）に浸したやわらかい布をかたくしぼって、やさしく汚れを拭き取ってください。

お願い

・ベンジンやシンナー、消毒用アルコールなどは使わないでください。
・水や洗剤、スプレー式のクリーナーを直接かけないでください。液が内部に入ると、誤動作や故障の原因になります。

補足説明について

補足説明（[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[オンラインマニュアル]→[補足説明]）には、本製品についての最新情報などが記載されています。あわせてご覧ください。

各部の名称と働き

前面

LCDパネル(ディスプレイ)

ラッチ

マイク

スマートポインター

スピーカー

キーボード

状態表示ランプ

NumLk・Caps Lk・ScrLk 機能時：緑色

クリックボタン

パネルスイッチ

LCDパネルを閉じLCD上部のラッチがロック状態になると、セットアップユーティリティーの「パネルスイッチ」の設定に従い「LCDオフ」、「スタンバイ」（サスペンド）または「休止状態」（ハイバーネーション）になります。

状態表示ランプ

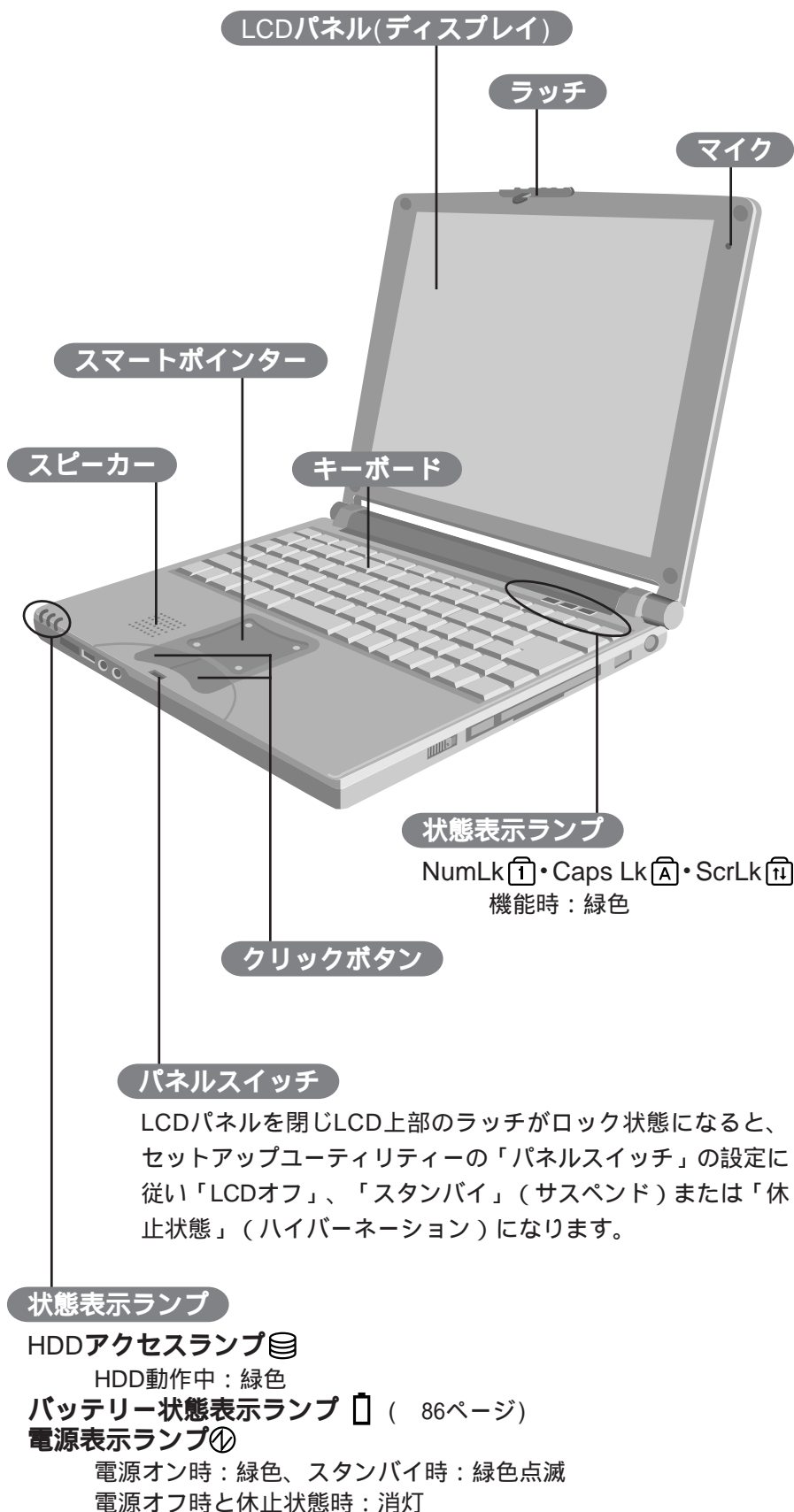
HDDアクセスランプ

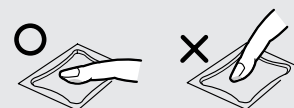
HDD動作中：緑色

バッテリー状態表示ランプ (→86ページ)

電源表示ランプ

電源オン時：緑色、スタンバイ時：緑色点滅

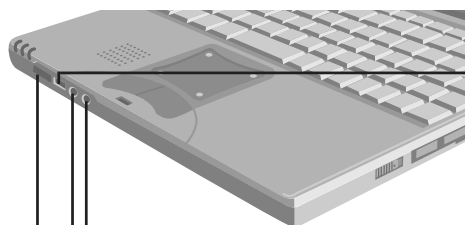
電源オフ時と休止状態時：消灯

◀マイク入力端子に外部マイクを接続しているときは、このマイクは使用できません。（→次ページ）

◀スマートポインターは指先で操作してください。ペンやつめなどでは反応しません。→18、20ページ

◀ スピーカーの音量調整のしかた →128ページ

◀ クリックボタンの操作については取扱説明書『セットアップ編』をご覧ください。

◀ 操作を再開するとき

- 「LCDオフ」に設定時は、LCDパネルを開ける。
- 「スタンバイ」や「休止状態」に設定時は、LCDパネルを開け、電源スイッチ（→14ページ）をスライドする。

前面

i.LINK端子 S400
デジタルビデオカメラなど、IEEE1394に準拠した機器を接続します。

オーディオ出力端子
市販のオーディオ用ヘッドホン、スピーカーなどを接続します。

◀ 音量調整のしかた
→128ページ

マイク入力端子
市販のミニジャックタイプのコンデンサー型モノラルマイクロホンを接続します。ここに外部マイクを接続しているときは、内蔵のマイクは使用できません。

赤外線通信ポート
赤外線通信を行うときに使用します。

お願い
マイク入力端子では、コンデンサー型モノラルマイクロホンの2極プラグタイプまたは3極プラグタイプを使用してください。それ以外を使用すると、音の入力ができなかったり、故障の原因になったりする場合があります。

マイクの音量調整について

＜録音時の入力レベルが小さい場合＞

①「ボリュームコントロール」画面*で[オプション]→[プロパティ]をクリックする。
②「音量の調整」で「録音」を選び、「表示するコントロール」で[マイク]にチェックマークを付ける。
③[OK]をクリックした後、音量を調整する。
それでも入力レベルが小さい場合は、以下の操作を行ってください。
④[オプション]をクリックし、[トーン調整]にチェックマークを付ける。
⑤[トーン]をクリックし、「1 AGC(1)」の左側の□にチェックマークを付ける。
⑥[閉じる]をクリックし、「マイクの詳細設定」の画面を終了する。

＜ハウリングについて＞

手を近づけたり、LCDパネルを閉じたりするとハウリングを起こす場合があります。その場合は、「ボリュームコントロール」画面で[オプション]→[プロパティ]をクリックし、「音量の調整」で「再生」を選び、「表示するコントロール」で「マイク」にチェックマークを付けた後[OK]をクリックして、「マイク」をミュートにするようにしてください。または、ハウリングを起こさないように、マイクとスピーカーの音量を適度に調節してください。

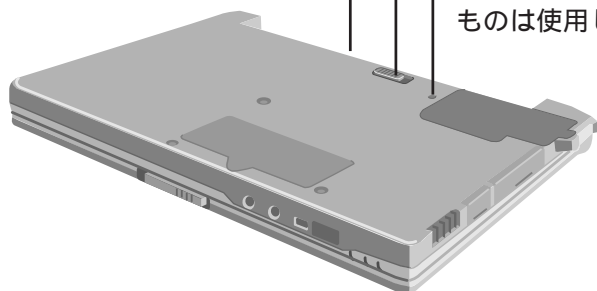
*「ボリュームコントロール」画面を開くには
タスクバーの「音量」アイコンをダブルクリックしてください。タスクバーに「音量」アイコンが表示されていないときは、「コントロールパネル」の「マルチメディア」で、「音量の調節をタスクバーに表示する」の左側の□にチェックマークを付けてください。

各部の名称と働き

底面

バッテリーパック挿入口
バッテリーパックを挿入します。（→84ページ）

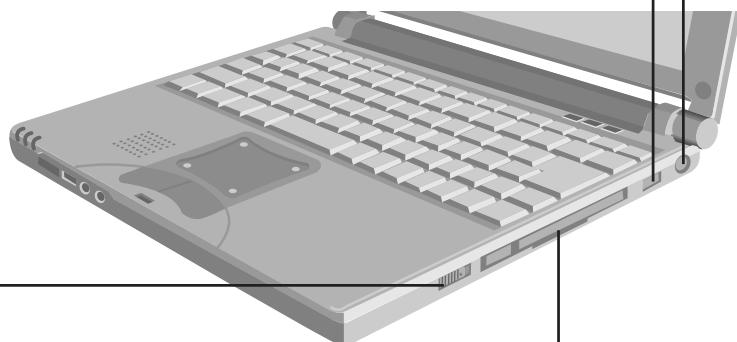
ラッチ
バッテリーパックを取り外すときにスライドします。

リセットスイッチ
電源が入っている時、先の細いもので押すとコンピューターが再起動します。鉛筆などの折れやすいものは使用しないでください。

お願い
リセットスイッチは、何らかの問題が発生して、コンピューターが操作不能状態になったとき以外は、使用しないでください。保存していないデータは失われます。

右側面

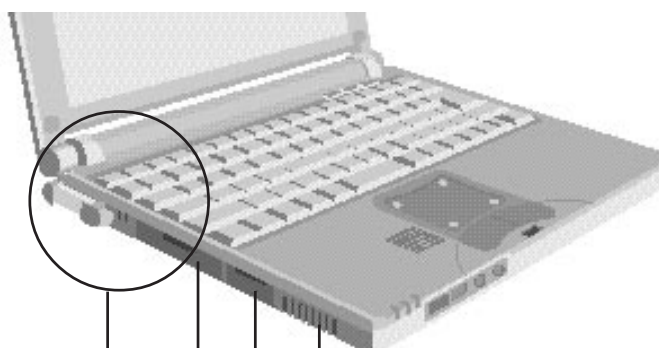
電源端子
付属のACアダプターのDCプラグを接続します。

USBコネクター
電源を入れたままで､USB対応のマウス、キーボード、プリンター、スキャナーなどいろいろな周辺機器を接続できます。使用するにはUSB機器に付属のドライバープログラムをインストールする必要があります。

◀ 設定、接続のしかたについては、USB機器に付属の説明書をご覧ください。

電源スイッチ POWER
後ろにスライドすると、本体の電源が入ります。また、セットアップユーティリティーで設定しておくとスタンバイや休止状態にも入ることもできます。

PCカードスロット
PC Card Standard規格に準拠したカードをセットします。

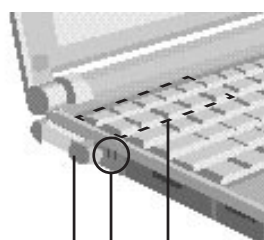
お願い
電源スイッチを４秒以上スライドしたままにしないでください。４秒以上スライドし続けると、ピーという連続音が鳴り、スタンバイや休止状態に入らず自動的に電源が切れます。ただし、Fn + F4 でスピーカーをオフにしたり、Fn + F5 で音量をゼロに設定している場合、音は鳴りません。→128ページ

左側面

通風孔
コンピューターを使用中はふさがないでください。

ワイヤレスコムポート
携帯電話接続ケーブルやPHS電話接続ケーブル（ともに別売り）を接続します。

◀ 外出先などで通信を行いたいときに便利です。

拡張バスコネクター EXT.
周辺接続ケーブルを使って、外部FDDや別売りのI/Oボックスを取り付けます。
また、別売りのミニI/Oボックスを直接取り付けます。

ワイヤレスモデル　　**モデムモデル**

ワイヤレス通信モジュール

モデムコネクター
→8、39、40ページ

状態表示ランプ
ワイヤレス通信モジュールの状態を表示します。
⏻：電源オン時に緑色点灯
Y：通信可能な電波状況にあるとき緑色点灯
通信中に緑色点滅

セキュリティーロック LOCK
市販の盗難防止用のケーブルを使用し、机などにつなぎます。接続のしかたはケーブルに付属の取扱説明書をご覧ください。

アンテナ
ワイヤレス通信モジュールで通信を行う場合には、アンテナを立ててください。

お願い
アンテナを立てた状態で無理な力をかけないでください。
また、コンピューターを持ち運ぶ際には、必ず倒してください。

使いかた

スマートポインターのクイックラウンチャー機能やスタンバイ・休止状態機能など、本機を操作するうえで便利な機能について説明しています。また、通信のしかた、省電力機能やバッテリーパックの使いかた、周辺機器の拡張のしかたなどについて説明しています。

もくじ

スマートポインターの操作

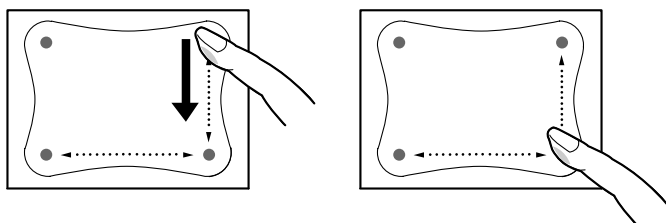
ここでは、スマートポインターのキープスクロール機能やインテリマウスと比較した操作の違いについて説明します。
タップやダブルタップなどスマートポインターの基本的な操作については、取扱説明書『セットアップ編』をご覧ください。

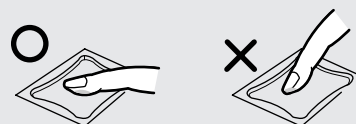
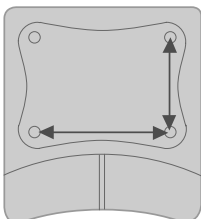
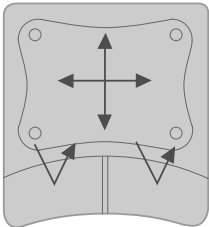
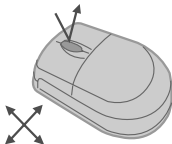
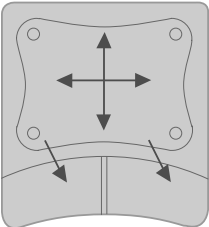
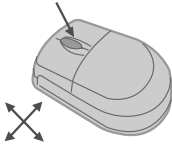
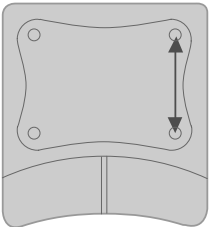
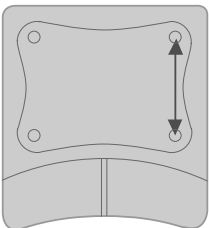
スマートポインターのキープスクロール機能

キープスクロール機能とは、スマートポインターのコーナーの●を押し続けることで、画面をスクロールさせる機能です。

・スマートポインター右側の縦矢印を、上（下）方向にこすった後、そのまま右上（右下）コーナーを押し続けると、画面がスクロールし続けます。
・スマートポインター下側の横矢印を、左（右）方向にこすった後、そのまま左下（右下）コーナーを押し続けると、画面がスクロールし続けます。

キープスクロール機能使用時のコツ

指の腹を使って、ゆっくりと矢印部をこすり、コーナーの●で指を止める。

（下方向へのキープスクロール例）

◀指を立てた状態で操作すると、うまくスクロールすることができません。（ペンやつめなどでは反応しません。）

◀コーナーの●以外の部分で指を止めると、スクロールが止まってしまいます。
◀早くこすりすぎると、コーナーの●で指を止めてもスクロールが止まってしまいます。

スマートポインターとインテリマウス™

ここでは、スマートポインターとインテリマウスのスクロール操作を比較して説明します。各機能の動作はアプリケーションによって異なることがあります。

機能	デバイスの操作	
	スマートポインター	インテリマウス
スクロール 文書を縦方向または横方向にスクロールします。		ホイールを動かす

◀文中の「原点」とは、ボタンやホイールを押した位置のことを言います。

使いかた

便利

機能	デバイスの操作	
	スマートポインター	インテリマウス
オートスクロール 文書を自動的にスクロールします。 スマートポインターから手を離しても、カーソルの形状が示す方向にスクロールします。	②スクロールしたい方向に操作面をなぞって手を離す ①２つのボタンを同時にクリックした後	①ホイールをクリックした後 ②マウスを動かす
パン 文書をさまざまな方向にスクロールします。ボタンまたはホイールを押している間、スクロールが続きます。	②操作面をなぞる ①２つのボタンを押しながら	①ホイールを押しながら ②マウスを動かす
ズーム 文書の表示を拡大/縮小します。	Ctrl＋	Ctrl＋
データズーム 文書を表示したり隠したりなど、エクスプローラーの操作を実行します。	Shift＋	Shift＋

◀オートスクロール機能
- 長い文書を読むときやデータを拾い読みするときなどに便利です。
- スクロールの速度は、カーソルを原点から遠くへ移動させるほど速くなります。
- オートスクロール機能を解除するには操作面を1回タップしてください。

◀パン機能

スクロールの速度は、カーソルを原点から遠くへ移動させるほど速くなります。

クイックラウンチャー機能

クイックラウンチャー機能を使用すると、スマートポインターを使って、より簡単にコンピューターの操作を行うことができます。
クイックラウンチャー機能には、大きく分けて次の3つがあります。

<スマートポインター連携1>

スマートポインターのコーナーの●をダブルタップするだけで、以下のことを行うことができます。

- ラウンチャーの起動
- ウィンドウを閉じる、最大化するなど設定されているウィンドウ操作
- Enter、Tab、Esc キーの押下操作
- 登録しておいたアプリケーションの起動

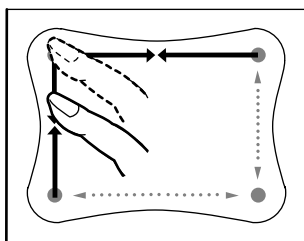
◀アクションポイント機能
詳しくは→21ページ

<スマートポインター連携2>

スマートポインターの左上コーナーの●から右にこする、下にこする、また、左下コーナーの●から上にこする、右上コーナーの●から左にこするなどといった動作で、スマートポインター連携１と同様にウィンドウ操作を行ったり、登録しておいたアプリケーションを起動したりすることができます。

コーナーの●に指の腹を置き、ゆっくりと中央部まで水平または垂直にこすってください。

◀アクションライン機能
詳しくは→22ページ

◀力を入れすぎたり、早くこすりすぎたりすると、正しく動作しない場合があります。

<ラウンチャー>

ラウンチャー画面から操作を選ぶだけで、ウィンドウを閉じる、最大化するなど登録されているウィンドウ操作を行ったり、Enter、Tab、Esc キーの押下操作を行ったり、またアプリケーションを起動したりすることもできます。
ラウンチャー画面には、最大24個の操作を登録できます。いろいろな操作を登録しておきたいときに便利です。

◀詳しくは→29ページ
アプリケーションによっては、登録されているウィンドウ操作が動作しないものもあります。

クイックラウンチャー機能が動作しない場合

タスクバーにクイックラウンチャーアイコン が表示されていない場合は上記の3つのクイックラウンチャー機能は動作しません。
[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[クイックラウンチャー]をクリックして、クイックラウンチャーアイコンが表示されたことを確認してください。

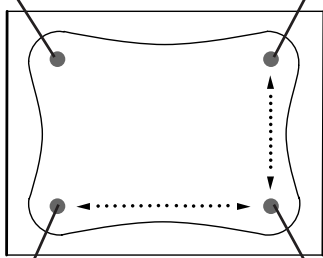
スマートポインター連携

スマートポインター連携1 （アクションポイント機能）

スマートポインターのコーナーにある4つの●をダブルタップするだけで、登録されているアプリケーションを起動したり、ウィンドウ操作を行ったり、 Enter 、Tab 、Esc キーの押下操作を行ったりすることができます。

（例）工場出荷時

ここをダブルタップすると、ラウンチャーが起動します。
（→29ページ）

ここをダブルタップすると、エクスプローラーが起動します。

ここをダブルタップするとアクティブウィンドウが最大化されます。または元の大きさに戻ります。

ここをダブルタップするとアクティブウィンドウが閉じられます。どのウィンドウもアクティブでない場合は、「Windowsの終了」画面が開きます。

スマートポインター連携1、2を使用するには

- タスクバーにクイックラウンチャーアイコンが表示されていることを確認してください。→前ページ
- ラウンチャーを起動しているときには、この機能は働きません。ラウンチャーを終了させてください。→31ページ

◀スマートポインター上の4コーナーの各●をダブルタップしたときの動作は、環境設定の「スマートポインター連携1」で変更することができます。→23ページ

各コーナーごとにスマートポインター連携1、2の機能を一時的に中止したい場合

タスクバーのクイックラウンチャーアイコンをクリックし、プルダウンメニューから該当するメニューを選んでチェックマークを付けてください。

パッドボタンを使わない ： 4コーナーの動作を中止します。
左上を使わない ：左上コーナーの●の動作を中止します。
右上を使わない ：右上コーナーの●の動作を中止します。
左下を使わない ：左下コーナーの●の動作を中止します。
右下を使わない ：右下コーナーの●の動作を中止します。

スマートポインター連携1と2を中止したコーナーは、通常の基本操作領域（クリックやスクロールなどを行う領域）として機能します。（→18ページ）

クイックラウンチャー機能

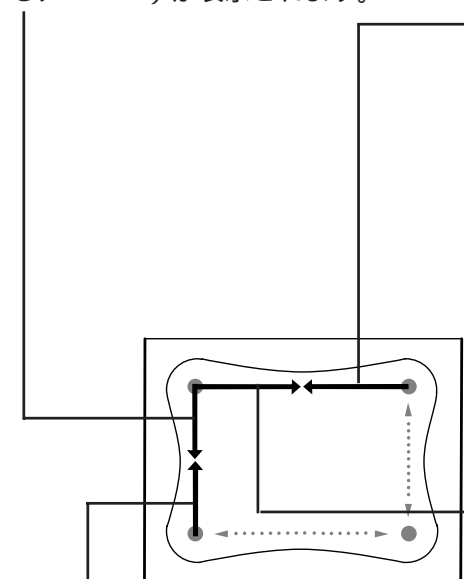
スマートポインター連携2 （アクションライン機能）

スマートポインターの左上コーナーの●から右にこする、下にこする、また、左下コーナーの●から上にこする、右上コーナーの●から左にこするなどといった動作で、スマートポインター連携１と同様にウィンドウ操作を行ったり、登録しておいたアプリケーションを起動したりすることができます。

（例）工場出荷時

左上コーナーから下方向に中央部までこすると、カーソル位置のショートカットメニュー（右ボタンをクリックしたときに表示されるメニュー）が表示されます。*1

右上コーナーから左方向に中央部までこすると、開かれているすべてのウィンドウが最小化されます。（全最小化操作）
開かれているウィンドウがない場合は、上記の全最小化操作で最小化されたウィンドウを元の大きさに戻します。*2

左上コーナーから右方向に中央部までこすると、アクティブウィンドウのメニューが表示されます。
どのウィンドウもアクティブでない状態では、Windowsのスタートメニューが表示されます。*3

左下コーナーから上方向に中央部までこすると、Windowsのスタートメニューが表示されます。

スマートポインター連携1、2を使用するには→前ページ

◀3コーナーの●をこすったときの動作は、環境設定の「スマートポインター連携2」で変更することができます。→次ページ

*1 指の腹で押さえながらゆっくりとこすってください。軽く早くこすると、カーソル位置がずれて、希望するショートカットメニューが表示されないことがあります。

*2 他の方法（タイトルバー上の▭をクリックするなど）で最小化されたウィンドウは、この操作では元に戻すことはできません。また、全最小化操作を続けて行った場合は、最後の操作で最小化されたウィンドウのみを元に戻します。

*3 アプリケーションによっては、メニューバーの移動やサイズ変更を行ったウィンドウでは、動作しないことがあります。

全最小化操作のあと、ツールバーが消えた場合

全最小化操作（工場出荷状態では、右上コーナーから左方向に中央部までこする操作）を行ったあとに以下のような操作を行うと、ツールバーが消えることがあります。この場合、⊞を使用してWindowsを再起動してください。

＜操作＞ スタートメニューやタスクバーのアイコンメニューを表示した状態でデスクトップ領域をクリックする

各コーナーごとにスマートポインター連携1、2の機能を一時的に中止したい場合

→前ページ

使いかた 便利

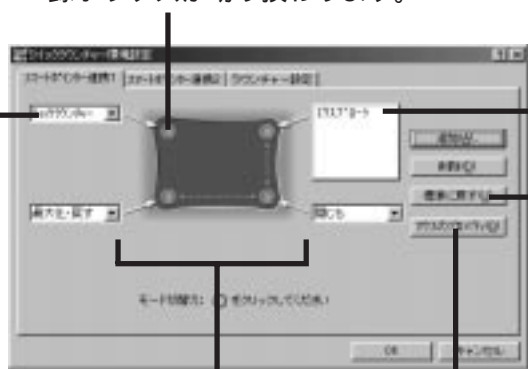
環境設定（スマートポインター連携1、2）

スマートポインター上の4コーナーの各●をダブルタップしたときの動作は、環境設定の「スマートポインター連携1」で変更することができます。また、3コーナーの●をこすったときの動作は、環境設定の「スマートポインター連携2」で変更することができます。

1 「環境設定」プログラムを起動する。

タスクバーのクイックラウンチャーアイコンをダブルクリックする。

2 「スマートポインター連携1」タブまたは「スマートポインター連携2」タブをクリックする。

画面上の各◎または⇨をクリックすると、選択ボックスと登録ボックスが切り換わります。

登録ボックス

ここをクリックすると、各設定が工場出荷時の状態に戻ります。

スマートポインター画面

スマートポインターやマウス端子に接続した外部マウスの動作の詳細を設定します。（→26ページ）

選択ボックス

◀クイックラウンチャーアイコンをクリックし、[環境設定] をクリックしても起動できます。

◀登録ボックス
画面上の◎または⇨が黄色の場合（登録ボックス表示時）は、ひとつの◎または⇨に対して複数のアプリケーションを任意に登録できます。一連の操作に必要なアプリケーションをまとめて登録しておくと便利です。

◀選択ボックス
画面上の◎または⇨が緑色の場合（選択ボックス表示時）は、すでに登録されている項目（ウィンドウの操作・キー押下操作・ラウンチャー起動）の中から、ひとつを選んで設定することができます。

3 登録ボックスにアプリケーションを登録・削除する。
または、選択ボックスからひとつの操作を選んで設定・解除する。

◀以降の画面は、左上コーナーの●を例にしています。

＜登録ボックスにアプリケーションを登録する場合＞

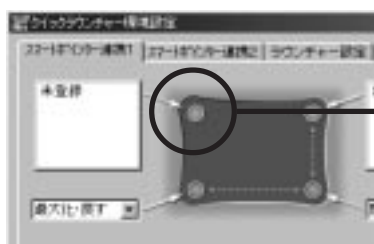
❷ 登録したいアプリケーションのプログラムアイコンを、登録ボックスにドラッグ＆ドロップする。

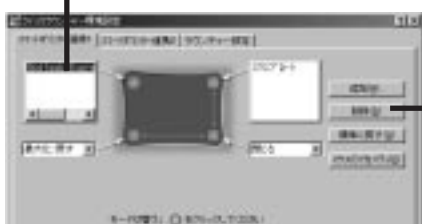
◀ドラッグ＆ドロップで登録する方法と[追加]ボタンで登録する方法の2とおりがあります。（→下記）

登録できるファイル
ショートカットファイルまたは実行ファイル（拡張子：EXE）です。
ただし、上記形式であっても、ファイルによっては登録できないものもあります。

[追加]ボタンで登録する方法

登録ボックスの項目のいずれかをクリックして反転表示させてから、

＜登録ボックスからアプリケーションを削除する場合＞

1 スマートポインター画面上の◎または⇨を クリック （◎または⇨を黄色にする）

2 登録ボックスの削除したい項目を クリック

◀選んだ項目が、反転表示されます。

3 クリック

＜選択ボックスから操作を選択する場合＞

1 スマートポインター画面上の◎または⇨を クリック （◎または⇨を緑色にする）

選んだ操作の動作について

- どのウィンドウもアクティブでない状態で「メニュー表示」機能を動作させると、「スタート」メニューが開きます。
- アプリケーションによっては、メニューバーの移動やサイズ変更を行ったウィンドウに対して「メニュー表示」機能を動作させた場合、先頭のメニューに移動しないことがあります。
- どのウィンドウもアクティブでない状態で「閉じる」機能を動作させると、「Windowsの終了」画面が開きます。
- 「サイズ変更」機能を実行後に、アクティブウィンドウの選択が解除される場合があります。

2 選択ボックスの右端の▼を クリック

3 項目の中から設定したい操作を選ぶ。

◀「なし」を選択すると、そのコーナー部は指で触れても反応しなくなります。キー入力時に右上や左上コーナーを「なし」に設定しておくと便利です。ただし、その際には、タスクバーのクイックラウンチャーアイコンのメニューで「パッドボタンを使わない」や「左上を使わない」「右上を使わない」にチェックマークを付けないでください。（→21ページ）

4 設定内容を確認して、[OK]をクリックする。

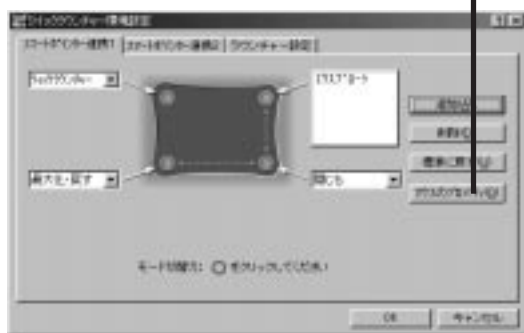
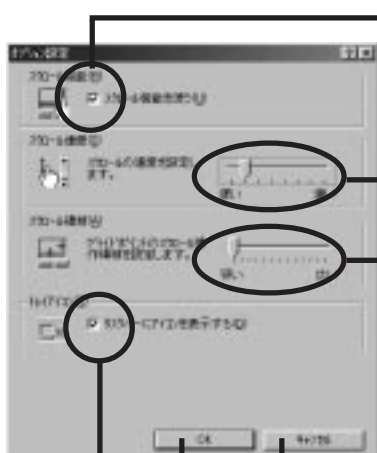
◀設定内容を保存して、環境設定を終わります。
[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、環境設定を終わります。

マウスのプロパティ

マウスのプロパティではスマートポインターや別売りのマウスの動作の詳細を設定できます。
ここでは、マウスのプロパティの主な設定について説明します。

1 「マウスのプロパティ」画面を開く。

「環境設定」プログラムの「スマートポインター連携1」または「スマートポインター連携2」の[マウスのプロパティ]をクリックします。

「マウスのプロパティ」の開きかた
下記の方法でも「マウスのプロパティ」画面を開くことができます。
- タスクバーのAlps Pointアイコンをダブルクリックする。
- 「コントロールパネル」の[マウス]をダブルクリックする。

2 各設定を行う。

＜ボタン設定画面＞

左ボタンを押したときの機能を設定します。

ボタンもしくは操作面をダブルクリックしたときの速度を調節できます。（ラウンチャー使用時のダブルタップ速度もここで調節されます。）

右ボタンを押したときの機能を設定します。

（→次ページ）

左ボタンと右ボタンを同時に押したときの機能を設定します。

「ボタン」設定画面のすべての設定（オプション設定の内容も含む）を標準の状態（＝工場出荷状態）に戻します。

◀スクロール機能（オートスクロール機能を含む）は、アプリケーションによって動作しない場合があります。
また、すばやく繰り返し動作させると、反応が遅くなる場合があります。

各設定画面の「デフォルト」ボタン
各画面ごとに、設定を標準の状態（＝工場出荷状態）に戻します。

<ボタンのオプション設定画面>

スマートポインターのスクロール機能を使用するときは、ここにチェックマークを付けます。

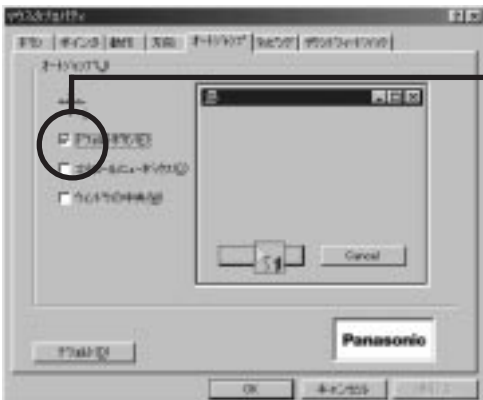
スクロール機能が有効の場合、その速度を調節します。

スマートポインターのスクロール操作領域を設定します。また、各コーナーの●の操作領域を変更したい場合も、ここで調節してください。スクロール領域の縦と横が交差した部分が各コーナーの●の操作領域になります。

変更した設定を保存せずにオプション設定を終わります。

変更した設定を保存してオプション設定を終わります。

タスクバーに「マウスのプロパティ」起動用のアイコンを表示したい場合は、チェックマークを付けます。

◀「マウスのプロパティ」の「ボタン」設定画面で、[オプション]ボタンをクリックすると、左記の画面が表示されます。

<動作設定画面>

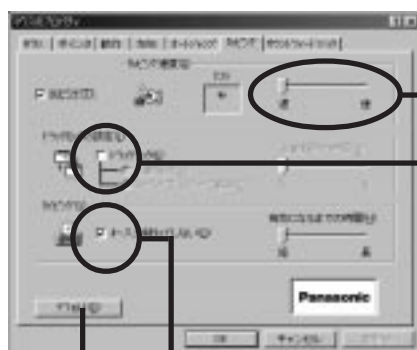
マウスカーソルの移動速度を調節します。ここで設定した値は、外付けのUSBマウスやシリアルマウスなどに対しても有効です。

◀「マウスのプロパティ」の[動作]タブをクリックすると、左記の画面が表示されます。

<オートジャンプ設定画面>

ここにチェックマークを付けておくと、ウィンドウを開いたときなどにカーソルが自動的にデフォルトのボタン位置に移動します。工場出荷時にはチェックマークが付けられています。

◀「マウスのプロパティ」の[オートジャンプ]タブをクリックすると、左記の画面が表示されます。

<タッピング設定画面>

操作面をタップする速度を調節できます。

ここにチェックマークを付けると、タップ操作でドラッグした後、手を離してもドラッグ状態を保持するように設定できます。また、保持状態の解除方法を「自動解除」と「タッピング又はクリックで解除」から選ぶことができます。「自動解除」を選んだ場合は、その時間を設定できます。

ここにチェックマークを付けると、キー入力時はスマートポインターをタップしても反応しません。「有効になるまでの時間」で、キー入力後、タップ機能を有効な状態に戻すまでの時間を「短⟷長」の間で設定します。工場出荷時には「短」に設定されています。必要に応じて調節し直してください。

「タッピング」設定画面のすべての設定を標準の状態に戻します。

◀「マウスのプロパティ」の[タッピング]タブをクリックすると、左記の画面が表示されます。

お願い

「タッピング又はクリックで解除」に設定している場合は、ドラッグロック中には、スタンバイや休止状態に入らないでください。リジューム後にディスプレイに何も表示されなくなります。その場合は操作面をタップまたはボタンをクリックしてください。

3 設定を終了する。

[適用]をクリックすると、変更内容を保存します。マウスのプロパティ設定は終了しません。

[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、マウスのプロパティ設定を終わります。

[OK]をクリックすると、変更内容を保存して、マウスのプロパティ設定を終わります。

◀終了操作は、「ボタン」「タッピング」などの各設定画面から行うことができます。
（左記画面は一例です。）

ラウンチャー

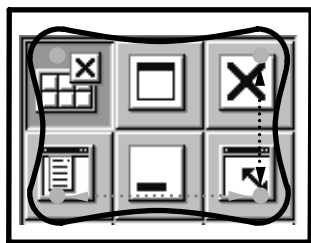
ラウンチャー画面（下記）から操作を選ぶだけで、登録されているウィンドウ操作を行ったり、Enter、Esc、Tab キーの押下操作を行ったりすることができます。また、あらかじめ登録しておいたアプリケーションを起動したりすることもできます。
ラウンチャー画面には、最大24個の操作を登録できます。いろいろな操作を登録しておきたいときに便利です。
ラウンチャーには、次の２種類の操作モードがあります。

◀各操作モードは環境設定（ラウンチャー設定）（→32ページ）で切り換えることができます。工場出荷時には、パッド操作モードに設定されています。

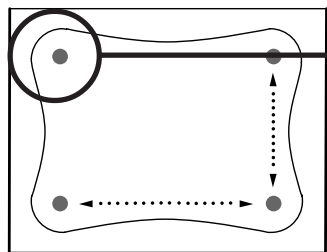
＜パッド操作モード＞

パッド操作モード時には、スマートポインターは6区画または9区画に分けて管理されています。スマートポインターの各区画は、ラウンチャー画面の各区画に対応しています。スマートポインターの各区画をダブルタップすると、その区画に対応したラウンチャー画面の区画に表示されている操作を行うことができます。

◀何区画に分けるかは、環境設定（ラウンチャー設定）（→32ページ）で切り換えることができます。工場出荷時には、6区画に設定されています。

スマートポインターとラウンチャー画面の対応図（一例）

＜マウス操作モード＞

マウス操作モード時には、スマートポインターは区画管理されていません。通常どおりスマートポインターやキーボードを使ってラウンチャー画面のアイコンの位置にカーソルを移動してからダブルクリックすると、登録されている操作を行うことができます。

1 ラウンチャーを起動する。

スマートポインターの左上コーナーの●をダブルタップする。

ラウンチャーを起動するときは
・タスクバーにクイックラウンチャーアイコンが表示されていることを確認してください。（→20ページ）
・スマートポインター上のコーナーの●をダブルタップすると、ラウンチャーが起動するように、「環境設定（スマートポインター連携1）」（→23ページ）で設定しておいてください。工場出荷時には、左上コーナーの●をダブルタップすると起動するように設定されています。

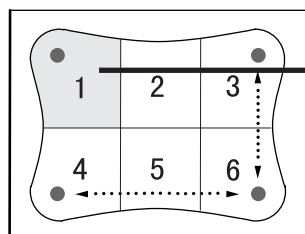
ラウンチャー起動時は

スマートポインター連携1や2の機能は働きません。（→21ページ）

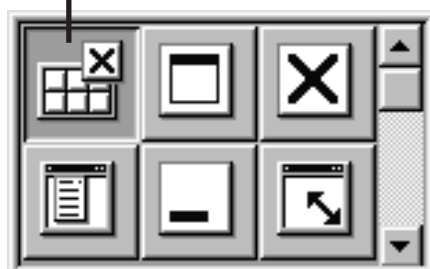
クイックラウンチャー機能

2 登録されている操作を実行する。

<パッド操作モード時>

スマートポインター

スマートポインターの区画１をダブルタップする。

ラウンチャー画面の区画１に表示されている操作が実行されます。操作実行後、ラウンチャー画面は自動的に閉じられます。

ラウンチャー画面

◀パッド操作モード時には、カーソルをラウンチャー画面の外に移動できません。また、ラウンチャー画面上でのカーソルの位置は、操作の対象と一致しません。例えば、区画１のアイコンが選ばれていても、スマートポインター上の区画６をダブルタップすると、区画６に表示されている操作が実行されます。

ダブルタップ時のお願い

・２回目のタップ時にも、すばやく手を離してください。操作面に触れたままにするとうまく動作しません。

・スマートポインター上の各区画の中央部をタップしてください。各区画の境界部をタップするとうまく動作しないことがあります。

ラウンチャー画面のスクロール

スマートポインター上の縦矢印をこすると、ラウンチャー画面をスクロールさせることができます。また、カーソルキーを使ってスクロールすることもできます。

<マウス操作モード時>

ラウンチャー画面

ここを選んで（紫色表示させて）ダブルクリック

選ばれたアイコンの操作が実行されます。操作実行後、ラウンチャー画面は自動的に閉じられます。

◀選択したいアイコンをクリックすると、紫色表示されます。また、カーソルキーを使ってアイコンを選ぶ（紫色表示させる）こともできます。

ラウンチャー画面のサイズ

必要に応じて変更できます。

画面のサイズにより、縦スクロールバーが表示されます。また、その際に、アイコンが半分隠れて表示される場合がありますが、動作には問題ありません。

3 ラウンチャーを終了する。

<パッド操作モード時>

ラウンチャー画面にを表示させた状態で、そのアイコンに対応したスマートポインターの区画をダブルタップする。

<マウス操作モード時>

ラウンチャー画面のを選んで（紫色表示させて）、ダブルクリックする。

◀パッド操作モード時は、右ボタンをクリックしてラウンチャーを終了することもできます。

◀マウス操作モード時は、通常のウィンドウ終了操作（タイトルバー上のをクリックするなど）でラウンチャーを終了することもできます。

使いかた

便利

各アイコンの機能一覧

ラウンチャー画面のアイコン上にカーソルを置くと、そのアイコンの機能説明が、画面上に数秒間表示されます。

- ラウンチャーを閉じる
- ウィンドウを最大化する/戻す
- ウィンドウを閉じる
- ウィンドウのメニューに移動する
- ウィンドウを最小化する
- ウィンドウのサイズを変更する
- Esc キー
- Tab キー
- Enter キー
- スタートメニューを開く
- Windowsの終了メニューを開く
- メール自動送受信機能を起動する
- Outlook TM Express 5を起動する
- ワードパッドを起動する
- ダイヤルアップネットワーク画面を開く
- アクセスポイント設定画面を開く
- クイックラウンチャー環境設定画面を開く

・どのウィンドウもアクティブでない状態でを実行した場合、「スタート」メニューが開きます。

・どのウィンドウもアクティブでない状態でを実行した場合、「Windowsの終了」画面が表示されます。

・メニューバーの移動やサイズ変更を行ったウィンドウに対してを実行した場合、先頭のメニューに移動しないことがあります。

・実行後に、アクティブウィンドウの選択が解除される場合があります。

・アプリケーションによっては、メニューを表示中に、やなどサイズを変更するような機能を動作させた場合、メニュー表示が残ることがあります。
また、各ウィンドウ操作機能が動作しない場合があります。

クイックラウンチャー機能

環境設定（ラウンチャー設定）

環境設定で、ラウンチャー画面に新しく操作を登録したり、すでに登録されている操作を削除したりします。

1 「環境設定」プログラムを起動する。

タスクバーのクイックラウンチャーアイコン をダブルクリックする。

2 「ラウンチャー設定」タブをクリックする。

登録されている操作に対応したアイコンが表示されています。

操作モードを切り換えます。
工場出荷時は、パッド操作モードに設定されています。

パッド操作モード時に、スマートポインターを６分割して管理するか、９分割して管理するかを切り換えます。

◀クイックラウンチャーアイコン をクリックし、[環境設定] をクリックしても起動できます。

各操作モードについて
詳しくは→30、31ページ

◀工場出荷時には６分割に設定されています。

使いかた
便利

3 ラウンチャー画面への登録を変更する。

＜アプリケーションを登録する場合＞

登録したいアプリケーションのプログラムアイコンを、登録ボックスにドラッグ＆ドロップする。

◀ドラッグ＆ドロップで登録する方法と[追加]ボタンで登録する方法の2とおりがあります。（→下記）

登録できるファイル

- ショートカットファイルまたは実行ファイル（拡張子：EXE）です。ただし、上記形式であっても、ファイルによっては登録できないものもあります。
- 最大24個まで登録できます。

＜アプリケーションを削除する場合＞

削除できないアイコン

[追加]ボタンで登録する方法

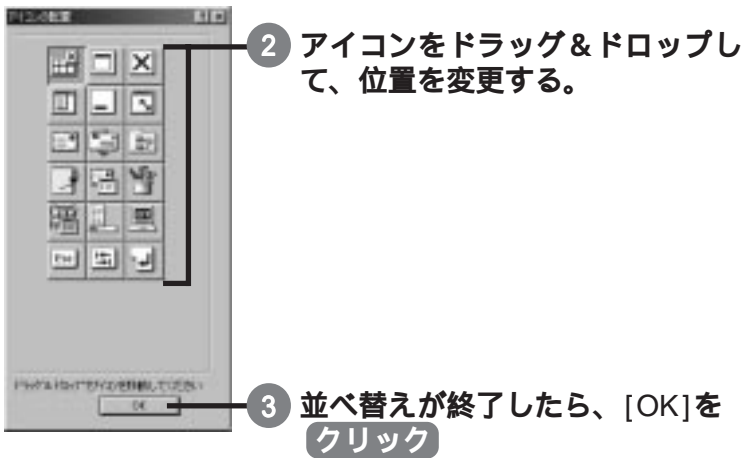
クイックラウンチャー機能

<ラウンチャー画面のアイコンの順番を並べ替える>

使う頻度の高い順に並べ替えておくと、ラウンチャー操作がしやすくなります。

❶ [アイコンの配置]を クリック

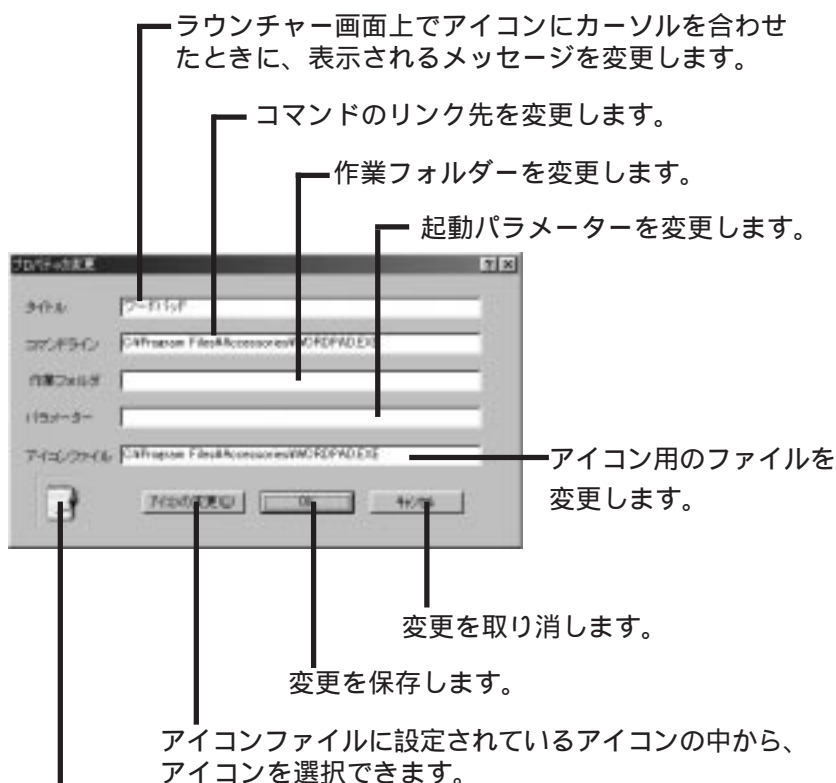
❷ アイコンをドラッグ＆ドロップして、位置を変更する。

❸ 並べ替えが終了したら、[OK]を クリック

アイコンの移動順序

アイコンは右記のように順番付けられています。
例えば、１を４の位置に移動すると、
２が１の位置へ、
３が２の位置へ、
４が３の位置へと
いうように、順に
空いた個所を埋めるように移動します。

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13	14	15
16	17	18
19	20	21
22	23	24

＜プロパティを変更する＞

下記の「プロパティの変更」画面が表示されます。

「アイコンの変更」で選択したアイコンが表示されます。

4 設定内容を確認して、[OK]をクリックする。

◀[OK]をクリックすると、設定内容を保存して、環境設定を終わります。
[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、環境設定を終わります。

「スタンバイ」と「休止状態」機能

「スタンバイ」や「休止状態」機能を使って終了すると、アプリケーションソフトを終了することなく、電源の入/切を行うことができます。電源を入れると、電源を切る前に使用していたアプリケーションソフトやファイルが画面に表示されるので、すぐに操作を始めることができます。

＜スタンバイと休止状態の違い＞

	状態の保存先	立ち上がり速度	電源の供給
スタンバイ	メモリー	速い	必要
休止状態	ハードディスク	やや遅い	不要

お願い

「スタンバイ」や「休止状態」機能を使う前に、必要なデータは保存してください。

使いかた

便利

「スタンバイ」や「休止状態」機能を使って終了する

1 スタンバイまたは休止状態を設定する。

❶ [スタート]→[Windowsの終了]をクリックし、[再起動する]を選んで[OK]を クリック

❷ 「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに F2 を押す。

❸ ← → を押して「省電力管理」メニューを表示する。

❹ 「パワースイッチ」を「サスペンド」または「ハイバーネーション」に設定する。

❺ ← → を押して「終了」メニューを表示する。

❻ 「設定を保存して終了」を選んで Enter を押す。

◀設定はセットアップユーティリティーで行います。工場出荷時には、「スタンバイ（サスペンド）」に設定されています。

◀ F2 を押すタイミングが遅いとセットアップユーティリティーは起動しません。
その場合、Windowsを終了してやり直してください。

◀パワースイッチの行にカーソルをあわせて Enter を押し、「サスペンド」または「ハイバーネーション」を選びます。

◀セットアップユーティリティーでは「スタンバイ」を「サスペンド」、「休止状態」を「ハイバーネーション」と呼びます。

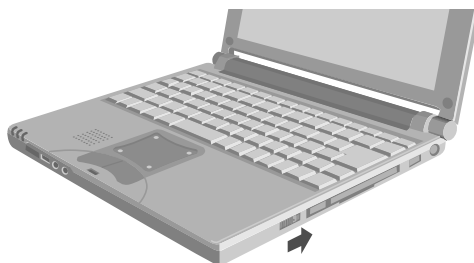
2 電源スイッチを後方へスライドし、ピッという確認音が鳴ってから手を離す。

◀ Fn + F4 でスピーカーをオフにしたり、Fn + F5 で音量をゼロに設定している場合、音は鳴りません。→128ページ

お願い

電源スイッチを４秒以上スライドしたままにしないでください。４秒以上スライドし続けると、ピーという連続音が鳴り、スタンバイや休止状態に入らず自動的に電源が切れます。

操作を再開する

電源スイッチをスライドする。

◀バッテリー容量が少ない状態でスタンバイや休止状態に入るとリジュームできない場合があります。その場合はACアダプターをつないでから電源を入れてください。

以下の場合は、スタンバイ（タイムアウト機能を含む）や休止状態に入らないでください

これらの機能や周辺機器が正常に動作しない場合があります。

- 通信ソフト動作中・ネットワーク使用中
- オーディオの録音・再生中
- 動画のキャプチャー保存中や再生中
- PCカード（SCSI・ATAカード）などの周辺装置の使用中
- フロッピーディスクドライブ・ハードディスクドライブの使用中
- CD-ROMドライブ・USB機器などの使用中

「スタンバイ」や「休止状態」の処理中およびリジューム時にしてはいけないこと

- 処理中はマウスなど、その他のシリアルデバイスを操作しないでください。
  操作を再開したときシステムに認識されないことがあります。そのようなときには、本体を再起動するか、デバイスを初期化し直してください。
- 処理中は、リセットスイッチを押さないでください。
  保存していないデータは失われます。
- リジューム時は、Windowsが完全に起動するまで、キーボード、スマートポインターなどを操作しないでください。

「スタンバイ」や「休止状態」に入れない

- WindowsやMS-DOS以外のオペレーティングシステム（OS）ではディスプレイの電源が正常に復帰しなかったり、スタンバイや休止状態に入れないことがあります。
- 常駐ソフトウェアがある場合は、スタンバイや休止状態に入れないことがあります。

他の方法で「スタンバイ」や「休止状態」に入るには

＜スタンバイへの入りかた＞

- Fn + F10 を押す。
- [スタート]→[Windowsの終了]をクリックして「スタンバイ」を選ぶ。
- タスクバーの [アイコン] を右クリックして「スタンバイ」を選ぶ。

＜休止状態への入りかた＞

- Fn + F7 を押す。

用 語

リジューム　：スタンバイや休止状態から、次に電源を入れたときに元の状態に戻ることを言います。

使いかた　便利

通信を行う前に

インターネットに接続したり、電子メールの送受信を行ったりするためには、まず、通信環境を整える必要があります。
以下に通信を行うための操作の流れについて説明します。

通信機器を準備する（接続・設置） →39ページ

まず、通信機器を電話回線に接続する、適当な場所に設置するなどの準備を行います。
次の3とおりの場合に分けて説明します。

・ワイヤレスステーションを使う場合 ワイヤレスモデル
・内蔵モデムを使う場合 モデムモデル
・携帯電話またはPHS電話を使う場合

プロバイダーに加入し、通信の設定をする →45ページ

インターネットを行うためには、いずれかのプロバイダー（接続サービスを行う会社）に加入する必要があります。
「インターネットスターター」を使用すると、プロバイダーHi-HOにフリーダイヤルでダイヤルアップ接続し、オンライン上で加入手続きを行うことができます。また、手続き終了後、自動的にインターネットへの接続設定やメールアカウントの設定が行われます。
複雑な通信設定を自分で行う必要がないのでとても便利です。

◀Hi-HO以外のプロバイダーに加入される場合は、各プロバイダーにお問い合わせのうえ、加入手続きを行ってください。また、加入後の通信設定も各プロバイダーの指示に従って行ってください。

新しく接続先を設定する →50ページ

複数のアクセスポイントを使い分けたり、通信機器を使い分けたりする場合、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成します。

通信を行う

インターネットに接続したり、電子メールを送受信したり、また、専用のアプリケーションソフトを使用するとFAXの送受信を行ったりすることができます。

用 語
アクセスポイント　：プロバイダーへの接続ポイントです。あなたの使用場所に一番近いところを選びます。

通信機器を準備する

ここでは、次の3つの場合に分けて、機器の接続（設置）のしかたについて説明します。

＜ワイヤレスステーションを使う場合＞ **ワイヤレスモデル**
ワイヤレスステーションを電話コンセントに接続しておけば、コンピューター本体はコードレス状態で使用できるので便利です。

＜内蔵モデムを使う場合＞ **モデムモデル**
内蔵されているモデムと電話コンセントをつないで通信を行います。

＜携帯電話やPHS電話を使う場合＞→41ページ
専用のケーブル（別売り）にお手持ちの携帯電話やPHS電話をつなげば、外出先などでも通信ができます。

◀「インターネットスターター」を使って自動的に通信設定を行うためには、ワイヤレスステーションまたは内蔵モデムをご使用ください。携帯電話やPHS電話からでは、「インターネットスターター」はご使用になれません。

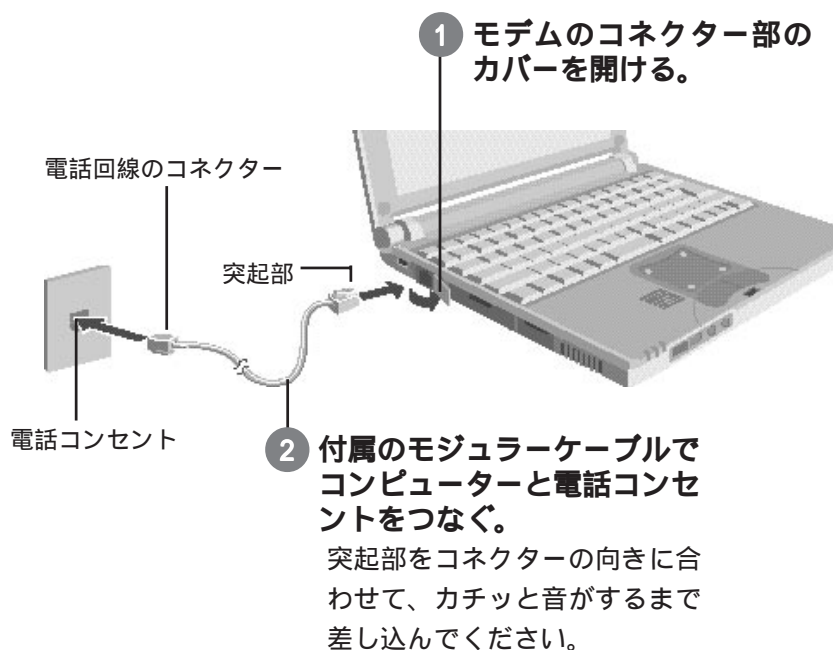
ワイヤレスステーションを使う場合（ワイヤレスモデル）

ワイヤレスステーションの設置など使いかたについては『ワイヤレスステーション 取扱説明書』をご覧ください。

内蔵モデムを使う場合（モデムモデル）

電話回線に接続する

1 モデムのコネクター部のカバーを開ける。

2 付属のモジュラーケーブルでコンピューターと電話コンセントをつなぐ。
突起部をコネクターの向きに合わせて、カチッと音がするまで差し込んでください。

◀日本国内の一般電話回線で使用してください。また、電話回線のコネクターの形状によっては工事が必要な場合があります。
→次ページ

◀取り外すときは、突起部を押さえながら引き抜いてください。

使いかた

コミュニケーション

通信機器を準備する

使用する電話回線について

モデムは、日本国内の一般電話回線で使用してください。

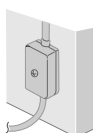
・会社、事務所等の内線電話回線等には、接続しないでください。
（→8ページ「安全上のご注意」）

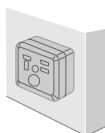
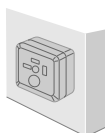
・以下の特性が異なる回線に接続すると、本機が故障する恐れがあります。

NTTのピンク電話の回線
ホームテレホン（接続ボックス）
玄関ドアホン等
日本国外の回線

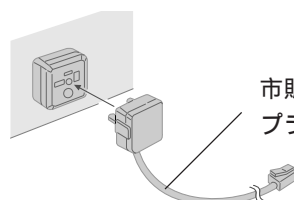
電話回線のコネクターの種類

電話回線のコネクターの種類は、モジュラージャック、ローゼット、3端子（または4端子）ジャックなどがあります。電話回線とのつなぎかたは、端子の種類によって異なります。モジュラージャックの場合、付属のモジュラーケーブルをそのままつなぎます。

<ローゼットの場合>

最寄りのNTTに連絡して、モジュラージャックの取り付け工事を依頼してください。
資格のない方が工事をすることは認められていません。

<３端子（または４端子）ジャックの場合>

以下の2とおりの方法があります。

・最寄りのNTTに連絡して、モジュラージャックの取り付け工事を依頼してください。
資格のない方が工事をすることは認められていません。

・一方がモジュラープラグで、他方が3端子（または4端子）プラグのケーブル（市販品）を用意し、以下のようにつなぎます。

本機のご使用にあたって、NTTのレンタル電話機が不要となる場合は、NTTへご連絡ください。ご連絡いただいた日をもって、「機器使用料」は不要となります。詳しくは、局番なしの116番（無料）へお問い合わせください。

携帯電話やPHS電話を使う場合

別売りの専用ケーブルでコンピューターと携帯電話またはPHS電話を接続すると、外出先などでも通信を行うことができます。また、メールの自動送受信機能を利用することができます。（→44ページ）
ただし、ワイヤレス通信モジュール（ワイヤレスモデル のみ）と同時に使用することはできません。

接続のしかた

1 操作を終了し、コンピューター本体の電源を切る。

2 専用ケーブルでコンピューターと携帯電話またはPHS電話を接続する。

◀別売りの専用ケーブル：
携帯電話接続ケーブル
PHS電話接続ケーブル
詳しくは、148ページをご覧ください。

◀接続のしかた／取り外しかたのイラストは、携帯電話接続ケーブルを使用する場合を例にしています。

お願い

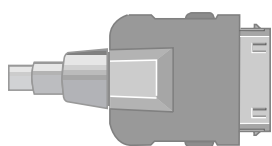
「ワイヤレスコムポート」のカバー
カバーは180度まで開く構造になっています。持ち運びの際など無理な力がかからないようご注意ください。

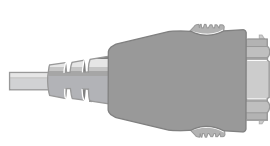
コンピューターの「ワイヤレスコムポート」への接続
ネジが付いている面を下にして、カチッと音がするまで、まっすぐに接続してください。

電話の「外部接続端子」への接続
携帯電話やPHS電話の説明書もご覧のうえ、向きに注意してまっすぐに接続してください。決して無理には押し込まないでください。少しでも抵抗があるときは向きを変えて接続してみてください。

・ケーブルに引っかかるなど、無理な力がかかったときに、コンピューター側のコネクターは外れる構造になっています。無理な力がかかって外れた場合は、ロック機能が弱くなるなど、故障の原因となりますので注意してください。

専用ケーブルのコネクターの種類

コネクター（A）

携帯電話接続ケーブル
PHS電話接続ケーブル
（コンピューターへ）

コネクター（B）

携帯電話接続ケーブル
（携帯電話へ）

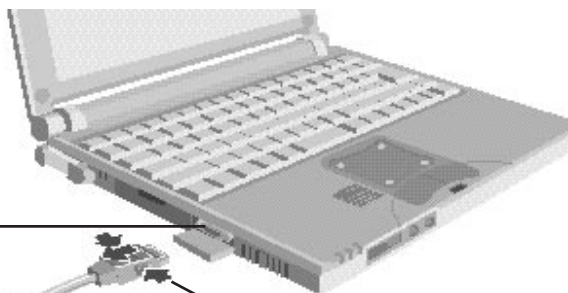
コネクター（C）

PHS電話接続ケーブル
（PHS電話へ）

取り外しかた

通信が終了したらケーブルを取り外しておいてください。

1 操作を終了し、コンピューター本体の電源を切る。

2 専用ケーブルを取り外す。

1. コネクター(A)の両サイドのロックボタンを押しながら、まっすぐに引き抜く。
2. 携帯電話接続ケーブルの場合：
   コネクター(B)の両サイドのロックボタンを押しながら、まっすぐに引き抜く。
   PHS電話接続ケーブルの場合：
   コネクター(C)の上面の△マーク部分を押しながら、まっすぐに引き抜く。
3. ワイヤレスコムポートのカバーを閉じる。

◀ コネクターA～Cについては、前ページをご覧ください。

お願い

無理に引き抜こうとしないでください。故障の原因になります。

専用ケーブルの取り扱い上のお願い

●コネクター部には、強い力をかけないでください。故障の原因になります。
持ち運ぶ際には必ずケーブルを取り外し、コネクター部に強い力をかけないようご注意ください。

●端子部分には触れないでください。接触が悪くなったり、故障の原因になります。

●通信中は磁石などを近づけないでください。磁石などを近づけると、正常に通信できないことがあります。

ワイヤレス通信モジュールの電源のON/OFF

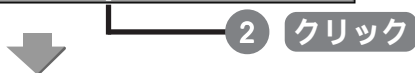
ワイヤレスコムポートに接続した携帯電話やPHS電話を使用する場合は、内蔵のワイヤレス通信モジュールの電源をOFFにする必要があります。
また、内蔵のワイヤレス通信モジュールを使って通信する場合（ワイヤレスモデル のみ）は、この電源をONにする必要があります。

<ワイヤレス通信モジュールの電源をOFFにする場合>

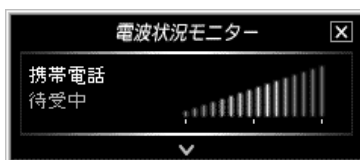
◀工場出荷時には、OFFになっています。
また、ワイヤレス通信モジュールで通信を行っていないときには、ワイヤレスコムポートに電話機をつないで通信を始めると自動的にワイヤレス通信モジュールの電源がOFFになります。左記操作の必要はありません。

1. 電波状況モニターのアイコンを ダブルクリック

「電波状況モニター」画面が開きます。

2. クリック

「ワイヤレス通信モジュール電源」をOFFにすると、ワイヤレスコムポートに接続した電話機の電波状況が表示されます。（数値は目安です。）

ここをクリックすると、ON/OFFのボタンとバージョン情報ボタンが表示されなくなります。
（もう一度、クリックすると元に戻ります。）

電波状況モニターのアイコン
電波の状況に応じて、下記のいずれかのアイコンがタスクバーに表示されます。

<ワイヤレス通信モジュールの電源をONにする場合>

◀ ワイヤレスモデル のみに必要な操作です。（詳しくは、「ワイヤレスステーションの取扱説明書」をご覧ください。）
モデムモデル では、ONにすることができません。

1. 電波状況モニターのアイコンを ダブルクリック
2. 「電波状況モニター」画面で、ワイヤレス通信モジュールの電源[ON]を クリック

電波状況モニターについて

お使いの電話機の種類によっては、電波状況モニターが正しく動作しないことがあります。
（電波状況が表示されない、また接続できているのに未接続と表示されるなど）
その場合は、電話機の電波状況表示をご利用ください。

通信機器を準備する

メールの自動送受信機能（→64ページ）を使う場合

携帯電話やPHS電話をコンピューターのワイヤレスコムポートに接続すると、メールを自動的に送受信するよう設定することができます。

<メールの自動送受信機能を有効にするには>

①タスクバーのクイックラウンチャーアイコンをクリックする。
（アイコンが表示されていない場合は、[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[クイックラウンチャー]をクリックしてください。）

②プルダウンメニューから「携帯電話/PHS接続でメールの自動送受信を行わない」を選んでチェックマークを外す。

・メールの自動送受信機能を有効にしていて、メール自動送受信のためのアクセスポイント設定を行っていない場合、ワイヤレス通信モジュールの電源をOFFにすると、「アクセスポイントの設定が行われていません...」というメッセージが表示されます。
また、ダイヤルアップの設定を行っていない場合は、設定を行うかどうかのメッセージが表示されます。
プロバイダーへ加入してからでないと、どちらも設定することができません。その場合は、[キャンセル]をクリックしてください。

プロバイダーへの加入→45ページ
ダイヤルアップ接続の設定→50ページ
アクセスポイントの設定→64ページ

PHS電話でFAX送信する（まいと～く FAX V3 Liteを使う→75ページ）場合

・アプリケーション側でモデムの設定をする場合は、PHS電話接続ケーブルを取り外した状態で行ってください。
・PHS電話を使ってFAX送信するには、PTE接続サービスを利用する必要があります。PTE接続サービスについてはオンラインマニュアルの「ワイヤレスコムポートコマンド一覧」（→126ページ）をご覧ください。

プロバイダーに加入し、通信の設定をする(初回のみ)

インターネットに接続するにはプロバイダー（接続サービス会社）に加入する必要があります。
「インターネットスターター」を使うと、プロバイダーHi-HO（以後、Hi-HO）への加入手続きが画面上で簡単にできます。また、手続き終了後、インターネット接続やメールの送受信のための複雑な設定が自動的に行われるので、すぐにインターネットが使えて便利です。
ここでは「インターネットスターター」を使ってHi-HOに加入する方法について説明します。

◀Hi-HOに加入される場合は必ず、「インターネットスターター」をご利用ください。Hi-HO以外のプロバイダーに加入する場合は、デスクトップの「インターネットへ接続」を使用してください。

準備するもの

Hi-HOに電話をかけるために電話回線と接続します。（→39ページ）
入会の前に、あらかじめ次の準備をしておきましょう。

Hi-HOで利用できるクレジットカード
JCB・VISA・MASTER・DC・UC・ミリオン・NICOS・AMEX・ダイナース・Panaカード・松下カード（1999年9月現在）

＜申し込みコースを決める＞
「Hi-HOのご案内」のパンフレット（付属）を見て決めておきます。

＜ご本人名義のクレジットカードを準備する＞
カードの会員番号や有効期限を入力する必要があります。

＜希望するメールアカウントを決める＞
電子メールをやり取りするときに必要な「メールアカウント」（利用者を示す名称）の希望を決めておきます。
（「松下太郎」さんのメールアカウントの例）

Matsushita_Taro
Matsushita
M-Taro
Taro_chan

◀希望のメールアカウントが、すでに誰かに割り当てられている場合、そのメールアカウントは登録できません。

メールアカウントとして使用可能な文字
英数字とハイフン（-）、アンダーバー（_）を使い、4文字以上、16文字以下で決めます。

◀メールアカウントは、メールアドレスの一部として使用されます。
（例）
Matsushita_taro@dab.hi-ho.ne.jp

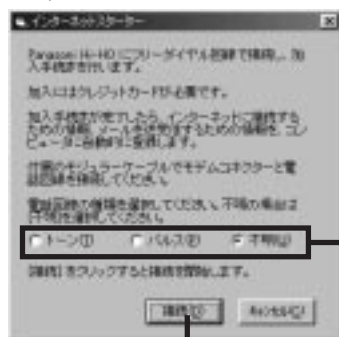
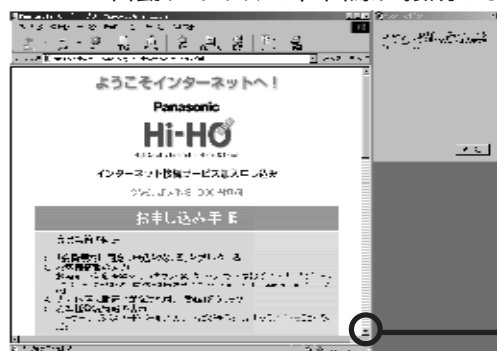
「インターネットスターター」による加入、設定について

- Hi-HOにフリーダイヤルで接続するため、加入手続き中の電話料金はかかりません。
- 加入・設定時は、内蔵モデムもしくはワイヤレスステーションモデムから通常のアナログ電話回線を使って操作してください。携帯電話やPHS電話は使用できません。また、ISDN回線は使用できません。
- ホームページ閲覧ソフトとして「Internet Explorer 5.0」、メールソフトとして「Outlook Express 5」を使用することを前提として、自動的に通信設定を行います。その他のソフトウェアをご使用になる場合は、別途、通信設定を行ってください。

プロバイダーに加入し、通信の設定をする（初回のみ）

Hi-HOに加入し、通信の設定をする

設定が終わるまでに、約15～20分かかります。
下記手順にしたがって、続けて操作してください。

1 デスクトップの[インターネットスターター]アイコンをダブルクリックする。

Hi-HOへ自動ダイヤルし、回線に接続します。

▼ をクリックし、お申し込み手順などを、よく読む。

（次ページへ続く）

お願い

[コントロールパネル]→[パスワード]でWindows起動時のパスワードを設定している場合は、必ずWindows起動時にパスワードを入力しておいてください。

◀電話回線の種類について
- トーン：ダイヤル時にピッポッパッと音がする回線。
- パルス：ダイヤル時にピッポッパッと音がしない回線。
- 不明　：トーンかパルスかが不明な場合に選んでください。まず、トーンで接続を開始し、つながらなければ、パルスで接続し直すかどうかの確認メッセージが表示されます。

◀このとき、[終了]をクリックすると、接続を切断し、「インターネットスターター」が終了します。

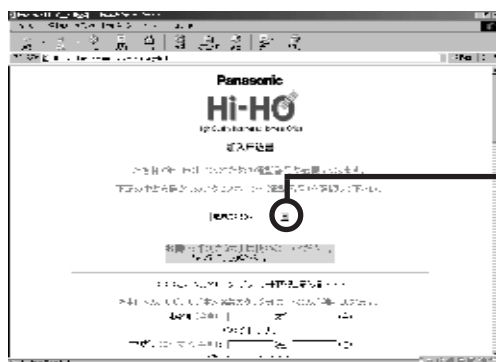
回線がつながらないときは

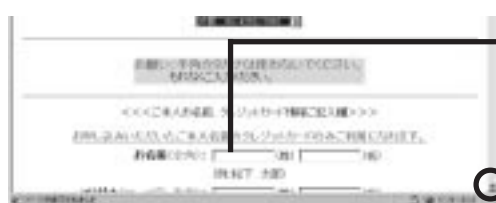
- 話し中の場合（回線が混雑しているとき）は、モジュラーケーブルの接続などを確認し、少し待ってから「インターネットスターター」の操作をし直してください。
- 電話回線の種類の設定が正しいか確認してください。

❶ ▼をクリックし、会員規約を、よく読む。

❷ クリック

2 「加入申込書」に必要事項を入力する。

各欄の入力例や説明をよく読んで入力してください。

❶ ▼を クリック

❷ 使用場所に一番近いアクセスポイントを クリック

❶ Tab を押すとカーソルが表示されるので、入力する。

❷ ▼をクリックし、最後まで入力する。

入力内容をよく確認し、クリック

お願い

加入申込書には「ご自宅ファックス」、「お勤め先・学校名」、「お勤め先電話番号」以外は必ずご記入ください。「ご自宅住所」には、ビル名や部屋番号などまできちんと入力してください。きちんと入力していないと、Hi-HOから資料などを郵送できない場合があります。

全角と半角（ローマ字・数字）

各項目とも、指定の通りに入力してください。 Alt ＋ 半角/全角 を押すごとに全角入力モードと半角入力モードが切り 換わります。

項目間のカーソル（Ｉ）移動

Tab を押す：　次の項目へ

Shift ＋ Tab を押す：　一つ前の項目へ

「性別」

該当する方の○をクリックし、◉にします。

数字を入力する項目

「生年月日」やクレジットカードの「有効期限」など、１桁の数字を入力する場合、「03」のように数字の前に0を付けてください。

入力を間違えたら

間違えた文字の右側をクリックすると、カーソルが表示されます。 Back space を押すと、カーソルの左となりの文字を消すことができます。

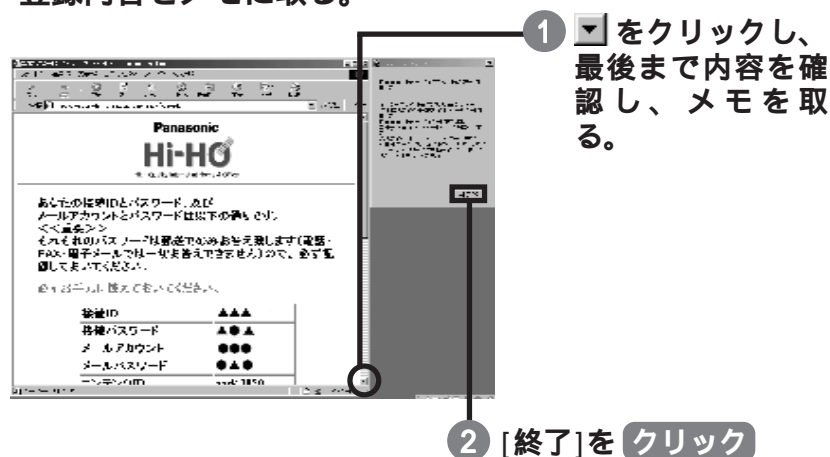
お願い

[登録]ボタンは、ダブルクリックしないでください。2重に登録される場合があります。

加入手続きが終わると、Hi-HOに登録された情報が表示され、その情報がコンピューターに自動で設定されます。

3 登録内容をメモに取る。

❶ ▼をクリックし、最後まで内容を確認し、メモを取る。

❷ [終了]を クリック

＜メモ欄＞

接続ID	
接続パスワード	
メールアカウント	
メールパスワード	

お願い

接続ID、パスワード、メールアカウントなどは忘れないように必ずメモを取って残しておいてください。

登録内容のファイル保存

Hi-HOに登録された情報はCドライブの「My Documents」フォルダーに「hi-ho.txt」というファイル名で保存されます。このファイルを開いて、参照することができます。（→『セットアップ編』「文書の呼出（ファイルを開く）」）

◀表示されたメールアカウントを使用できるようになるまでには、約3時間かかります。

用 語

接続ID：プロバイダーへの接続時に会員であることを証明するものです。
接続パスワード：パスワードを指定することで、電話回線を他の人に使用されるのを防ぎます。
メールアカウント：電子メールをやり取りするときに、利用者を示します。
メールパスワード：電子メールを無断で使用されるのを防ぐパスワードです。
電子メールアドレス：電子メールの宛先（実際はプロバイダーが設置している「メールサーバー」というコンピューターの中の番地）です。

正式な会員証が届いたら

加入後、約10日後に、正式な会員証や説明書などの書類が郵送されます。
加入時にメモした登録情報と郵送された書類に違いがないか確認してください。
まれにHi-HO側の都合により「接続パスワード」などが、変更されていることがあります。そのような場合は、下記を参照して設定を変更してください。

設定内容を変更するとき

接続パスワードが変更になったときやコンピューターの再インストール後、通信の設定を再度行いたいときには、「インターネットスターター」を使用して再設定することができます。

1 デスクトップの[インターネットスターター]アイコンをダブルクリックする。

◀再インストール後、再設定する場合は、まず「ダイヤルアップネットワーク」で新しい接続を作成してから（→50ページ）、左記の操作を行ってください。

2 設定内容を変更する。

ダイヤルアップネットワーク名
ダイアルアップネットワークとは、プロバイダーに接続する際のアクセスポイントとアクセスポイントへの接続方法（電話回線の種類、モデムなど）を設定したものです。
「インターネットスターター」では「Panasonic Hi-HO」という名前で自動設定されます。

◀再インストール後の再設定時には、▼をクリックして、新しく作成したダイヤルアップネットワーク名を選んでください。

新しく接続先を設定する

複数のアクセスポイントを使い分けたり、通信機器を使い分けたりする場合、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成します。ここでは、その方法について説明します。

1 [スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ダイヤルアップネットワーク]をクリックする。

2 新しく接続を作成する。

❶ 新しく作成する接続先に名称を付ける。

（次ページに続く）

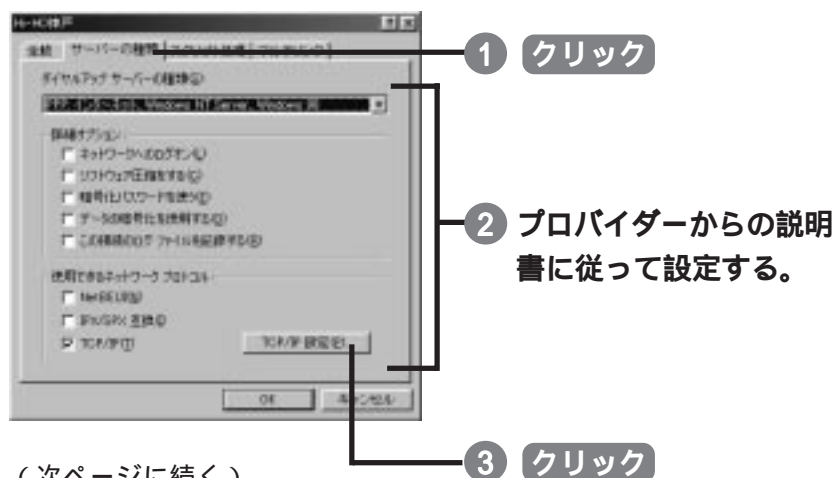
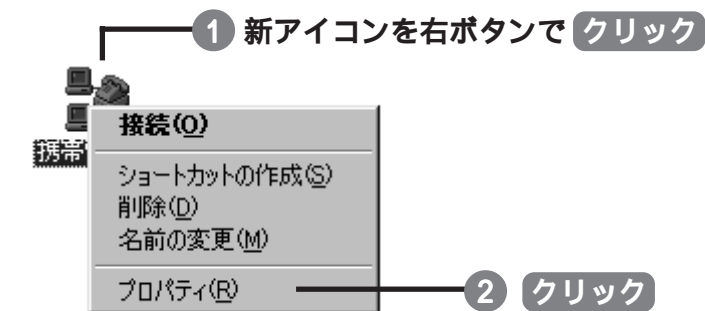
通信機器の使い分けとは
モデムモデル や
ワイヤレスモデル で、携帯電話やPHS電話を専用ケーブルに接続して通信する場合など

◀初めてダイヤルアップネットワークを起動したときには、「ダイヤルアップへようこそ」画面が表示されるので、[次へ]をクリックしてください。

モデムの選択

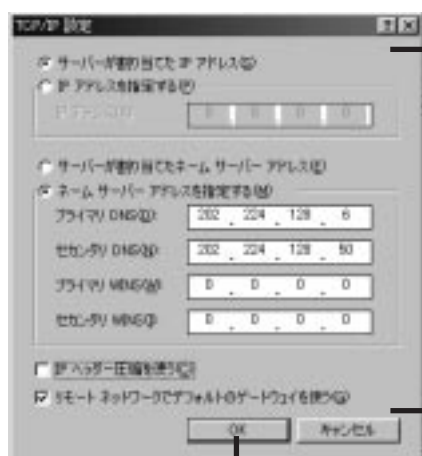
Panasonic Internal Modem：
　内蔵のモデムを使用する場合に選ぶ。（ モデムモデル のみ）
ワイヤレスステーションモデム：
　ワイヤレスステーションを使って通信する場合に選ぶ。（ ワイヤレスモデル のみ）
Panasonic PDC DATA-FAX Adp：
　デジタル携帯電話やDoccimoの携帯機能を使って、データ通信する場合に選ぶ。
Panasonic PDC PACKET Adp：
　Dopa対応の携帯電話を使って、パケット通信する場合に選ぶ。
Panasonic PHS Adp：
　PHS電話やDoccimoのPHS機能を使って、通信する場合に選ぶ。
Panasonic PHS（内蔵）Adp：
　ワイヤレスステーション以外の親機を使って通信する場合に選ぶ。（ ワイヤレスモデル のみ）

設定した接続名を持つアイコンが追加されます。

3 サーバー情報を設定する。

（次ページに続く）

PHS電話を使ってデータ通信をする場合
PIAFS対応のアクセスポイントを選んでください。

使いかた
コミュニケーション

新しく接続先を設定する

回線の種類の設定

使用する通信機器によって、電話回線の種類を設定し直す必要があります。

＜設定のしかた＞

①「コントロールパネル」の[モデム]をダブルクリックする。

②[ダイヤルのプロパティ]をクリックする。

③「ダイヤル方法」で回線の種類を選ぶ。

トーン：ダイヤル中「ピッポッパ」と音がする回線

パルス：ダイヤル中「ピッポッパ」と音がしない回線

・ご使用中の電話回線の種類がわからない場合は、お近くのNTTにお問い合わせください。

・携帯電話をご使用時は、どちらに設定しても通信できます。

・PHS電話でFAX送信を行う場合などPTEサービスを利用するときは「パルス」を、それ以外は「トーン」を選んでください。

＜留意点＞

・「ダイヤルのプロパティ」の設定は、すべての接続先（モデム）に対して共通です。「ダイヤル方法」が使用環境により異なる場合は、その都度、変更する必要があります。

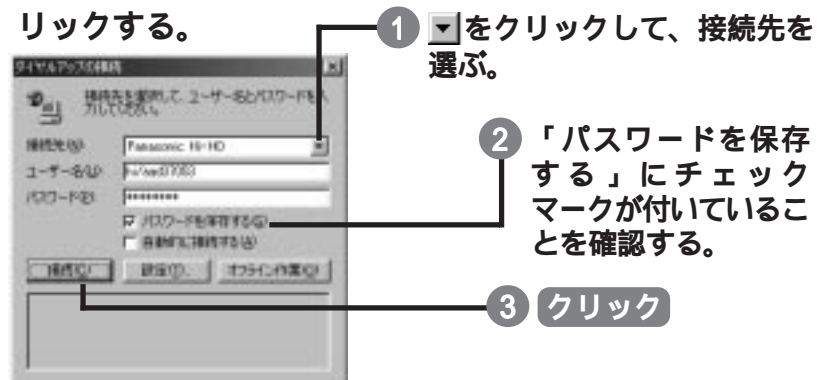
・携帯電話やPHS電話をお使いになる場合は、「ダイヤルのプロパティ」の設定で「市外局番」には「0」を入力してください。

インターネットに接続する

通信機器を接続し、プロバイダーへの加入と通信の設定（→39〜49ページ）が終わったら、「Internet Explorer（インターネットエクスプローラー）」を使ってインターネットに接続してみましょう。

◀「Internet Explorer」は、ホームページを見るためのソフトウェア（ブラウザー）の一つです。

「Internet Explorer」を起動する

1 デスクトップの[Internet Explorer]アイコンをダブルクリックする。

プロバイダーへの接続が始まります。接続が終わると、「Microsoft Network」のスタートページが表示されます。

◀自分で新しく設定したダイヤルアップ接続を選ぶこともできます。その接続を初めて使用する場合には、ユーザー名とパスワードに何も表示されませんので、自分で入力してください。パスワードはセキュリティー保護のため「*」で表示されます。
（ダイヤルアップ接続の作成方法→50ページ）

◀左記は、「インターネットスターター」により自動作成された「Panasonic Hi-HO」を使用する場合を例にしています。

メールの自動送受信機能を使用してメールを送受信したい場合
必ず「パスワードを保存する」にチェックマークを付けておいてください。

◀ホームページの内容は随時、変更されています。左記の画面は一例で、実際の内容と異なる場合があります。

「Internet Explorer」を終了する

次のようにして、確実に接続を切断します。

◀接続終了の確認
接続を終了すると、画面右下のタスクトレイにある次のアイコンの表示が消えます。（接続時）

◀ウィンドウ右上の☒をクリックしても、「Internet Explorer」を終了することができます。

◀この画面は、他の画面の後ろに隠れてしまうことがあります。その場合、タスクバーの「自動切断」をクリックしてください。

インターネットに接続する

雑誌で見つけたホームページを見る

雑誌やカタログ、あちこちで目にする「http://」というURL（ホームページの番地）を入力すると、見たいページをすぐに表示することができます。ここでは、Hi-HOのホームページを表示します。

1 「Internet Explorer」を起動する。（→前ページ）

2 URLを入力する。

しばらくすると、指定したホームページが表示されます。

◀Hi-HOのURLは、「http://home.hi-ho.ne.jp」です。（1999年9月現在）

◀必ず半角の英数字で入力します。半角の英数字にならないときは Alt ＋ 半角/全角 を押して、英数字入力モードに切り換えます。

◀ホームページの内容は随時、変更されています。左記の画面は一例で、実際の内容と異なる場合があります。

◀Internet Explorerを終了するには
→前ページ

表示が極度に遅いときには

画像の多いホームページを表示している、メモリーが不足している、または接続しようとした時間帯にホームページが非常に混雑しているなどが考えられます。

URL によく使われている記号の入力方法

- チルダー（~）は Shift ＋ [^ へ]
- スラッシュ（/）は [/ め]、ピリオド（．）は [. る]、コロン（:）は [: け]
- アンダーバー（_）は Shift ＋ [\ ろ]

ホームページの見かた

現在開いているホームページの番地（URL）が表示されています。

スクロールバー

[戻る]を クリック
一つ前のホームページに戻ることができます。

ポインターが から手の形 になる所を クリック
その先のホームページ(リンク先)を表示できます。

◀画面を最大にする

□をクリックすると、ホームページのウィンドウを最大にすることができます。（→『セットアップ編』）

◀スクロールバーをドラッグ、または▼▲をクリックすると、下または上に続いているホームページを見ることができます。

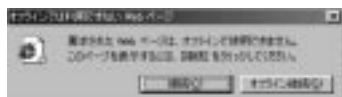
◀ 戻る と 進む

いくつかのホームページを開いたときに、簡単に前に戻ったり、次に進んだりすることができます。いろいろなページを開いてみましょう。

◀Internet Explorer を終了するには
→53ページ

オフライン(回線断)の状態でホームページの内容を読む

ホームページをじっくり見るときは、[ファイル]→[オフライン作業]をクリックする（ウィンドウ上部に「オフライン作業」と表示される）と、回線を切断した状態で[Internet Explorer]を表示することができます。（料金を節約することができます。）別のホームページに進もうとすると、下記のメッセージが表示されますので、[接続]をクリックします。

そのほかの便利な機能

ホーム：インターネット接続時に最初に表示されたホームページに戻ります。

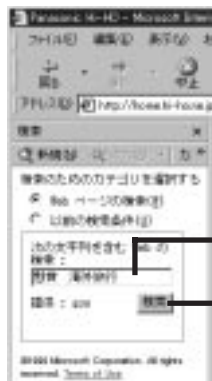
検索：キーワード（言葉）をもとに、見たいホームページを表示します。（→次ページ）

お気に入り：よく見るホームページを登録し、すぐに表示することができます。（→57ページ）

履歴：表示したホームページのURLの履歴を見ることができます。

見たいページを探すには

「こんなホームページが見たいな」という場合、キーワードを入力して、ホームページを探すことができます。
たとえば、「海外旅行の懸賞に応募したい」ときは「懸賞」「海外旅行」などをキーワードとして見たいページを探せます。

[検索]を クリック

1 キーワードを入力する。

2 [検索]を クリック

検索条件に合致したホームページの件数が表示されます。

☒をクリックすると、検索を終了することができます。

検索結果が表示されるので、いずれかのホームページタイトルを クリック

◀ Alt ＋ 半角/全角 を押すごとに日本語入力モードを英数字入力モードに切り換えられます。

キーワード入力のコツ
検索されたページが多すぎて探しにくい場合は、複数のキーワードを入力してください。その際、スペースや | で区切るのが一般的です。

◀インターネットへ情報を送信する場合、いくつか、警告のメッセージが表示される場合があります。確認後、[はい] をクリックします。

◀[戻る]をクリックすると、検索を始める前の画面に戻ることができます。

◀Internet Explorerを終了するには →53ページ

気に入ったページを登録する

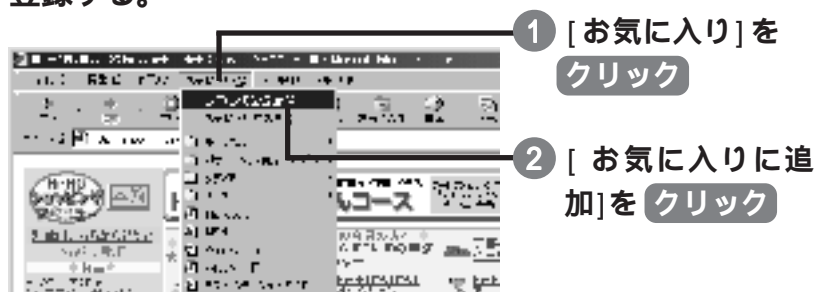
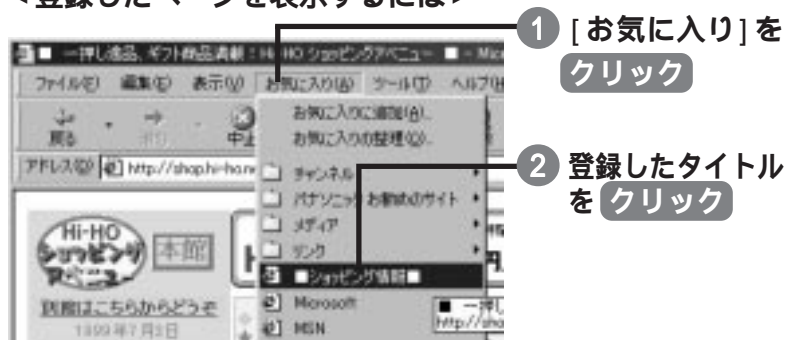
よく利用するホームページは、「お気に入り」に登録しましょう。「お気に入り」に登録しておくと、「URL」を入力することなくメニューから選ぶだけで簡単に表示できます。

1 「Internet Explorer」を起動する。（→53ページ）

2 お気に入りに登録したいホームページを表示させる。

3 登録する。

❶ [お気に入り]を クリック

❷ [お気に入りに追加]を クリック

◀ をクリックして登録することもできます。

❶ タイトルを入力、確定する。

❷ [OK]を クリック

◀名前の欄をクリックすると、文字を入力できるようになります。

<登録したページを表示するには>

❶ [お気に入り]を クリック

❷ 登録したタイトルを クリック

◀「お気に入り」のメニューから削除したいときは [お気に入りの整理]をクリックし、削除したいタイトル名をクリックして、[削除]→[はい]→[閉じる]をクリックします。

◀「お気に入り」にあらかじめ登録されているホームページは削除することができません。

◀Internet Explorerを終了するには→53ページ

最初に表示するページを設定するには

①最初に表示したいホームページを表示する。
②[ツール]→[インターネットオプション]をクリックする。
③[全般]→[現在のページを使用]をクリックし、[OK]をクリックする。

電子メールを送受信する

通信機器を接続し、プロバイダーに加入し、通信の設定が終わったら（→39～49ページ）、メールソフトの「Outlook™ Express 5（アウトルックエクスプレス）」を使って、メールを送受信してみましょう。

◀以降Outlook Expressと記載します。

電子メールを送信する

1 デスクトップの「Outlook Express」アイコンをダブルクリックする。

◀自分で新しく設定したダイヤルアップ接続を選ぶこともできます。その接続を初めて使用する場合には、ユーザー名とパスワードに何も表示されませんので、自分で入力してください。パスワードはセキュリティー保護のため「*」で表示されます。
（ダイヤルアップ接続の作成方法→50ページ）

◀左記は、「インターネットスターター」により自動作成された「Panasonic Hi-HO」を使用する場合を例にしています。

パスワードを保存する
この項目をクリックして、チェックマークを付けておくと、次回からパスワードの入力が不要です。

2 メッセージを作成する画面を表示する。

3 「宛先」を入力する。

1 「宛先」にポインターをあわせて クリック

◀最初は試しに自分宛にメールを送ってみましょう。

◀ Alt ＋ 半角/全角 を押して英数入力モードに切り換えると、英数字を入力できるようになります。

メールアドレスに使われる記号の入力方法

- アットマーク（@）は [@] 、ピリオド（．）は [．る] 、ハイフン（-）は [- ほ]
- アンダーバー（_）やチルダー（~）については→54ページ

使いかた　コミュニケーション

4 「件名」を入力する。

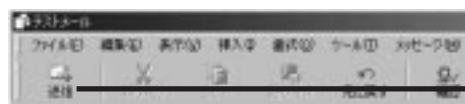
❶ ポインターをあわせて クリック

❷ 件名（タイトル）を入力する。

5 「本文」を入力する。

❶ ポインターをあわせて クリック

❷ 本文を入力する。

6 送信する。

[送信]を クリック

メールが送信されます。

＜「Outlook Express」を終わるには＞

☒を クリック

「今すぐ切断する」をクリック

◀電子メールには、半角のカタカナと丸付き数字（①②）などの特殊文字は使わないでください。相手先で読めなくなる場合があります。

◀送信と同時にメッセージの作成画面を終了し、「Outlook Express」の初期画面に戻ります。

送信トレイにメールを入れるには
[送信]ボタンをクリックするかわりに、[ファイル]→[後で送信する]をクリックしてください。

[送信トレイ]の中のメールの送信
[送受信]ボタンをクリックすると送信されます。
また、Outlook Express終了時に[送信トレイ]にメールが残っている場合は、送信するかどうかの確認メッセージが表示されます。

◀この画面は、他の画面の後ろに隠れてしまうことがあります。その場合、タスクバーの「自動切断」をクリックしてください。

アドレス帳を利用する

よくメールを送る相手のメールアドレスは、アドレス帳に登録しておくと便利です。

アドレス帳に登録する

1 「Outlook Express」の初期画面を表示する。
（→58ページ）

[アドレス]を クリック

2 アドレス帳に新規登録する。

1. [新規作成]を クリック
2. [新規の連絡先]を クリック

1. 「姓」「名」を入力する。
2. メールアドレスを入力する。
3. [追加]を クリック
4. [OK]を クリック

3 アドレス帳を終わる。

☒を クリック

登録したアドレス

◀メッセージの作成画面（→58ページ）からアドレス帳に登録する場合は、「ツール」→「アドレス帳」を順にクリックしてください。

◀受信メール一覧画面（→63ページ）でも[アドレス]をクリックしてアドレス帳に登録することができます。

◀Alt ＋ 半角/全角 を押すごとに、日本語入力モードと英数字入力モードが切り換わります。

◀表示名
姓名の欄に入力した内容がそのまま「表示名」に表示されます。必要に応じて変更してください。「表示名」は、アドレス帳からメールアドレスを入力したときに、「宛先」として表示されます（→次ページ）。

登録したメールアドレスを入力するには

1 「Outlook Express」のメッセージの作成画面を表示する。（→58ページ）

2 アドレス帳のメールアドレスを宛先に入力する。

アドレス帳からメールアドレスを削除するには

1 アドレス帳の画面を表示する。（→前ページ、手順*1*）

1 削除するアドレスを クリック

2 [削除]を クリック

3 確認メッセージが表示されたら[はい]を クリック

2 アドレス帳を終わる。

使いかた

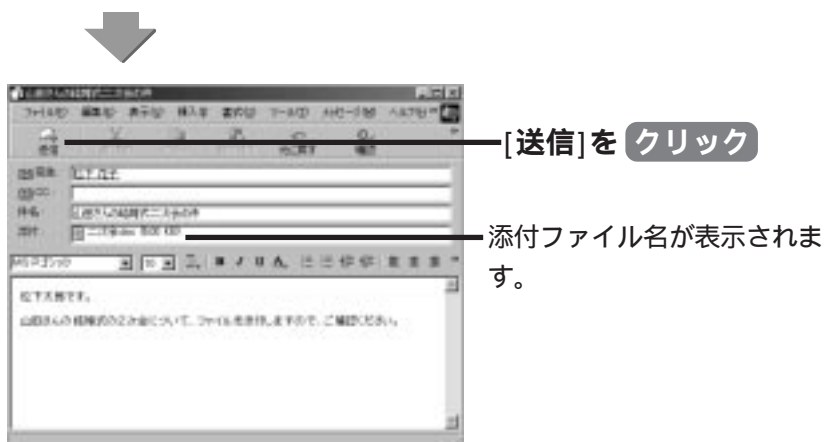
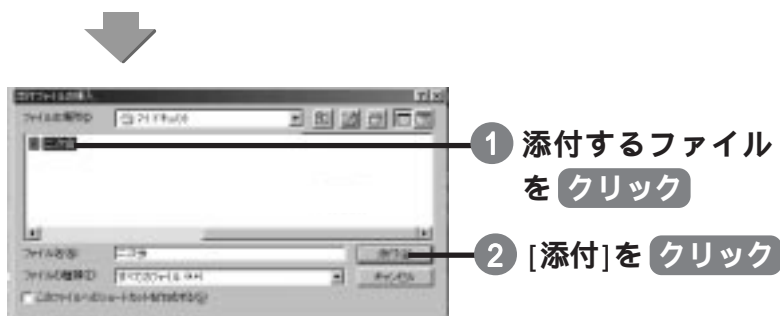
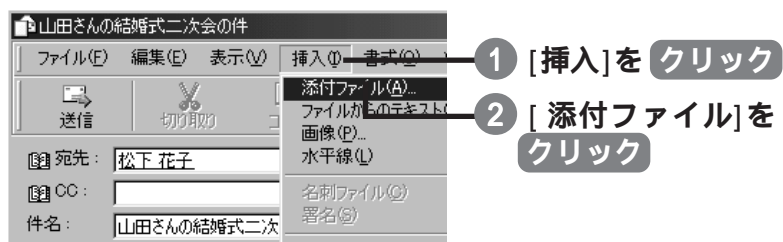
コミュニケーション

電子メールを送受信する

メールにファイルを添付して送る

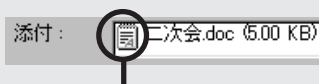
まとまった量の文書や画像の入った文書をメールに添付して送ることができます。

1 メッセージの作成画面を表示し、宛先、件名、メッセージを入れる。（→58、59ページ）

2 ファイルを添付する。

◀画像や音声の入ったファイルはボイスオンメールやムービーオンメールの機能を使うと、簡単にメールに添付して送信することができます。（→105ページ）

◀「My Documents」フォルダーに保存したファイルを添付する例で説明します。

◀フォルダーを開く方法について詳しくは→『セットアップ編』

もしも、添付ファイルを受け取ったら

添付ファイルのアイコンをダブルクリックし、画面の指示に従って添付ファイルを開くか、保存するかしてください。

◀「Outlook Express」を終わるには→59ページ

電子メールを受信する

1 「Outlook Express」の初期画面を表示する。
（→58ページ）

❶「送受信」を クリック
メールを受信すると同時に、「送信トレイ」にメールがある場合は、送信します。

❷[メールを読む]を クリック

2 受け取ったメールを読む。

<受信メール一覧画面>
目的のメールの件名を ダブルクリック

未読メールは太字で表示される。

反転しているメールの一部が表示される。

メールを読み終わったら[×]を クリック

[▼] [▲] で上下に隠れている部分を読む。

◀表示するトレイ（→下記）を変更する場合、目的のトレイをクリックしてください。

トレイの種類
- 受信トレイ
  受信したメールが保管されます。（左記画面）
- 送信トレイ
  作成したメールを一時的に保管する場所です。複数個のメールが送信トレイにたまったら[送受信]をクリックして、まとめてメールを送信できます。
  （送信トレイにメールを入れるには→59ページ）
- 送信済みアイテム
  送信したメールが保管されます。
- 削除済みアイテム
  削除したメールはここに一時保管されます。（→下記）

受け取ったメールを削除するには

受信メール一覧画面で削除したいメールに矢印をあわせて、 Del を押すか[削除]ボタンをクリックします。その時点で、削除済みアイテムに一時保管されます。
削除済みアイテムからも削除するにはそのメールに矢印をあわせて、 Del を押すか[削除]ボタンをクリックしてください。また、「Outlook Express」終了時にまとめて削除するよう設定することもできます。

受け取ったメールに返事を出すには

受信メール一覧で[返信]ボタンをクリックします。

電子メールを送受信する

メールの自動送受信機能を使う

「メールの自動送受信」機能を使うと、自動でメールの送受信を行うことができます。この機能を使用するには、「アクセスポイントの設定」を行った後、「スタート」メニューから「メールの自動送受信」を選んでください。また、専用のケーブルで携帯電話やPHS電話を接続したときには自動的にこの機能が働くよう設定することができます。（→44ページ）

◀別売りの専用ケーブル：
携帯電話接続ケーブル
PHS電話接続ケーブル
詳しくは、148ページをご覧ください。

アクセスポイントの設定

1 [スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[アクセスポイント設定]をクリックする。

◀ラウンチャーを起動し（→29ページ）、アクセスポイント設定アイコンをダブルタップしても同様の操作をすることができます。

2 「アクセスポイント一覧」から自動接続したいダイヤルアップ接続を選んで、[追加]をクリックする。

LANを使用する場合は、「ダイヤルしない」の左側の□にチェックマークを付けてください。

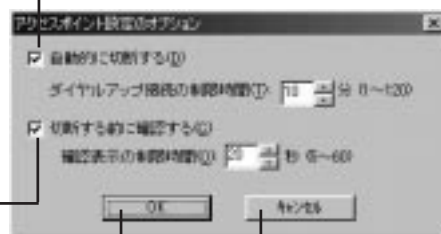
追加ボタンで選んだダイヤルアップ接続の名称は、「自動接続する優先順位」に移動します。「自動接続する優先順位」の上位に表示されているものから、優先的に接続されます。

「アクセスポイント一覧」には、登録済みのダイヤルアップ接続の名称が表示されています。

3 「自動接続する優先順位」に表示されているダイヤルアップ接続を選んで、[オプション]をクリックする。

4 オプション設定をする。

メールの送受信後に回線を切断したい場合は、チェックマークを付けてください。また「...接続の制限時間」で設定した時間が経過すると、メールの送受信中であっても強制的に回線が切断されます。（工場出荷時は10分に設定されています。）

回線を自動的に切断する際に、確認メッセージを表示したい場合は、チェックマークを付けて時間を設定してください。（工場出荷時は20秒に設定されています。）

変更を保存します。

変更を取り消します。

5 アクセスポイント設定画面で[OK]をクリックする。

[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに終了します。

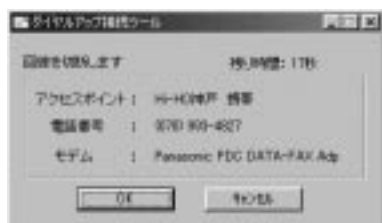
お願い

Outlook Expressの[ツール]→[アカウント]→[メール]→[プロパティ]→[接続]で「このアカウントには次の接続を使用する」のチェックマークを外しておいてください。「インターネットスターター」で自動設定した場合、このチェックマークは外されています。

メールを自動送受信する

1 **[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[メール自動送受信]をクリックする。**
または、専用のケーブルで携帯電話やPHS電話を接続し、通信可能な状態にする。（→41～44ページ）

自動的にOutlook Expressが起動し、メールを受信します。
また、送信トレイに送信用メールがある場合は、そのメールを送信します。

メールの送受信が終了したら、回線の切断を確認する画面が表示されます。

◀ラウンチャーを起動し（→29ページ）、アクセスポイント設定アイコンをダブルタップしても同様の操作をすることができます。
◀相手が話し中の場合は、1分間隔で3回まで接続を試みます。3回とも話し中の場合やその他のエラーが発生した場合は次のアクセスポイントへの接続を開始します。
◀すでに、他の接続が行われている場合は、確認画面で[継続]をクリックしてください。
◀その接続へはじめてつなぐ場合、ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されますので、それぞれを入力して「パスワード保存」にチェックを付け、[接続]をクリックしてください。

お願い

・メールの送受信が完了するまで、キーやスマートポインターは操作しないでください。
・メールの送受信中にエラーメッセージ画面が表示された場合は、「非表示」ボタンをクリックしてください。回線の切断を確認する画面が表示されます。
・Outlook Express以外のメールソフトについては動作を保証しません。

◀アクセスポイントのオプション設定で設定している場合のみ
→前ページ

送信トレイにメールを入れるには
Outlook Expressの[ツール]→[オプション]→[送信]設定で、「メッセージを直ちに送信する」のチェックマークを外しておき、メール作成後、[送信]をクリックしてください。

イラストメールを送信する

イラストメール機能を使って、文字で形作られたイラストサンプルの中から好きなイラストを選んで、電子メールで送ってみましょう。
たくさんのイラストサンプルの中から、用途やそのときの気分に合ったものを選ぶことができます。また、イラストの登録や削除を自由に行い、自分専用のイラスト集を作ることもできます。

◀ 選んだイラストは、いったんクリップボードにコピーして文書に貼り付けることもできます。

イラストメールを送信する

ここでは、選んだイラストを電子メールに挿入して送信するまでの手順について説明します。

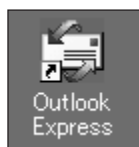
1 使用するメールソフトの環境を設定する。

使用するメールソフトで、フォントを「MSゴシック」などの等幅フォントに設定し、送信の形式をテキスト形式に設定してください。
また、[E-メール]ボタンを使ってメールソフトを起動するには（→71ページの手順7）、メールソフトをMAPI対応に設定しておく必要があります。

◀ 字詰めを行う「MS Pゴシック」などを使用すると、イラストがくずれる場合があります。また、HTML形式に設定していると、一部の文字が別の制御コードに変換され、イラストが正しく表示されないことがあります。

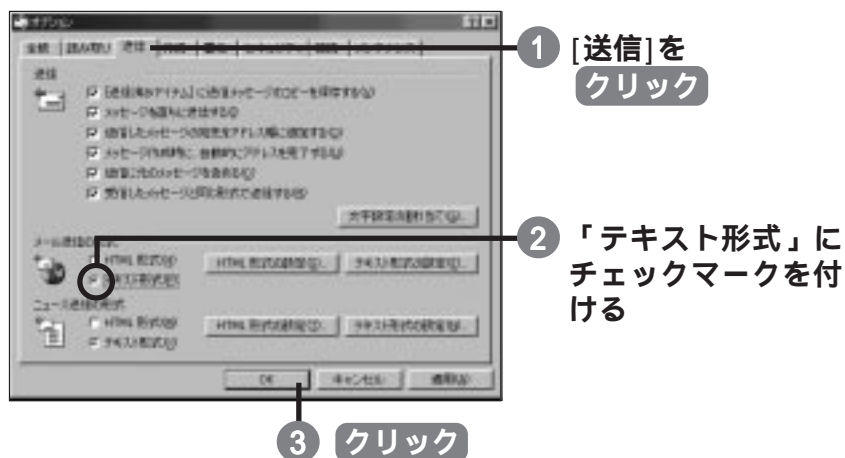
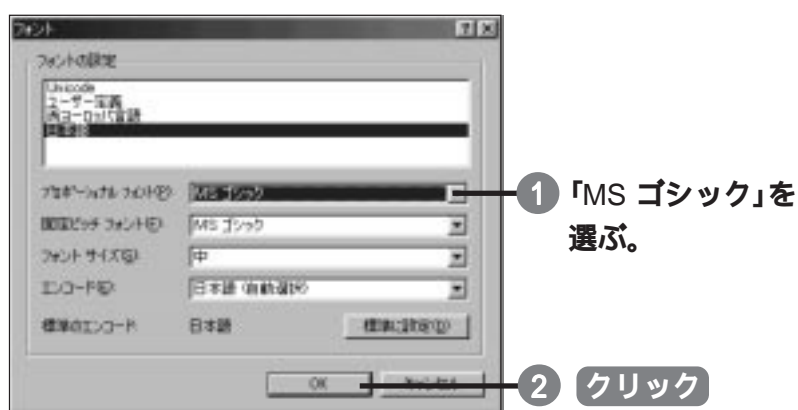
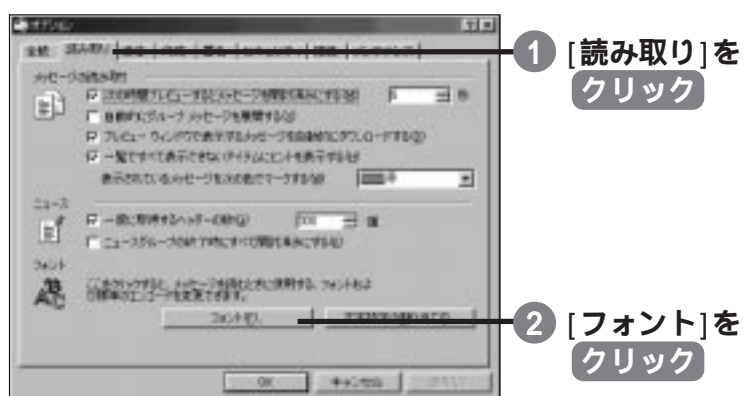
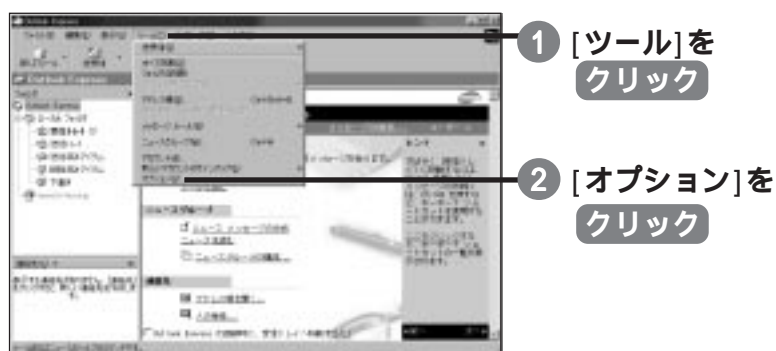
MAPI対応の設定
メールソフトによっては、はじめからMAPI対応になっているものもあります。また、MAPI対応にはできないものもあります。
Outlook Express 5は、はじめからMAPI対応になっています。

◀ その他の主なメールソフトについては、イラストメール画面で[ヘルプ]→[イラストメールのヘルプ]をクリックして、「表示フォントの設定方法」と「MAPIの設定方法」をご覧ください。

＜Outlook Express 5を使用する場合の設定方法＞

❷ エラーメッセージが表示されたら、[表示しない]を クリック

（次ページへ続く）

用 語

MAPI (Messaging API)：電子メッセージングアプリケーションのための標準システムインターフェースのことで、アプリケーションが個別に持っている情報を一元的に管理します。

使いかた

コミュニケーション

（次ページへ続く）

使いかた

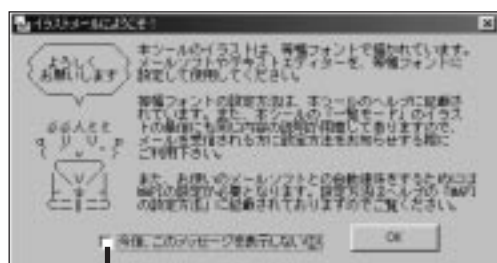
コミュニケーション

イラストメールを送信する

使いかた

コミュニケーション

2 デスクトップの[イラストメール]アイコンをダブルクリックする。

◀[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[イラストメール]をクリックしても、起動することができます。

次回起動時からこの画面を表示したくなければ、ここにチェックマーク✓を付ける。

3 画面の説明を読んで、[OK]をクリックする。

4 [フィーリングマップ]をクリックして、マップの種類を選ぶ。

マップには、下記の3種類があります。

◀[フィーリングマップ]をクリックするごとに、3種類のマップが順に切り換わります。

春夏秋冬：季節にあったイラストを選ぶことができる。
喜怒哀楽：感情や感性にあったイラストを選ぶことができる。
用途別　：「祝福」や「案内」など様々な用途にあったイラストを選ぶことができる。

5 フィーリングマップ上をクリックしてイラストを選ぶ。

例えば「春」と表示された周辺をクリックすると、春らしいイラストを選ぶことができ、「夏」と表示された周辺をクリックすると、夏らしいイラストを選ぶことができます。

◀クリックした位置にポインター（、、）が移動します。

使いかた

コミュニケーション

イラストメールを送信する

フィーリングマップの区分について

各区分に対して、複数個のイラストが登録されています。
[次候補]をクリックすると、選んだ区分に登録された次の候補が表示されます。[前候補]をクリックすると一つ前の候補が表示されます。

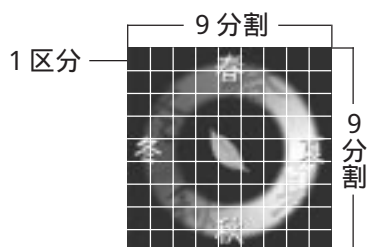
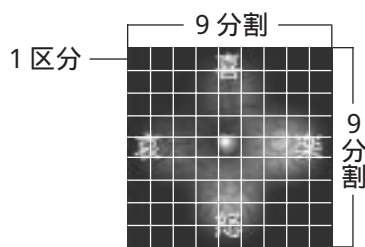
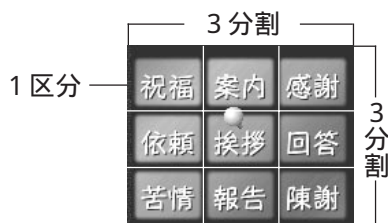
「春夏秋冬」の場合

9分割
1区分
9分割

「喜怒哀楽」の場合

9分割
1区分
9分割

「祝福」「案内」など用途別の場合

3分割
1区分
3分割

◀ポインター（✎、♡、Q）は、←、→、↑、↓で各区分ごとに移動させることもできます。

学習機能について

学習機能とは、使用頻度の高いイラストが優先的に表示されるように、フィーリングモードでの表示順序を入れ替える機能です。一覧モード（→下記）の順番は入れ替えません。学習機能を使用する場合は、イラストメール画面で[設定]→[学習ON]をクリックしてチェックマークを付けてください。工場出荷時には学習ONに設定されています。

＜表示順序を工場出荷時の状態に戻すには＞
イラストメール画面で[設定]→[学習内容のリセット]をクリックしてください。ただし「学習ON」にチェックマークが付いていない状態では、「学習内容のリセット」を選ぶことができません。

一覧モードでイラストを選ぶ方法

表示モードを切り換えてイラストを一覧から選ぶこともできます。

①[表示]→[一覧モード]をクリックする。
　イラストが一覧で表示されます。[次ページ][前ページ]をクリックすると、ページ単位で画面表示が切り変わります。

②好きなイラストをクリックする。または、←、→、↑、↓を使って選ぶ。
　選択されたイラストは青色の枠で囲まれます。
　フィーリングモードに戻したい場合は、[表示]→[フィーリングモード]をクリックしてください。

6 [設定]をクリックし、「E-メール連携ON」にチェックマーク✓が付いていることを確認する。

工場出荷時には、すでにチェックマークが付けられています。

◀ チェックマークが付いていない場合は、「E-メール連携ON」を選んでチェックマーク✓を付け、確認のメッセージが表示されたら[ON]をクリックしてください。

お願い

[E-メール]ボタンを使ってメールメッセージ作成用画面を起動したい場合は、必ず「E-メール連携ON」にチェックマークを付けてください。

7 [E-メール]をクリックする。

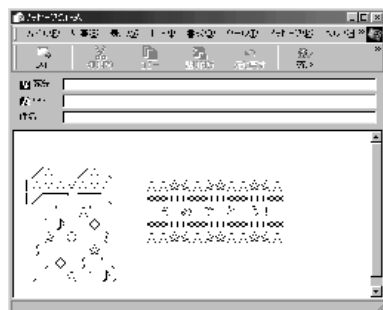
確認のメッセージが表示された場合は、内容を確認のうえ、[はい]をクリックしてください。
選んだイラストが挿入された状態で、メールメッセージ作成用の画面が起動します。

(例)「Outlook Express」を使用する場合

お願い

[E-メール]ボタンを使ってメールメッセージ作成用画面を起動するには、メールソフトをMAPI対応に設定しておいてください。(→66ページ手順*1*)

◀ [E-メール]ボタンを使用時には、メールメッセージ作成用画面に署名を自動で追加することはできません。

◀ [コピー]をクリックすると、選んだイラストがクリップボードにコピーされます。2つ以上のイラストをメッセージに挿入する場合や、イラストを文書に貼り付ける場合などにご利用ください。

8 宛先、メッセージ等を書き加えて、メールを送信する。

◀ 送信のしかたなどについて詳しくは58ページをご覧ください。

テキストイラストを挿入した文書を読む

- フォントを「MSゴシック」などの等幅フォントに設定しておく必要があります。字詰めを行う「MS Pゴシック」などを使用すると、イラストがくずれる場合があります。
イラストサンプルの中に、主なメールソフトの等幅フォントの設定についての説明文を用意しています。(一覧表示モードの最後のほうにあります。)テキストイラストをはじめて読むかたには、メッセージにその説明文を挿入して送ると便利です。内容は[ヘルプ]→[イラストメールのヘルプ]の「表示フォントの設定方法」と同じです。
- 一部のメールソフトやワープロソフト、また携帯電話のメール機能では、連続するスペースを省略するなど自動的に文字列を変換するものがあります。その場合、等幅フォントに設定しても、イラストが正しく表示されないことがあります。

イラストメールを送信する

自分専用のテキストイラスト集を作る

自分で作成（変更）したイラストを登録する

1 フィーリングモードまたは一覧モードから元となるイラストを選んで（66ページ手順1〜69ページ手順5）、[登録]をクリックする。

2 イラストを編集する。

他のテキストエディター（メモ帳など）で作成したテキストイラストを登録したい場合には、いったんそのイラストをクリップボードにコピーした後、[貼り付け]を クリック

表示されているイラストを削除して、新規にイラストを作成する場合は、[クリア]を クリック

◀ 桁数：全角24文字、行数：10行の範囲内で編集してください。
また、半角カタカナ、ローマ数字、丸数字や一部の記号など、通常、電子メールソフトで正しく表示されない文字は使用しないでください。
送信したイラストが正しく表示されない場合があります。

3 イラストが完成したら、[次へ]をクリックする。

◀ 一つ前の画面に戻るには、[戻る]をクリックしてください。
◀ 登録操作を途中で中断して終了するには、[キャンセル]をクリックしてください。

4 「春夏秋冬」のマップ上に登録する。

❶ フィーリングマップ上の登録したい位置を クリック

❷ クリック

◀ 表示されているマップに登録しない場合は、[指定しないで次へ]をクリックしてください。

使いかた
コミュニケーション

5 「喜怒哀楽」のマップ上に登録する。

❶ フィーリングマップ上の登録したい位置を クリック

❷ クリック

◀ 表示されているマップに登録しない場合は、[指定しないで次へ]をクリックしてください。

6 用途別のマップ上に登録する。

❶ フィーリングマップ上の登録したい位置を クリック

❷ クリック

◀ 表示されているマップに登録しない場合は、[指定しないで次へ]をクリックしてください。

7 イラストにタイトルなどを付ける。

❶ 「タイトル」と「製作者」を入力する。

❷ クリック

◀ 「タイトル」は全角16文字以内、「製作者」は全角8文字以内で入力してください。

◀ 最初、「製作者」にはWindowsのログイン名が表示されています。

フィーリングマップ上の指定した位置に、イラストが登録されます。
一覧モードでは、一番最後の位置に登録されます。

イラストメールを送信する

登録されているイラストを削除する

1 フィーリングモードまたは一覧モードから、削除したいイラストを選んだ状態で、[編集]→[イラスト削除]をクリックする。

2 確認メッセージが表示されるので、よければ[はい]をクリックする。

お願い

一度削除したイラストは、元に戻すことはできません。よく確認してから削除してください。

その他の通信機能を使う

まいと～く FAX V3 Lite

まいと～く機能を使うと、コンピューター上でFAXの送受信を行うことができます。受信したFAXは印刷したり、そのまま他の人へ送信したりすることができます。詳しくは、付属の別紙『まいと～く FAX V3 Liteのご案内』をご覧ください。

お願い

PHS電話を使用時や ワイヤレスモデル のワイヤレス通信モジュール使用時は、FAXの受信はできません。
送信機能のみご利用ください。

ボイスオンメール

ボイスオンメール機能を使うと、静止画に音声を付加し、そのファイルを電子メールで送信することができます。専用プレーヤーも一緒に送信することができるので、メールの受信側では特定のアプリケーションをインストールしなくてもすぐに再生することができます。
（Windows 95/Windows 98のみ対応）

◀ 使いかたについて詳しくは
→109ページ

似顔絵メール

似顔絵メール機能を使うと、静止画の輪郭を抽出してイラスト風（似顔絵）を作ることができます。（人物像以外のものにも利用できます。版画のような雰囲気のイラストができあがります。）作成した似顔絵ファイルは、電子メールに添付して送信することができます。

◀ 使いかたについて詳しくは
→111ページ

ムービーオンメール

動画を圧縮し、専用のプレーヤーを付けて送信することができます。メールの受信側では特定のアプリケーションをインストールしなくてもすぐにこのファイルを再生することができます。
（Windows 95/Windows 98のみ対応）

◀ 使いかたについて詳しくは
→112ページ

赤外線通信をする

本機の赤外線通信ポートを使うと、赤外線通信機能を持ったほかのコンピューターとケーブルを接続することなく通信することができます。

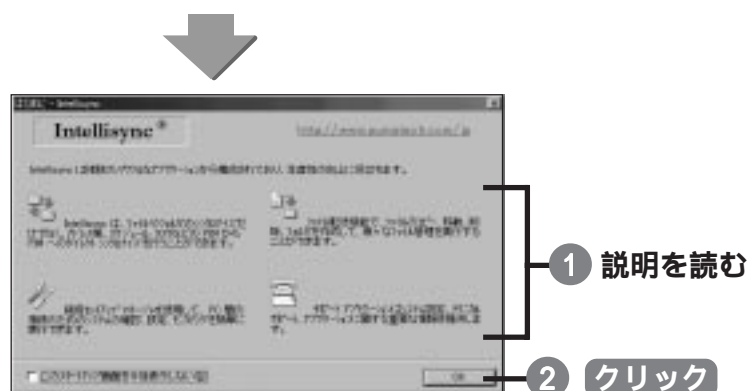
◀ ここでは、「Intellisync® for Notebooks」（以降、Intellisyncと表記します）を使って、赤外線通信を行う場合を例にして説明します。

1 互いのコンピューター上で、赤外線通信ポートを使用可能に設定しておく。

- ・セットアップユーティリティーの「詳細」メニューの「赤外線通信ポート」を「338/IRQ5」に設定する。（→120ページ）
- ・「コントロールパネル」の「赤外線モニタ」の「オプション」で「赤外線通信を使用可能にする」のチェックマークを外す。

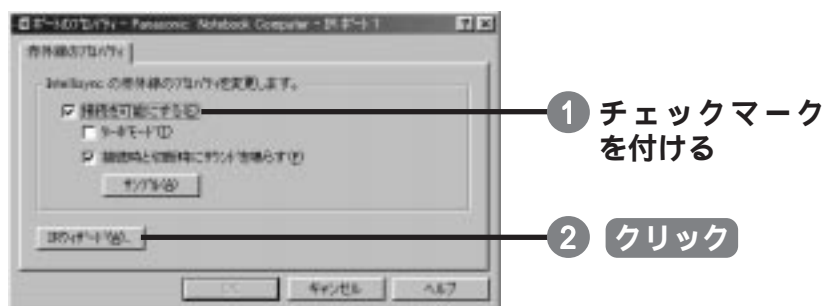
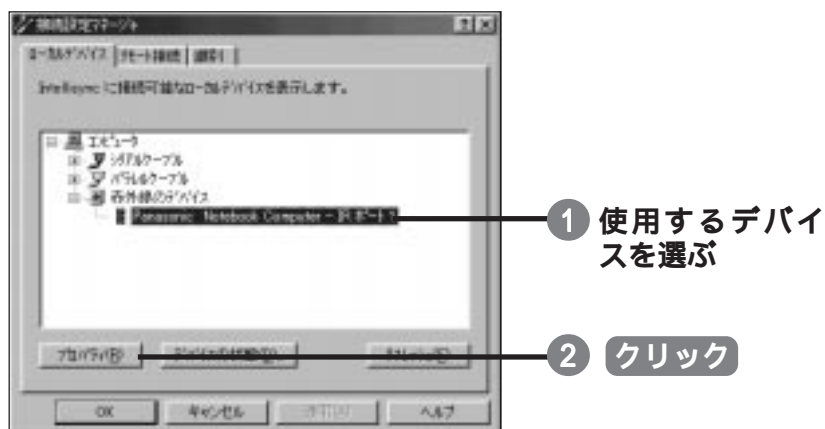
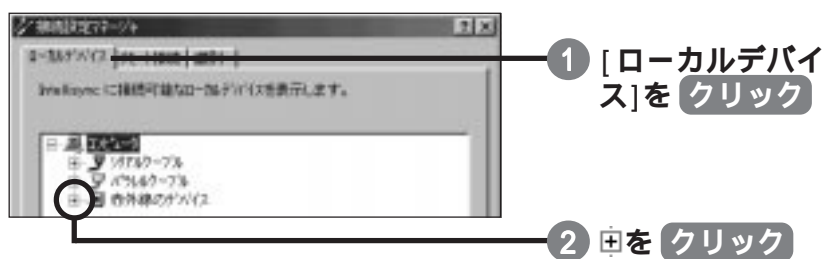
◀ 工場出荷時にはどちらも、左記の設定になっています。

2 必要に応じて互いのコンピューターのボーレートを設定する。

[スタート]→[プログラム]→[Intellisync]→[Intellisync エージェント]を クリック

「使用許諾同意書」画面が表示されたら、内容を確認し「承諾する」を クリック

◀ はじめて起動したときのみ表示されます。

（次ページへ続く）

使いかた　コミュニケーション

[次へ]を クリック し、画面の指示に従って操作し、ボーレートを設定して[完了]を クリック

◀ ボーレートは、2つのコンピューターを比べて小さい方の値に合わせてください。その他の設定は工場出荷状態から変更する必要はありません。

（次ページへ続く）

使いかた

コミュニケーション

赤外線通信をする

3 互いのコンピューターを赤外線通信が行えるように設置する。

<設置時に気をつけること>
- お互いのポートが真正面に向きあうように設置する。
- ポート間の距離を20cm〜50cmの範囲に設置する。

<以下のような場合、正常に通信できません>
- お互いのポート間に障害物があるとき
- 近くでテレビ、ビデオ、ワイヤレス・ヘッドホン、ストーブなどが動作しているとき
- 直射日光や蛍光燈、白熱灯などの光がポートにあたっているとき

◀ 省電力ユーティリティーソフトウェア「PowerPanel」（→79ページ）による省電力機能を働かせているとき、正常に通信できない場合があります。

4 赤外線通信を行う。

◀ ファイル転送などの操作について詳しくは、ヘルプをご覧ください。

お願い

各機能の画面を開いている状態では、スタンバイおよび休止状態に入らないでください。リジューム後、各機能が正常に動作しなくなります。

5 赤外線通信を終了する。

「ファイル転送」や「シンク」の画面で、[ファイル]→[閉じる]を クリック

◀ Intellisyncエージェントも終了する場合は、メイン画面の右上の☒をクリックしてください。

Intellisyncのバックアップディスクを作成するには

[スタート]→[プログラム]→[Intellisync]→[メイクディスク]をクリックしてください。バックアップディスクを作成するには、2HDのフロッピーディスクが10枚必要です。

通信が途切れたり、送信側のコンピューターが正常に動かなくなる場合

1. 「スタート」→[プログラム]→[Intellisync]→[接続設定マネージャ]を選び、「ローカルデバイス」の「赤外線デバイス」をダブルクリックする。（「はじめに-セットアップマネージャ」が表示された場合は、[閉じる]をクリックしてください。）
2. 「Panasonic Notebook Computer - IRポート1」をダブルクリックし、「ターボモード」のチェックマークが付いている場合はそれを外して、[OK]をクリックする。
3. [OK]をクリックし、「接続設定マネージャ」を終了する。

省電力機能を使う

外出先などコンセントのない場所では、コンピューターをバッテリーだけで使うことが多くなります。次のようなことに注意して、バッテリーを効率よく使いましょう。

省電力機能のコツ

●使わないときは電源を切る　→取扱説明書『セットアップ編』

● Fn + F1 でディスプレイの明るさを調整（暗く）する
→128ページ

◀省電力ユーティリティープログラム「PowerPanel™」では、ディスプレイの明るさを調整することはできません。

● Fn + F10 でスタンバイ状態にしてから席を外す
スタンバイ状態に入ると、操作を再開するまでメモリー以外の電源が切れ、電力の消費が抑えられます。操作を再開するときは、電源スイッチをスライドしてください。

●省電力機能を設定する　→下記
省電力ユーティリティープログラム「PowerPanel™」を設定してください。

◀「電源設定」（[コントロールパネル]→[電源の管理]）で直接各種タイムアウト設定を使用しないでください。設定内容が正常に動作しない場合があります。（「電源設定」の内容は、「PowerPanel」に連動して自動的に変更されます。）

PowerPanel™で省電力設定をする

<PowerPanelの主な省電力機能>

・タイムアウト（タイマー）機能
しばらくの間コンピューターを放置したときに自動的にスタンバイ状態に入ったり、LCDやハードディスクドライブの電源を切ったりすることができます。

・CPUスピード変更
CPUスピードを遅くして、電力の消費を抑えることができます。
また、使用するアプリケーションソフトにあわせて、CPUスピードとタイムアウト機能を自動的に設定することもできます。

◀プロファイルの自動選択
→81ページ

省電力機能を使う

PowerPanelメニューの表示

タスクバーの［アイコン］を右ボタンでクリックすると、次のようなポップアップメニューが表示されます。

右記、次ページ

インスタントコマンド
インスタントコマンドは省電力をすぐに働かせたいときに使います。例えば、「ビデオオフ」を選ぶとすぐにLCDの電源が切られます。

プロファイル
PowerPanelは、さまざまな使用状況にあわせた省電力プロファイルを用意しています。各プロファイルごとに、CPUスピード、スタンバイ状態になるまでの時間、LCDやハードディスクの電源を切るまでの時間などが設定されています。バッテリー残量や用途にあわせてプロファイルを1つ選択してください。

バッテリライフ優先
バッテリーパックの長時間稼動を目的とした設定になっています。CPU速度は遅くなります。

パフォーマンス優先
処理速度など、パフォーマンスを優先した設定になっています。

ワードプロセッサ/スプレッドシート/プレゼンテーション/通信/ゲーム
それぞれワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、通信ソフト、ゲームソフトを使う場合に最適な設定になっています。

AC電源
ACアダプターを接続すると自動的にこの設定になります。

パワーマネージメントオフ
省電力機能を使用しない設定です。プロファイルの中で最も電力消費される設定です。

◀電源を入れたとき（再起動したとき）、ACアダプターが接続されている場合は「AC電源」、接続されていない場合は一番上段のプロファイルになります。

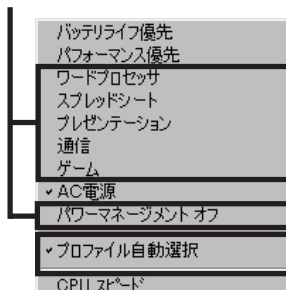
プロファイルの自動選択
ACアダプター使用時とバッテリーパック使用時で、設定を別々に保持することができます。
工場出荷時には、どちらの場合にも「プロファイル自動選択」にチェックマークが付けられています。

（例）
ACアダプターで使用時に、「プロファイル自動選択」にチェックマークを付けておく。
↓
ACアダプターを取り外して、バッテリーパックのみで使用時に、「プロファイル自動選択」のチェックマークを外す。
↓
ACアダプターをつなぐと、「プロファイル自動選択」にチェックマークが付けられた状態に自動的に戻る。

「閉じる」メニュー
「閉じる」を選ぶとPowerPanelプログラムが終了します。（常駐が解除されます。）
コンピューターを再起動すると、PowerPanelプログラムも、また起動します。

プロファイルの自動選択

起動したアプリケーションを自動判別し、最適なプロファイルに自動的に設定する機能です。例えば、Windows標準のゲームソフト「ソリティア」が起動すると、自動的に「ゲーム」のプロファイル設定で省電力機能が働きます。

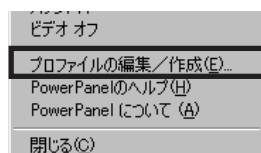
自動選択対象のプロファイル

◀複数起動している場合はアクティブなアプリケーションが優先されます。

お願い

ファイルのダウンロードやデータの送受信を行う場合、「プロファイル自動選択」を選ばないでください。

プロファイルの確認・編集

各プロファイルに登録されているCPUスピードやタイムアウト設定を変更したり、自動選択対象のプロファイル（→上記）に市販のアプリケーションを追加したり削除したりすることができます。

＜プロファイルにアプリケーションを追加する場合＞

クリック

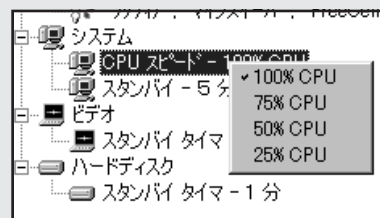
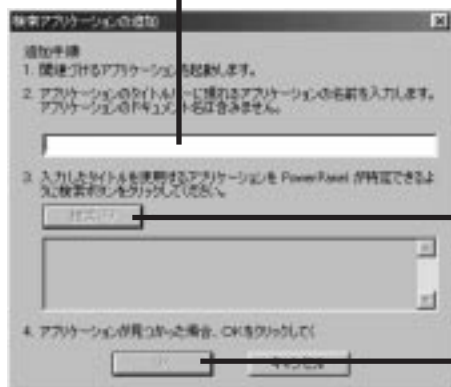
1 確認または編集するプロファイルを クリック

2 ダブルクリック

クリック

次ページに続く

◀「ファイル」メニューから「新規作成」を選び、新しいプロファイルを作成することができます。

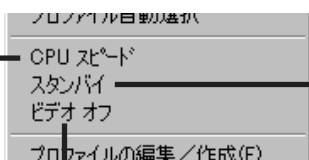
◀それぞれのプロファイルのCPUスピードやタイムアウト機能の設定を変更することもできます。

省電力機能を使う

以降画面に従って操作してください。

◀半角、全角は区別されます。正確に入力してください。

◀設定したプロファイルは、いったん、他のプロファイルを選んだ後、「プロファイル自動選択」を選ぶと有効になります。

インスタントコマンドを使う

4段階の速度調節ができます。25 %が最も電力消費を抑えた設定です。

すぐにスタンバイ状態に入ります。スタンバイ状態に入る前に、念のため作業中のファイルを保存してください。

すぐにLCDおよび外部ディスプレイの電源を切ります。

変更した状態を工場出荷状態に戻す場合

①PowerPanelのメニューから[閉じる]を選ぶ。
②[スタート]→[ファイル名を指定して実行]を選ぶ。
③「c\util\psuite\pcfsav\restore.exe」と入力し、[OK]をクリックする。
④確認のメッセージが表示されるので[OK]をクリックし、もう一度[OK]をクリックする。
⑤[スタート]→[プログラム]→[Phoenix PowerSuite98]→[PowerPanel]→[PowerPanel]を選んで、再度PowerPanelを起動する。

通信機能を使う場合

LAN、モデム、赤外線通信ポート、シリアルコネクターなどを使って通信を行う場合に省電力機能を使うと、データの転送中などにタイムアウト機能が働いてスタンバイ状態になったり、通信が正常に行われない場合があります。通信機能を使う場合、プロファイルはプロファイル自動選択を使わずに手動で「パワーマネージメントオフ」または「通信」を選んでください。

スクリーンセーバーおよびDVキャプチャーを使う場合

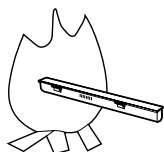
- スクリーンセーバーを使用するときは、プロファイルは「パワーマネージメントオフ」を選んでください。LCDのタイムアウト機能が働いてディスプレイが正常に復帰しなかったり、スタンバイや休止状態から正常にリジュームできない場合があります。
- DVキャプチャーでは、動画のキャプチャー保存に失敗する場合がありますので、プロファイルは「パワーマネージメントオフ」を選んでください。（「プロファイル自動選択」を選んでいる場合は、DVキャプチャーが起動すると自動的に「パワーマネージメントオフ」に設定されます。）

バッテリーパックを使う

ここでは、バッテリーパックの取り扱いについての注意事項や取り付けかた、充電のしかたなどについて説明します。

バッテリーパックに関する注意　⚠危険

火中に投入したり加熱したりしない

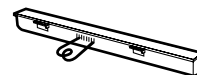
禁止

発熱･発火･破裂の原因になります。

ネックレス、ヘアピンなどといっしょに持ち運んだり保管したりしない

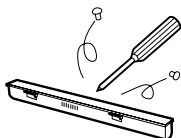
禁止

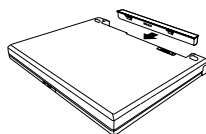
発熱･発火･破裂の原因になります。

プラス(＋)とマイナス(－)を金属などで接触させない

禁止

発熱･発火･破裂の原因になります。

クギで刺したり、衝撃を与えたり、分解･改造をしたりしない

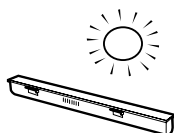
禁止

発熱･発火･破裂の原因になります。

付属の充電式電池は、必ず本機で使用する

CF-A1シリーズ専用の充電式電池です。本機以外に使用すると、発熱・発火・破裂の原因になります。

指定された方法で充電する

取扱説明書に記載された方法で充電しないと、発熱･発火･破裂の原因になります。

火のそばや炎天下など、高温の場所で充電･使用･放置をしない

禁止

発熱･発火･破裂の原因になります。

取り扱い上のお願い

●バッテリーパックは一般のごみといっしょに廃棄しないでください。
端子をテープなどで絶縁してから、地方自治体の条例などに従い、廃棄してください。（本機のバッテリーパックは、リチウムイオン蓄電池を使用しています。）

●交換用のバッテリーパックをポケットやカバンに入れて持ち運ぶときは、端子部分がショートするのを防ぐために、ビニール袋に入れることをお薦めします。

●水などで濡らさないでください。端子がさびる原因となります。

●端子部分には触れないでください。端子が汚れると、接触が悪くなったり十分に充電できなかったりすることがあります。

●万一、破損によって電解液が流出し、皮膚や衣服についた場合は、直ちに大量の水で洗い流してください。もし、身体に異常を感じた場合は、医師にご相談ください。

使用温度についての留意点

●使用環境温度5℃～35℃の範囲で操作してください。
使用環境温度が低い場合、バッテリーの稼働時間が短くなります。

●通常の使用時にあたたかくなることがありますが、異常ではありません。

バッテリーパックを使う

取り付けかた/取り外しかた

本機で使用できるバッテリーパックは、付属のバッテリーパックと以下の別売りのバッテリーパックです。

別売りバッテリーパック

・標準バッテリーパック：　品番　CF-VZSU12J（付属）

・大容量バッテリーパック：　品番　CF-VZSU13J

お願い

指定のバッテリーパック以外は使用しないでください。

1 操作を終わり、電源が切れたことを確認してACアダプターを取り外す。

◀詳しくは
→取扱説明書『セットアップ編』

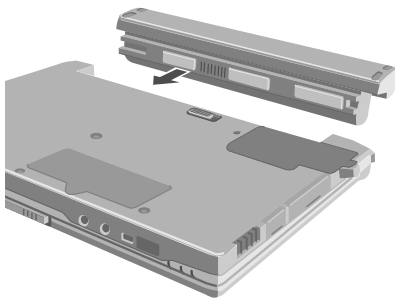
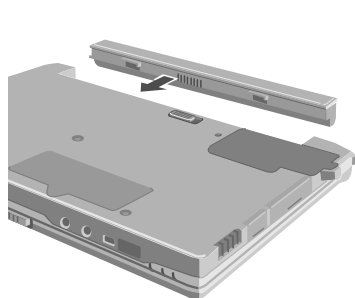
2 本体を裏返す。

3 バッテリーパックを取り付ける／取り外す。

＜取り付ける場合＞

バッテリーパックをカチッと音がするまでスライドし、差し込む。

●標準バッテリーパック

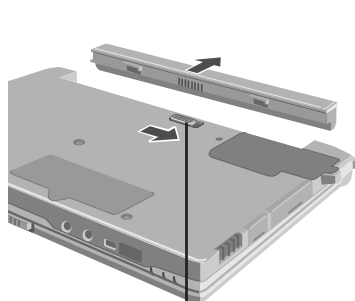
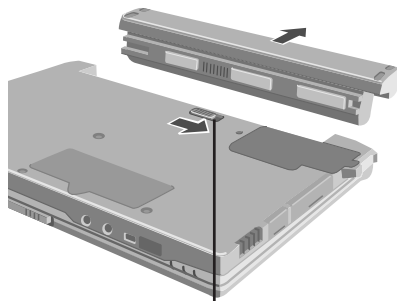
●大容量バッテリーパック（別売り）

＜取り外す場合＞

ラッチを矢印の方向にスライドした状態でバッテリーパックを引き出す。

●標準バッテリーパック

●大容量バッテリーパック（別売り）

使いかた

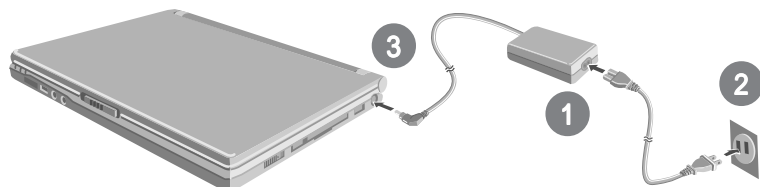
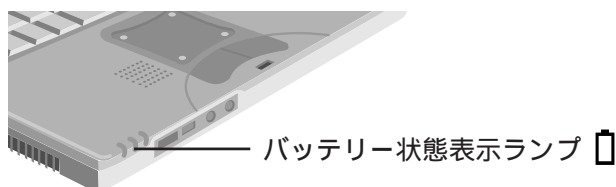
モバイル

充電のしかた

付属の標準バッテリーパックは、工場出荷時には充電されていません。コンピューター本体にバッテリーパックを取り付けた状態でACアダプターを接続すると、自動的に充電が始まります。

1 ACアダプターを接続する。

2 充電状態を確認する。

◀充電を完了するとバッテリー状態表示ランプが緑色に点灯します。

＜充電時間＞

		標準バッテリーパック	大容量バッテリーパック
電源	入	約5.5 時間	約12 時間
	切	約2.5 時間	約5.5 時間

充電時間
使用条件により長くかかることがあります。（低温の場合など）

＜稼働時間＞

標準バッテリーパック	大容量バッテリーパック
約2 時間	約6 時間

稼働時間
左記は省電力モードでLCDバックライト輝度最低時の稼動時間です。稼動時間はその他使用条件によって異なります。

充電についてのお願い

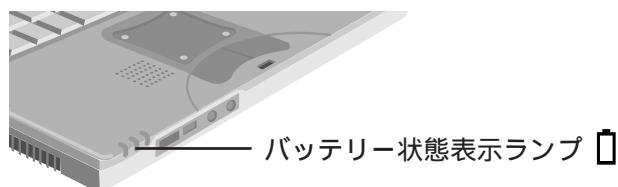
●長期間（約1か月以上）使わない場合は、バッテリーパックの性能維持のため、30 %～ 40 %程度の充電状態でコンピューターから取り外し、冷暗所に保管してください。
●バッテリーパックを長期間放置していた場合は、使用前に必ず充電してください。この場合、通常の時間で充電が終了しないことがありますが、故障ではありません。
●本機では過充電を防ぐため、満充電に近い状態では再充電できないようになっています。電池残量が90 %前後になるまで放電してから充電するようにしてください。
●バッテリーパックは消耗品です。バッテリーの駆動時間が著しく短くなり、充電を何度繰り返しても性能が回復しない場合は、バッテリーパックの寿命です。新しいものと交換してください。

（次ページにつづく）

充電についてのお願い（つづき）

●使用環境温度（5 ℃～35 ℃）の範囲内で充電してください。使用環境温度の範囲外では、また、使用環境温度の範囲内であっても、使用条件によりバッテリーパックの温度が高温あるいは低温になりすぎているときには、充電できない場合があります。（このとき、バッテリー状態表示ランプはオレンジ色に点滅します。）このようなときは、室温を調節したり、しばらくコンピューターの使用を控えるなどしてください。バッテリーパックの温度が範囲内に戻ると、自動的に充電が始まります。

●充電中、バッテリー状態表示ランプが赤色に点滅した場合は、内部の保護回路が働き、充電が中止された可能性があります。このような場合は、いったん、ACアダプターとバッテリーパックを本体から取り外し、再度、取り付けてください。また、このような現象が繰り返し起こる場合は、故障ということが考えられますので、お買い上げの販売店、または「ご相談窓口」にご相談ください。

バッテリー状態表示ランプについて

バッテリー状態表示ランプの状態	充電状態
オレンジ色に点灯	充電中
緑色に点灯	充電完了
赤色に点灯	バッテリー残量なし 充電が必要です。すぐにACアダプターを接続してください。ACアダプターがない場合は、動作中のプログラムを終了し、Windowsも終了して電源表示ランプ⏻が消えていることを確認してください。
オレンジ色に点滅	充電できない バッテリーパックの温度が使用環境温度の範囲外にあるため、充電できません。充電可能な温度に戻してから、再度、充電を始めてください。
赤色に点滅	バッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。再度正しく装着し直してください。それでも赤く点滅するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
消灯	バッテリーパックが装着されていません。あるいはACアダプターが接続されていません。

バッテリー残量の確認

バッテリーのみで使用することが多い場合、こまめに残量確認するようにしてください。バッテリー残量が少なくなったら、ACアダプターを接続してください。
バッテリー残量を確認するには、以下の4つの方法があります。
- キー操作（Fn + F9）で確認する。
- 電源メーターで確認する。
- アラームで確認する。
- バッテリー状態表示ランプで確認する。

◀電源が切れている状態でも、約120 mWの電力を消費します。標準バッテリーパックの場合、満充電していても約5日間でバッテリー残量がなくなります。

キー操作(Fn+F9)による残量確認

電源が入っている状態で Fn キーを押しながら F9 キーを押している間、画面上にバッテリーの残量を示すアイコンが表示されます。

バッテリー装着時（の一例）

78%

バッテリー未装着時

◀数値と、実際の残量は多少異なる場合があります。
◀本機のバッテリーパックは、残量補正機能を持っています。そのため、急に残量表示が変化することがあります。

残量補正機能とは
使用環境などの影響により、不正確になった残量表示を正確な値に戻す機能をいいます。

電源メーターによる残量確認

[コントロールパネル]→[電源の管理]をダブルクリックし、「電源メーター」をクリックして確認することができます。

バッテリーパックを使う

アラームによる残量確認

[コントロールパネル]→[電源の管理]をダブルクリックし、「アラーム」をクリックし、アラーム機能により確認することもできます。

◀ Fn + F4 や Fn + F5 のキー操作で音量をミュートしている場合、アラームは鳴りません。

＜バッテリ低下アラーム＞

バッテリー容量が一定のレベルに達したら、バッテリーの低下をアラームで知らせるよう設定します。「電源レベルが次に達したらバッテリ低下アラームで知らせる」にチェックマークを付け、%値を設定します。工場出荷時は「10 %」に設定されています。

アラームが鳴ったら
充電が必要です。すぐにACアダプターを接続してください。ACアダプターがない場合は、動作中のプログラムを終了し、Windowsも終了して電源表示ランプ⏻が消えていることを確認してください。

＜バッテリ切れアラーム＞

バッテリー容量が一定のレベルに達したら、バッテリー切れをアラームで知らせるよう設定します。
「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」にチェックマークを付け、%値を設定します。工場出荷時は「0 %」に設定されています。

また、「アラーム動作」ボタンをクリックすると、「通知方法」と「電源レベル」を設定することができます。

通知方法	「音で知らせる」「メッセージを表示する」から選択します。工場出荷時は「メッセージを表示する」に設定されています。
電源レベル	「アラーム後のコンピュータの動作」を設定する場合は左側の□にチェックマークを付け、「スタンバイ」と「シャットダウン」から選択します。 工場出荷時は、「バッテリ低下アラーム」ではこの機能は設定されていません。「バッテリ切れアラーム」では「スタンバイ」に設定されています。

◀「アラーム後のコンピュータの動作」を設定した場合は、「プログラムが応答しない場合でも、スタンバイまたはシャットダウンする」の左側の□にチェックマークを付けておいてください。
この機能により、シャットダウンまたはスタンバイ状態になったときは、ACアダプターを接続してください。ACアダプターがない場合は、起動およびリジュームできません。

バッテリー容量を正確に表示させるために

本機のバッテリーパックには、バッテリー容量を計測し、記憶・学習するための機能があります。この機能を正しく働かせて、バッテリー残量を正確に表示させるため、以下の手順に従って、満充電→完全放電→満充電の操作を行ってください。
この操作は、お買い上げ後、一度は行っておいてください。また、長くバッテリーパックをお使いの間には、バッテリーパックの劣化などにより残量が正確に表示されなくなる場合があります。その場合も、再度、この操作を行ってください。

1 バッテリーパック装着後、ACアダプターを接続する。

充電が始まります。

お願い

下記手順*2*の操作が完了し、バッテリー状態表示ランプが緑色になるまでは、ACアダプターを取り外さないでください。バッテリー容量を正しく計測できなくなります。

2 バッテリー状態表示ランプが緑色になったら、放電ツールを実行する。

① [スタート]→[Windowsの終了]をクリックし、[MS-DOSモードで再起動する]を選んで[OK]をクリックする。

② MS-DOSのプロンプト（C:\WINDOWS>）に続けて、以下のように入力して放電ツールを実行する。

c:\util\battref2 /g Enter

③ 確認のメッセージが表示されたら Y を押す。
この後、以下のように自動的に処理が流れます。

バッテリー状態表示ランプが消灯する

バッテリー状態表示ランプが赤点灯する

自動的にコンピューターの電源が切れる

満充電状態で放電ツールを実行した場合、自動的に電源が切れるまでに、約1.5時間（標準バッテリーパックの場合）かかります。

充電が始まる

バッテリー状態表示ランプがオレンジ色に点灯したらこの操作は完了です。コンピューターの電源を入れて使用してください。

お願い

- 放電ツール実行後、自動的に電源が切れるまではコンピューターを操作しないでください。
- 充電開始時、バッテリー状態表示ランプがオレンジ色に点滅した場合は、「充電についてのお願い」（→86ページ）をご覧ください。

周辺機器を拡張する

ここでは、フロッピーディスクドライブおよび別売りの周辺機器（I/Oボックス、外部ディスプレイ、プリンターなど）の接続のしかた、PCカードのセットのしかたなどについて説明します。

フロッピーディスクドライブを使う

フロッピーディスクドライブ(外部FDD：CF-VFDU02)をご使用ください。

1 操作を終わり、電源が切れたことを確認する。

2 フロッピーディスクドライブを取り付ける／取り外す。

<取り付ける場合>

❶ 拡張バスコネクターのカバーを開ける。

❷ 周辺接続ケーブルの各コネクターを、向きに注意して両側のロックがかかるまで差し込む。

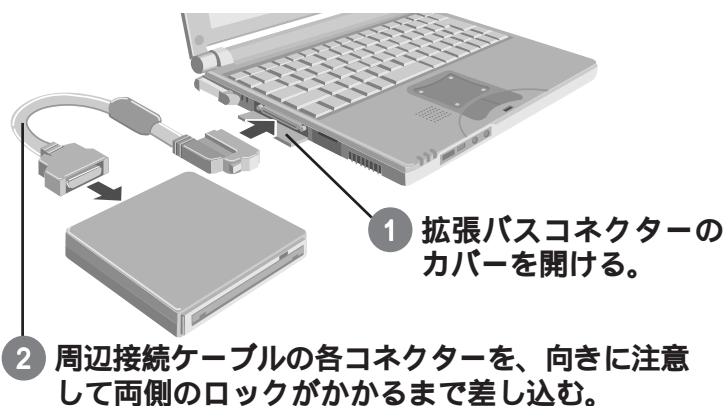
<取り外す場合>

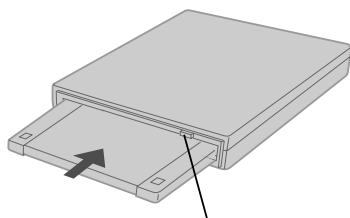
ロック解除レバーを押しながらそれぞれのコネクターを引き抜く。

◀詳しくは
→取扱説明書『セットアップ編』

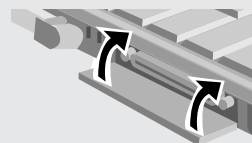
周辺接続ケーブル
- I/O FDDと刻印されているコネクターを外部FDDへ
- EXT.と刻印されているコネクターを本体へ

拡張バスコネクターのカバーの閉じかた

両端を同時に押して閉じてください。中央部を押すとうまく閉じることができません。

フロッピーディスクのセット／取り出し

<セットする場合>

フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで、確実に挿入する。

<取り出す場合>

ドライブアクセスランプが点灯していないことを確認した後、取り出しボタンを押す。

お願い
- ドライブアクセスランプ点灯中はフロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内のデータが壊れる恐れがあります。
- フロッピーディスクドライブを持ち運ぶときや保管しておくときには、必ず、フロッピーディスクは取り出してください。

I/Oボックスを使う

プリンターや外部ディスプレイなどを接続するときは、まず、本体に別売りのI/Oボックス（→148ページ）を取り付けてください。

1 操作を終わり、電源が切れたことを確認する。

◀詳しくは
→取扱説明書『セットアップ編』

2 I/Oボックスを取り付ける／取り外す。

＜取り付ける場合＞

周辺接続ケーブル
- I/O FDDと刻印されているコネクターをI/Oボックスへ
- EXT.と刻印されているコネクターを本体へ

拡張バスコネクターのカバーの閉じかた
→前ページ

＜取り外す場合＞

使用できるフロッピーディスクの種類と記録容量

フロッピーディスクには「2HD」と「2DD」の２種類があります。それぞれの記憶容量は次のとおりです。

2HD:　1.44 Mバイト/1.2 Mバイト
2DD:　720 Kバイト

1.2 Mバイトのフロッピーディスクを読み書きするには、ドライバープログラムをインストールする必要があります。詳しくは、「1.2Mバイトのフロッピーディスクの読み書き」（→129ページ）をご覧ください。

用 語

読み出し：フロッピーディスクのデータを本体のメモリー上に送ることを「読み出し」といいます。
書き込み：メモリー上のデータをフロッピーディスクに送り、記録することを「書き込み」といいます。
フォーマット：新しいディスクは、磁気的に区画整理する必要があります。この作業を「フォーマット」（初期化）といいます。

フロッピーディスクドライブとI/Oボックスの両方を使う

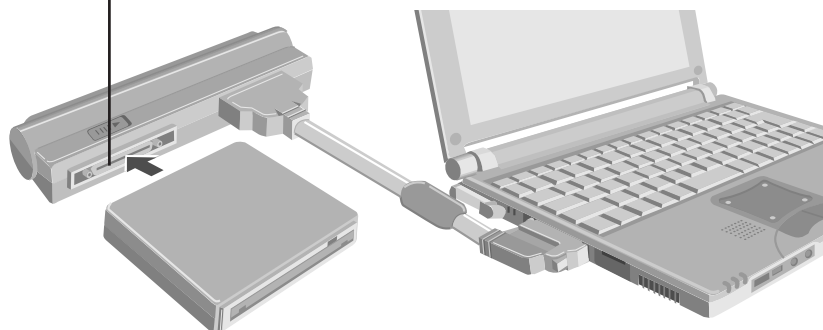
プリンターや外部ディスプレイなどを接続するときは、まず、本体に別売りのI/Oボックス（→148ページ）を取り付けてください。

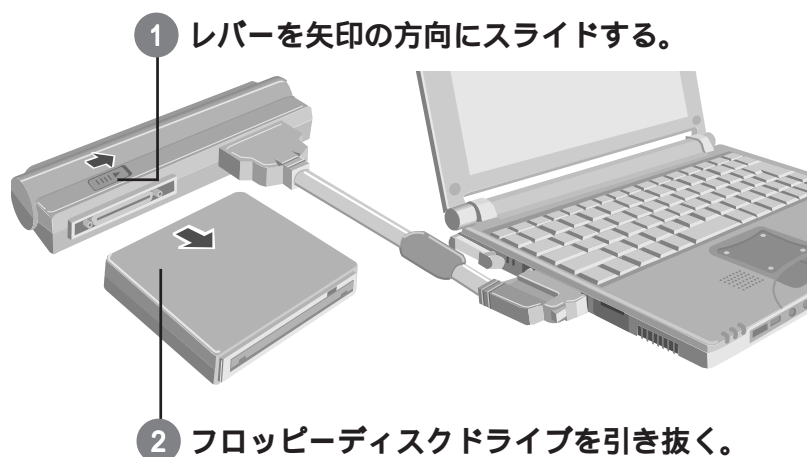
1 操作を終わり、電源が切れたことを確認する。

2 I/Oボックスを取り付ける。

3 フロッピーディスクドライブを取り付ける／取り外す。

＜取り付ける場合＞

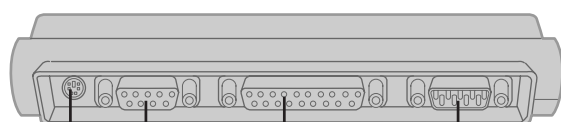
フロッピーディスク
ドライブコネクター

コネクターの向きに注意して両側のロックがかかるまで差し込む。

＜取り外す場合＞

◀詳しくは
→取扱説明書『セットアップ編』

I/Oボックスの取り付け／取り外し
→前ページ

I/Oボックスに周辺機器を接続する

1 I/Oボックスを取り付ける。

2 各周辺機器を接続する。

I/Oボックスの取り付け／取り外し
→91ページ

◀各周辺機器の設定・準備などについては、各周辺機器に付属の説明書をお読みください。

マウスとスマートポインターを併用する場合

マウスまたはドライバーの種類によっては、マウスやスマートポインターが正しく動作しない場合があります。

インテリマウス™とスマートポインターを併用する場合

インテリマウスのホイールスクロール機能は使用できません。ホイールスクロール機能を使用する場合はセットアップユーティリティーの「メイン」メニューで「スマートポインター」を[無効]に設定してください。ただしスマートポインターは使用できなくなります。

デュアルディスプレイモードを使う

別売りの外部ディスプレイを接続している場合、デュアルディスプレイモードを使うと内部LCDと外部ディスプレイを連続した表示領域として使うことができます。

内部LCDから外部ディスプレイにウィンドウのドラッグ移動ができます。
（上記はサンプル画面です。実際の画面と異なる場合があります。）

◀アプリケーションソフトによっては、デュアルディスプレイモードを使用できない場合があります。

デュアルディスプレイモードを設定する

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[画面]をダブルクリックする。

2 [設定]→[詳細]→[NeoMagic]をクリックし、「デュアルディスプレイ設定」にチェックマークを付け、[OK]をクリックする。

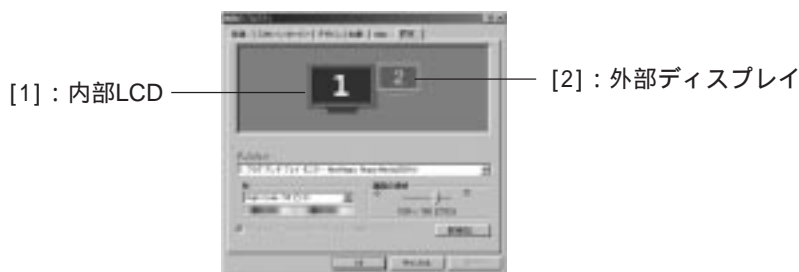
3 コンピューターを再起動する。

「Windowsを再起動して変更が効果を表すようにします...」というメッセージが表示されます。[はい]をクリックしてください。

再起動後、デュアルディスプレモードにならない場合
[コントロールパネル]→[画面]→[設定]で外部ディスプレイ[2]を右ボタンでクリックし、「使用可能」メニューにチェックマークを付けてください。

4 画像の領域・色数を設定する。

[コントロールパネル]→[画面]→[設定]で設定します。
内部LCDと外部ディスプレイにはそれぞれモニター番号が付けられています。内部LCD[1]と外部ディスプレイ[2]をクリックし、それぞれに対して画面領域・色数を指定してください。

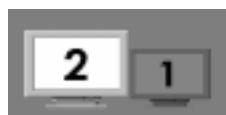
画面領域・色数について
→96ページ

5 拡張表示位置を設定する。

モニター番号をドラッグ＆ドロップし、実際の外部ディスプレイの配置位置にあわせると、操作がしやすくなります。

外部ディスプレイの配置例：

右側に配置する場合

後側に配置する場合

左側に配置する場合

6 [OK]をクリックする。

モニター番号を確認するには

画面のプロパティのモニター番号をクリックしたままにしておくと、その番号に対応したモニター側に右のように番号が表示されます。

デュアルディスプレイモードを設定すると

- 最大化ボタンをクリックするとどちらか一方のディスプレイに最大表示されます。
- 最大化したウィンドウをもう一方のディスプレイに移動することはできません。
- デュアルディスプレイモードを設定しても、電源を切った状態で外部ディスプレイを取り外し、起動するとデュアルディスプレイモードは自動的に解除されます。

起動アプリケーションソフトが画面に表示されないとき

アプリケーションソフトが外部ディスプレイ（モニター２）にある状態、または外部ディスプレイでそのアプリケーションを終了したあとで、拡張表示位置を変更したりデュアルディスプレイモードを終了したりすると、次回、起動したアプリケーションソフトが画面に表示されない場合があります。

＜拡張表示位置を変更したあと、表示されなくなった場合＞

起動したアプリケーションソフトは変更前の拡張表示位置に表示されています。
いったん、拡張表示位置を変更前の状態に戻してから、アプリケーションソフトを内部LCD（モニター１）に移動したあと、拡張表示位置を変更してください。

＜デュアルディスプレイモードを終了したら、表示されなくなった場合＞

起動したアプリケーションソフトは外部ディスプレイ（モニター２）に表示されています。
再度、デュアルディスプレイモードに設定し、アプリケーションソフトを外部ディスプレイ（モニター２）から内部LCD（モニター１）に移動した後、デュアルディスプレイモードを終了してください。

壁紙、アイコン位置がずれるとき

壁紙：　壁紙を設定しなおしてください。
アイコン：アイコンの自動整列を実行してください。

次ページ下部に続く

画面領域・色数について

デュアルディスプレイモードで設定できる画面領域・色数の組み合わせは以下のとおりです。

内蔵LCD		外部ディスプレイ 256色		
		640×480	800×600	1024×768
640×480	256色	○	○	○
640×480	High Color	○	○	○
640×480	True Color	○	○	○
800×600	256色	○	○	○
800×600	High Color	○	○	○
800×600	True Color	○	○	○
1024×768	256色	○	○	○
1024×768	High Color	○	○	-
1280×1024	256色	○	○	○

内蔵LCD		外部ディスプレイ 65,536色(High Color)		
		640×480	800×600	1024×768
640×480	256色*1	-	-	-
640×480	High Color	○	○	○
640×480	True Color	○	○	-
800×600	256色*1	-	-	-
800×600	High Color	○	○	-
800×600	True Color	○	-	-
1024×768	256色*1	-	-	-
1024×768	High Color	○	-	-

*1選択できますが外部ディスプレイの色数は256色になります。

色数について

High Color: 65,536色
True Color: 約1,600万色

使いかた

拡張

省電力機能を使うとき

省電力ユーティリティーソフトウエア「PowerPanel」の機能により、ディスプレイの電源が切れないように設定してください。この設定をしない場合、正常に表示できない場合があります。

マウスポインターにアニメーションポインターを使うとき

「コントロールパネル」の「デスクトップテーマ」でテーマを変更したときなど、スタンバイや休止状態からリジュームしたときにエラーが発生することがあります。このような場合は、次の手順でマウスポインターを標準のポインターに変更してください。

①「コントロールパネル」の［マウス］をダブルクリックする。
②「ポインタ」タブをクリックする。
③「デザイン」の中から「Windowsスタンダード」を選択する。
④［OK］をクリックする。

RAMモジュール（カード）を使う

現在のメモリー容量は、セットアップユーティリティーの「メイン」メニュー（→116ページ）で確認することができます。
工場出荷時は、64 Mバイトです。さらに別売りのRAMモジュールを増設することによってメモリー容量を拡張することができます。RAMモジュールを増設または取り外す場合は、以下の手順に従って操作してください。

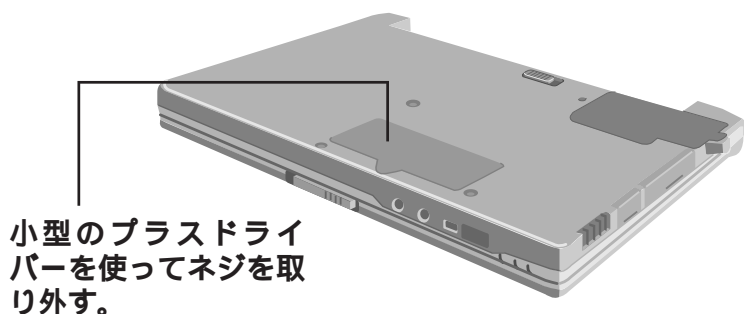
お願い
下記指定以外のRAMモジュールを使用すると、正常に動作しないだけでなく故障の原因になる場合があります。
64 MB RAMモジュール
品番：CF-BAS1064J

1 操作を終わり、電源が切れたことを確認する。

◀詳しくは
→取扱説明書『セットアップ編』

2 ACアダプターとバッテリーパックを取り外して本体を裏返す。

お願い
スタンバイや休止状態のときは、機器の取り付け・取り外しを行わないでください。機器が破損したり、正常に動作しないことがあります。

3 ネジを取り外し、カバーを開ける。

4 RAMモジュールを取り付ける／取り外す。

<取り付ける場合>

◀向きと角度に注意して差し込んでください。向きやミゾとの角度を間違うとうまく入りません。

<取り外す場合>

お願い
RAMモジュールは、静電気に対して非常に弱い部品で、人間の体内にたまった静電気により破壊される場合があります。取り付けおよび取り外しのときは、端子などに触れないようにしてください。また、本体内部の部品や端子などにも触れないでください。

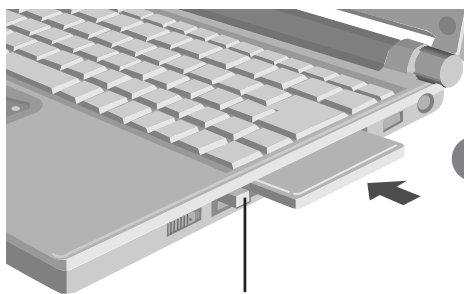
5 手順*3*で取り外したカバーとネジを取り付ける。

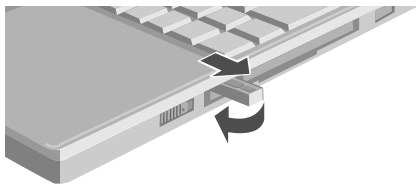
6 ACアダプター、バッテリーパックを取り付ける。

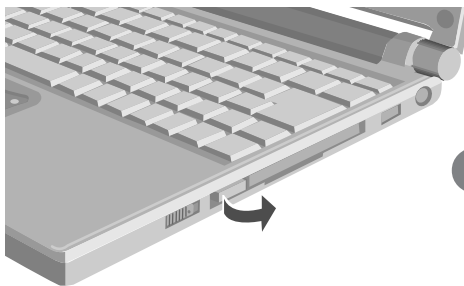
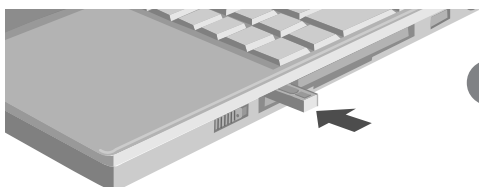
周辺機器を拡張する

PCカードを使う

本機にはPCカード用スロットが１つあります。
PCカードを使うことにより通信機能を利用したり、SCSI機器などの周辺機器を接続することができます。
カードは厚みによってタイプⅠ（3.3mm）、タイプⅡ（5.0mm）、タイプⅢ（10.5mm）の３つの種類に分けられます。
本機で取り付けることができるのは、タイプⅠまたはタイプⅡのカードです。

＜取り付ける場合＞

❶ カードをPCカードスロットにしっかりと差し込む。

取り出しボタンが飛び出ます。

❷ 取り出しボタンを完全に引き出してから、折り曲げる。

＜取り外す場合＞

❶ 取り出しボタンの折れ曲がり部分を起こす。

❷ 取り出しボタンを押し、カードを取り出す。

ご使用の前に

- **必ず、PCカードの消費電力を確認してください。PCカードスロットの許容電流（許容電流：3.3 Vで500 mA,5 Vで400 mA,12 Vで120 mA）を超えて使用すると、故障の原因となりますのでご注意ください。**
- **PCカードの操作方法は、PCカードに付属の取扱説明書をご覧ください。**
- **スタンバイや休止状態時には、取り付け・取り外しは行わないでください。**
- **本機はZVカードには対応していません。**

お願い

カードを取り出す場合：
「コントロールパネル」の[PCカード（PCMCIA）]をダブルクリックし、「PCカード（PCMCIA）のプロパティ」画面で取り出すPCカードを選んで、[停止]をクリックしてください。その後、「このデバイスは安全に取り外せます」というメッセージが表示されたら、[OK]をクリックしてください。

CardBusおよびネットワークカードを取り出す場合：
必ず電源を切ってから取り外してください。

DVキャプチャー機能を使う

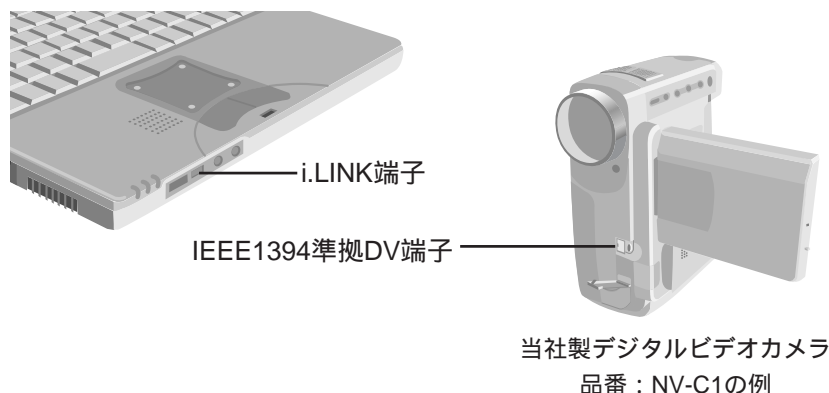
デジタルビデオカメラ（別売り）を本機に接続して、以下のDVキャプチャー機能を使うことができます。
- 撮影した内容をコンピューターで再生する。
- 撮影した内容やデジタルビデオカメラからの入力の一部を動画や静止画ファイルとして保存する。
- ファイルに保存した内容を表示・再生する。

デジタルビデオカメラを接続する

以下のものを準備してください。
- デジタルビデオカメラ（別売り）
- i.LINKケーブル（別売り）
- キャプチャーしたいミニDVテープ（撮影済み）

1 操作を終わり、電源が切れたことを確認する。

2 本機とデジタルビデオカメラをi.LINKケーブルで接続する。

当社製デジタルビデオカメラ
品番：NV-C1の例

3 デジタルビデオカメラと本機の電源を入れる。

i.LINKケーブル
本機のi.LINK端子とデジタルビデオカメラのIEEE1394準拠DV端子を接続するケーブル（4ピン-4ピン）です。ケーブルの呼び名は商品によって異なることがあります。

◀詳しくは
→取扱説明書『セットアップ編』
◀デジタルビデオカメラに付属の説明書も参照してください。

撮影した内容をキャプチャーする場合
デジタルビデオカメラに撮影済みミニDVテープをセットし、再生モード（VTR）にします。

デジタルビデオカメラからの入力をキャプチャーする場合
デジタルビデオカメラを撮影モードにします。

使いかた

拡張

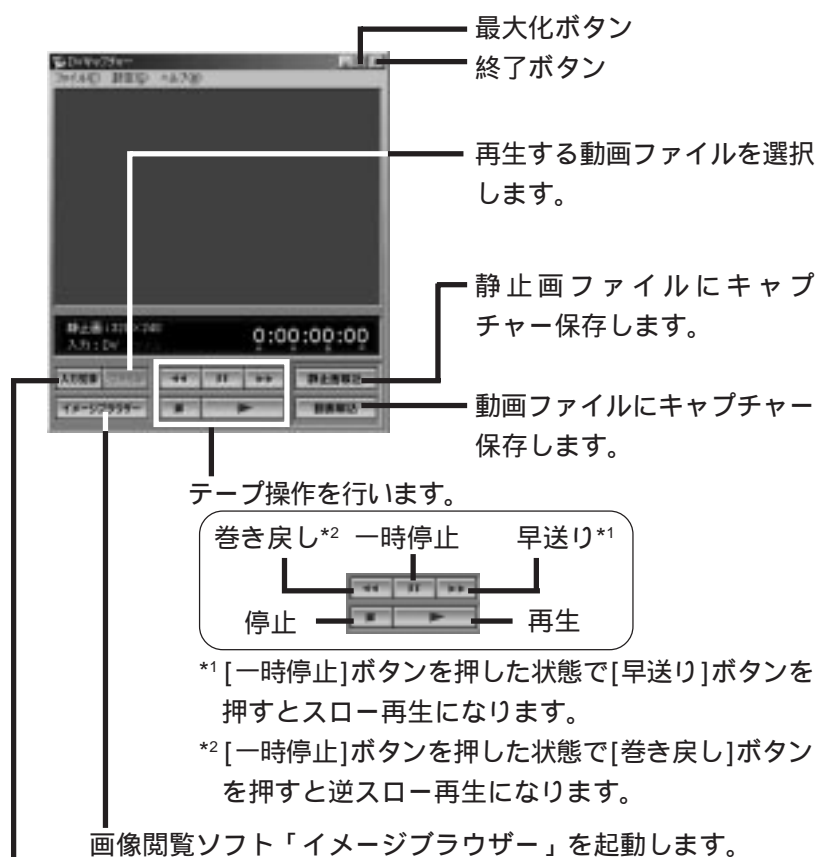
DVキャプチャーを起動する前に

- キャプチャードライバー、オーバーレイ機能、Direct DrawおよびDirect Soundを使用したゲームなどの動画表示アプリケーションソフトは終了してください。
- 画面のプロパティの画面領域・色数を以下のいずれかの設定にしてください。
  800 x 600 ピクセル、 High Color（16 ビット）
  800 x 600 ピクセル、 True Color（24 ビット）
  1,024 x 768 ピクセル、 High Color（16 ビット）
- デュアルディスプレイモードは使用しないでください。
- 省電力ユーティリティーソフトウェア「PowerPanel」を「パワーマネージメントオフ」に設定してください。（「プロファイル自動選択」にしている場合は、DVキャプチャーが起動すると自動的に「パワーマネージメントオフ」に設定されます。）

DVキャプチャーを起動する

1 デジタルビデオカメラを接続する。→ 前ページ

2 デスクトップの をダブルクリックする。

*1 [一時停止]ボタンを押した状態で[早送り]ボタンを押すとスロー再生になります。
*2 [一時停止]ボタンを押した状態で[巻き戻し]ボタンを押すと逆スロー再生になります。

画像閲覧ソフト「イメージブラウザー」を起動します。

デジタルビデオカメラを再生するかキャプチャー保存した動画ファイルを再生するかを切り換えます。

◀「DVキャプチャーを起動する前に」に従って、設定や操作を行っておいてください。→前ページ

◀カメラ接続後、テープの再生、停止のテストが自動的に行われます。それが終了するまでは「DVキャプチャー」を起動しないでください。

可能な表示サイズについて
- 360 x 240 ピクセル表示
- 最大化表示

最大化ボタンにより映像画面を最大化表示可能（画質は劣化します。）

◀DVキャプチャー起動中は、スタンバイや休止状態に入ることができません。

お願い

DVキャプチャーが起動しているときに以下の操作をしないでください。動作が不安定になる場合があります。
- 「画面のプロパティ」での画面領域や色数の変更
- デジタルビデオカメラの電源の入/切。
- デジタルビデオカメラの再生/撮影モードの切り換え。
- i.LINKケーブルの抜き差し。
- デジタルビデオカメラのボタンを使った再生/停止/早送り/巻戻しなどの操作。

動画キャプチャーを行う前に（コマ落ちを防ぎ、正常に動画キャプチャーを行うために）
- 他のアプリケーションソフトやウィルスチェック等の常駐プログラムを終了してください。
- 通信機能は無効にしてください。
- 右ボタンでデスクトップ（壁紙）をクリックし、「アクティブデスクトップ」の「WEBページで表示」のチェックマークを外してください。
- [スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[システムツール]→[デフラグ]をクリックし、Cドライブの最適化を実行してください。また、[デフラグ]を実行する際は、必ずPowerPanelを終了してください。（PowerPanelの終了のしかた→80ページ）

動画キャプチャー機能を使う

テープに収録した中から、またデジタルビデオカメラの入力からお好みのシーンなどを動画ファイルとして保存することができます。

1 DVキャプチャーを起動する。→ 前ページ

2 テープを再生し、動画キャプチャーを行う。

◀「DV」になっていない場合は、[入力切換]をクリックしてください。

◀再生が始まります。

◀動画キャプチャー中は、カーソルを動かすなど他の操作をしないでください。

◀キャプチャー中は、キャプチャー時間が表示されます。

◀キャプチャーは終了しますが、再生は継続します。

- 最大キャプチャー時間は、約1分です。1分あたり約230 Mバイトのファイルサイズになります。
- 圧縮したドライブにはキャプチャー保存できません。またアフレコ音声や副音声のキャプチャー保存はできません。
- テープの先頭からキャプチャーした場合やテープに未収録部分が含まれる場合、正しくキャプチャー保存できないことがあります。
- 1本のテープに異なる記録モード（SP/LP）の内容が混在している場合、その境界部分を挟んでのキャプチャーは正常にできないことがあります。キャプチャー保存は、同じ記録モードの範囲内で行ってください。
- ハードディスクの残り容量が300 Mバイト以下になると自動的にキャプチャーが中止されます。
- デジタルビデオカメラの特殊機能（エフェクト、マルチ画面など）は使用できない場合があります。

<キャプチャー保存について>

キャプチャーした動画は、以下のフォルダー、ファイル名で自動的に保存されます。

ファイル名の一部に、作成年月日、時間が自動的に付けられます。

1999年8月25日13時08分14秒にキャプチャー保存したときの例：

◀格納先フォルダーと保存ファイル名を変更することができます。→104ページ

◀ファイル形式は720 x 480 ピクセル、30 コマ／秒のDV形式AVIファイルです。（拡張子AVI）

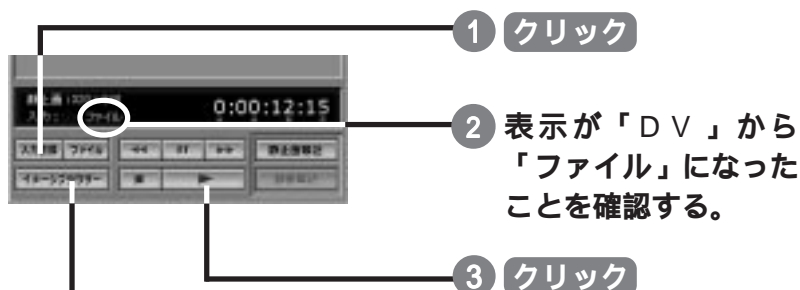
3 [■]をクリックして再生を停止する。

使いかた

拡張

キャプチャーした動画ファイルを再生する

1 DVキャプチャーを起動する。→ 前ページ

2

複数の動画ファイルがある場合、[ファイル]をクリックし、フォルダーと動画ファイル（.AVI）を選んで再生してください。
ただし、DV形式のAVIファイル以外は再生できません。

<再生するファイルをイメージブラウザーから選ぶ場合>

デジタルビデオカメラへの出力
ＤＶ形式ＡＶＩファイルの映像はi.LINK端子に接続したデジタルビデオカメラにも出力することができます。
市販のノンリニア映像編集ソフト（Adobe® Premiere®など）で特殊効果をつけたファイルをテープに書き戻し録画することができます。（録画はカメラ側の操作で行います。）

◀最後にキャプチャーした動画、または最後に再生したファイルの再生が始まります。

お願い
PDドライブなど外付けドライブに保存されているAVIファイルは、正しく再生できない場合があります。それらのファイルを再生する場合は、ハードディスクにコピーしてから行ってください。

◀動画の先頭画像を一覧表示します。

◀再生が始まります。

使いかた 拡張

静止画キャプチャー機能を使う

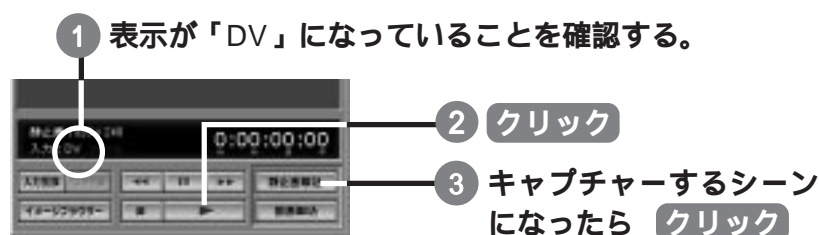
テープに収録した中から、また、デジタルビデオカメラの入力からお好みのシーンなどを静止画ファイルとして保存することができます。

1 DVキャプチャーを起動する。→ 100ページ

2 テープを再生し、静止画キャプチャーを行う。

◀「DV」になっていない場合は、[入力切換]をクリックしてください。

◀再生が始まります。

◀クリックするごとに1つのファイルとして保存されます。また、「一時停止」ボタンでシーンを確認してから「静止画取込」することもできます。

- 保存可能なファイル形式はJPEGまたはBMPです。（拡張子JPGまたはBMP）
- 工場出荷時は、JPEG形式、320 x 240 ピクセル、約1,600万色のカラー画像でキャプチャー保存され、1画像あたり約30 Kバイトのファイルサイズになります。
- キャプチャー保存したファイルの名称と格納先は、以下のとおりです。ファイル名の一部に作成年月日、時間が自動的に付けられます。
  1999年8月25日13時08分14秒にキャプチャー保存したときの例：

- デジタルビデオカメラの特殊機能（エフェクト、マルチ画面など）は使用できない場合があります。

◀画像の形式やサイズ、色設定は「静止画設定」（次ページ）で変更することができます。この設定により、ファイルサイズは異なります。

◀格納先フォルダーと保存ファイル名を変更することができます。→次ページ

◀同じ時間に複数のキャプチャーが行われた場合、以下のように末尾に番号が追加されます。
CP0825_130814_1999_01.JPG
CP0825_130814_1999_02.JPG
CP0825_130814_1999_03.JPG...
（追加される番号は01から99までです。それ以上は保存できません。）

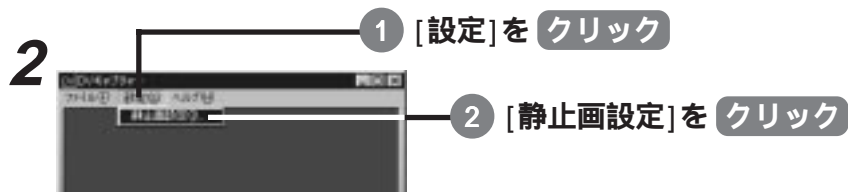
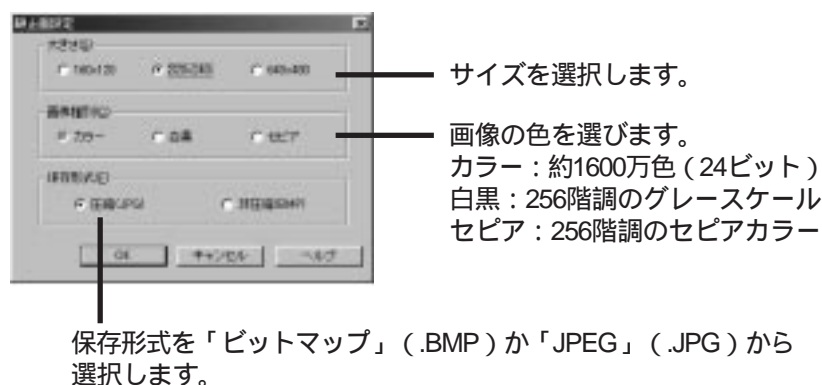
キャプチャーした静止画ファイルを見る

画像閲覧ソフト「イメージブラウザー」で一覧表示したり、拡大表示したりすることができます。→105ページ

DVキャプチャー機能を使う

静止画キャプチャーの詳細設定

1 DVキャプチャーを起動する。→ 100ページ

2

3 静止画設定を行い「OK」をクリックする。

◀画像のサイズや色設定により、ファイルサイズは異なります。

◀手順2の画面上で右ボタンをクリックしたときに表示されるメニューを使って、設定を変更することもできます。

格納先フォルダーとファイル名の変更

「DVキャプチャー」を起動し、「ファイル」メニューから「格納ファイル設定」を選んで格納先フォルダーやファイル名の設定をすることができます。

例：

使いかた 拡張

画像ファイルを活用する

画像閲覧ソフト「イメージブラウザー」には以下の機能があります。
・画像ファイルをアルバムのように一覧表示する。
・一覧表示から画像をメール送信する。
・静止画に音声を付けてメール送信する。
（ボイスオンメール→109ページ）
・イラスト調に加工した画像をメール送信する。
（似顔絵メール→111ページ）
・動画を圧縮しプレーヤーを付けてメール送信する。
（ムービーオンメール→112ページ）

ヘルプ機能について
各機能のヘルプもあわせてご覧ください。

画像を一覧表示する

1 デスクトップの イメージブラウザー をダブルクリックする。

ボイスオンメールの起動（→109ページ）
選択した静止画に音声を付けることができます。続けてメールソフトを起動し、音声付き静止画ファイルを添付ファイルにすることができます。

静止画の表示
表示画像フォルダー内のビットマップ形式（.BMP）またはJPEG形式（.JPG）の画像を表示します。

似顔絵メールの起動（→111ページ）
選択されている静止画をイラスト調の画像にすることができます。続けてメールソフトを起動し、それを添付ファイルにすることができます。

動画／ボイスの表示
表示画像フォルダー内のAVI形式（.AVI）の先頭の静止画像、ボイスオンファイル（.PMS）の静止画像またはムービーオンメールやボイスオンメールのファイル（.EXE）の静止画像を表示します。

メール送信
メールソフトを起動し、選択した画像を添付ファイルにすることができます。

ムービーオンメールの起動（→112ページ）
選択した動画をプレーヤー付き実行ファイルに圧縮することができます。続けてメールソフトを起動し、圧縮した動画ファイルを添付ファイルにすることができます。

◀工場出荷時の設定では
「c:\MyImage」フォルダーの内容が一覧表示されます。

表示する画像のフォルダーを変更するには
[ファイル]→[表示画像フォルダの選択]をクリックして、順に選んでください。

TMPWORKフォルダーについて
指定した表示画像フォルダーの下に自動作成されます。このフォルダーは、動画ファイル（.AVI ）の１コマ目の表示などを行うテンポラリーファイル（.BMS ）を格納するためのものです。表示画像フォルダーの下にTMPWORKフォルダーを作成するかどうかは、「ファイル」メニューの「作業フォルダモードの設定」で各ドライブごとに設定できます。

使いかた

拡張

画像ファイルを活用する

画像を表示する

▶各画像をダブルクリックすると、静止画の表示や動画の再生を行うアプリケーションが連携して起動します。

静止画（.BMP）の場合
「ペイント」が起動し、選んだ画像が表示されます。

静止画（.JPG）の場合
「イメージング」が起動し、選んだ画像が拡大表示されます。

動画（.AVI）の場合
「Windows Media Player」が起動します。「再生」（▶）ボタンをクリックすると動画の再生が始まります。

ボイスオンファイル（.PMS）の場合
「ボイスオンプレーヤー」が起動し、選んだ画像が表示されます。「PLAY」ボタンをクリックすると音声の再生が始まります。

使いかた
拡張

イメージブラウザーのメニューコマンドについて

主なコマンドは以下のとおりです。

ファイルメニュー
- 表示画像フォルダの選択：　画像を表示するフォルダーを変更します。
- 連携アプリケーションの登録：画像を表示するアプリケーションを登録します。
- 連携アプリケーションの選択起動：　画像を表示するアプリケーションを選択起動します。

編集メニュー
- 画像ファイルのコピー：　選択した画像を別のフォルダーにコピーします。
- 画像ファイルの削除：　選択した画像を削除します。

表示メニュー
- 自動更新：　自動的に最新状態に画面を更新します。
- 表示サイズ：　一覧表示の表示サイズを変更します。
- スライド：　画像の表示を自動的スクロールします。

設定メニュー
- Eメール起動設定：　→次ページ「メールソフトの設定」

画像をメール送信する

イメージブラウザーの各メール送信機能を使うと、クリック操作1つで、画像を添付した新規のメール作成画面を開くことができます。送付する画像をファイル名を手がかりに探す必要がなく便利です。
イメージブラウザーのメール送信機能には以下の種類があります。

・静止画や動画を一覧表示から選び、メール送信する。

・静止画に音声を付けてメール送信する。
（ボイスオンメール→109ページ）

・イラスト調に加工した画像をメール送信する。
（似顔絵メール→111ページ）

・動画を圧縮しプレーヤーを付けてメール送信する。
（ムービーオンメール→112ページ）

◀MAPI対応のメールソフトを使用する必要があります。
また、使用するメールソフトによっては、あらかじめメールソフトを起動しておく必要がある場合があります。

メールソフトの設定

イメージブラウザーの各メール送信機能を使うには、あらかじめ以下の設定が必要です。

1 イメージブラウザーを起動する。→ 105ページ

2 「設定」メニューの「Eメール起動設定」をクリックし、設定を行う。

◀MAPI対応でないメールソフトを使用する場合、「MAPI対応メールソフトを使わない」を選択してください。

MAPI非対応メールソフトの場合

イメージブラウザー、ボイスオンメール、似顔絵メール、ムービーオンメールの「Eメール」をクリックしてもメールソフトの自動起動ができません。あらかじめメールソフトを起動しておいてください。
右のメッセージが表示されたら「はい」をクリックし、送信する画像ファイルを選んでメールソフトに添付してください。

Outlook ExpressまたはOutlook 97/98を使う場合

Outlook ExpressまたはOutlook 97/98でバイナリーデータを添付する場合、受信側の使用するメールソフトによっては、正しく読み取れないことがあります。この場合、Outlook ExpressまたはOutlook 97/98の送信メールの設定で送信メールの形式をテキスト形式にしてください。また、添付ファイル形式をMIME（エンコード方法：なし）にしてください。設定方法の詳細については、Outlook ExpressまたはOutlook 97/98でのヘルプまたはマニュアルをご覧ください。

画像ファイルを活用する

一覧表示からメール送信する

1 イメージブラウザーを起動する。→105ページ

❶ メール送信する静止画像を クリック

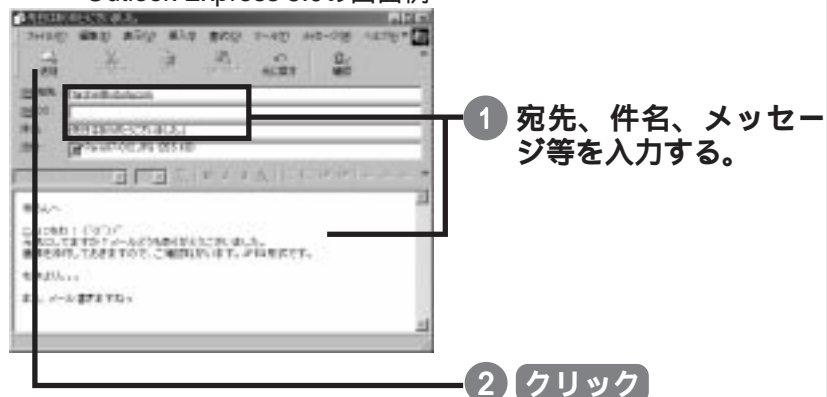
❷ クリック

◀「Eメール起動設定」の画面が表示された場合は、「メールソフトの設定」を行ってください。
→107ページ

2 メッセージ等を書いて送信する。

Outlook Express 5.0の画面例

❶ 宛先、件名、メッセージ等を入力する。

❷ クリック

動画ファイルのメール送信
動画ファイルは容量が大きく、そのまま送信することはおすすめできません。
「ムービーオンメール」（→112ページ）で圧縮して送信してください。

使いかた 拡張

静止画に音声を付けてメール送信する（ボイスオンメール）

静止画像に音声を付けたボイスオンファイル（.PMS）を作成することができます。表示・再生には専用のプレーヤー（ボイスオンプレーヤー）が必要になりますが、メール送信用に専用のプレーヤーを付けたファイルを作成することもできます。また、クリック操作1つで、画像を添付した新規メール作成画面を開くことができます。

1 イメージブラウザーからボイスオンメールを起動する。

◀ボイスオンメールは、デスクトップの をクリックして起動することもできます。

音声の録音

タスクバーの をダブルクリックして、マイクが使用できる状態に設定しておいてください。
録音は最大300秒までできます。
録音済みの状態で、再度録音を行うと、以前に録音されたデータは失われます。

2 音声を録音する。

◀録音が始まり「停止」ボタンに変わります。

◀録音が終わります。

ファイル保存

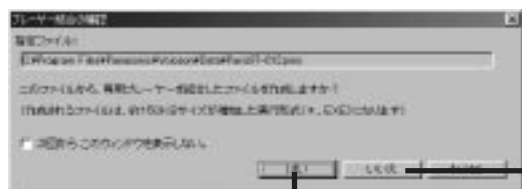
録音した音声は静止画像とともにボイスオンファイルとして保存することができます。（「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」を選ぶ。）
ボイスオンファイルは、イメージブラウザーの「動画／ボイス」からボイスオンプレーヤーで再生することができます。

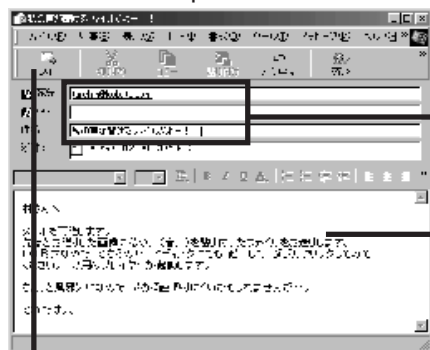
3 録音内容を確認し、メールソフトを起動する。

◀「Eメール起動設定」の画面が表示された場合は、「メールソフトの設定」を行ってください。
→107ページ

使いかた
拡張

画像ファイルを活用する

4 ボイスオンプレーヤーを付けるかどうかを選ぶ。

5 メッセージ等を書いて送信する。

Outlook Express 5.0の画面例

ボイスオンプレーヤー

ボイスオンファイルの再生には本プレーヤーが必要です。
メール送信先の相手がプレーヤーを持っていない場合は「はい」をクリックしてください。
プレーヤーを持っている場合は、「いいえ」をクリックしてください。「いいえ」をクリックするとファイルサイズが小さくなり、メール送信時間が短くなります。
ただし、本プレーヤーは、Windows 98またはWindows 95にのみ対応しています。それ以外の環境では動作しません。

イラスト調に加工した画像をメール送信する（似顔絵メール）

**静止画像の輪郭を抽出してイラスト調の画像に加工することができます。人物の画像にこの機能を使うと似顔絵のようになります。
クリック操作1つで、画像を添付した新規のメール作成画面を開くことができます。**

1 イメージブラウザーから似顔絵メールを起動する。

◀似顔絵メールは、デスクトップ上の をクリックして起動することもできます。

◀「似顔絵」をクリックすると加工が始まります。加工には多少時間がかかります。

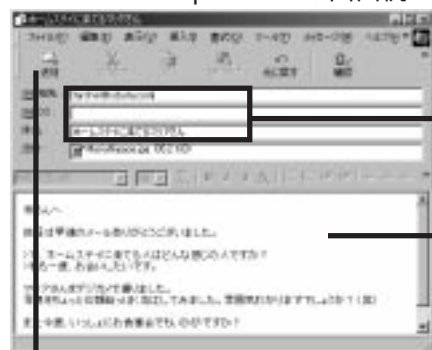
2 画像の微調整をし、メールソフトを起動する。

◀「Eメール起動設定」の画面が表示された場合は、「メールソフトの設定」を行ってください。
→107ページ

3 メッセージ等を書いて送信する。

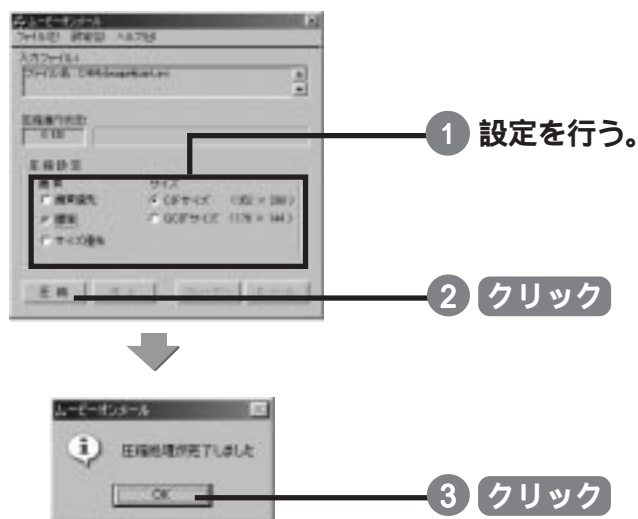
Outlook Express 5.0**の画面例**

使いかた

拡張

動画を圧縮しプレーヤーを付けてメール送信する（ムービーオンメール）

動画ファイルを圧縮し、プレーヤーを付けて送信することができます。

1 イメージブラウザーからムービーオンメールを起動する。

◀ ムービーオンメールは、デスクトップ上の をクリックして起動することもできます。

2 動画の圧縮設定を行い、ファイル圧縮する。

圧縮後の画像について
画像の縦横のサイズが小さくなります。また、1秒あたりのコマ数を間引いているため、元の動画と比べて動きが滑らかではなくなる場合があります。

3 動画の圧縮設定を行い、ファイル圧縮する。

◀ 専用のプレーヤーが起動します。Windows 98またはWindows 95にのみ対応しています。それ以外の環境では動作しません。

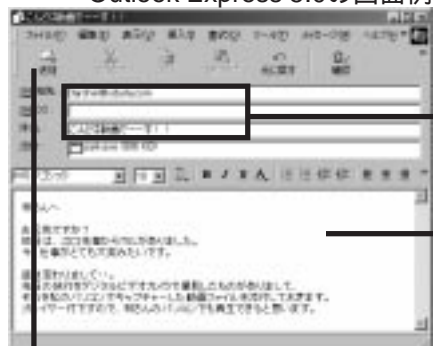
◀「Eメール起動設定」の画面が表示された場合は、「メールソフトの設定」を行ってください。
→107ページ

使いかた 拡張

4 メッセージ等を書いて送信する。

Outlook Express 5.0**の画面例**

使いかた

拡張

必要なときに

セットアップユーティリティーの設定のしかたやオンラインマニュアルの見かたなど、必要に応じてご覧いただきたいことについて説明しています。

もくじ

セットアップユーティリティー

ここでは、動作環境を設定するためのユーティリティー（セットアップユーティリティー）について説明します。

起動する

1 Windowsを終了して再起動する。

[スタート]→[Windowsの終了]をクリックし、[再起動する]を選んで[OK]をクリックする。

2 「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに F2 を押す。

◀ F2 を押すタイミングが遅いとセットアップユーティリティーは起動しません。その場合、Windowsを終了して再度やり直してください。

◀ 「パスワードを入力してください」と表示されたら、パスワードを入力してください。
ただし、ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードの両方を設定している場合、ここでユーザーパスワードを入力すると表示されないメニューや項目があります。（→121ページ）

キー操作

下記のキーのうち、画面下側に表示されているものが使用できます。

F1 :一般ヘルプが画面に表示されます

← → :「メイン」「詳細」「セキュリティー」「省電力管理」「終了」の各メニューを選ぶときに使用します。

↑ ↓ :カーソルが上下に移動します。項目を選ぶときに使用します。

F5 F6 :各項目の設定値を選ぶときに使用します。

Enter :↑ ↓ で項目を選んだ後に押すと、各設定項目のサブメニュー画面が表示されます。

F10 :設定を保存して終了します。

Esc :「終了」メニューが表示されます。

Tab :日時設定のとき、カーソルの移動に使用します。

終了する

1 ← → で「終了」メニューを選ぶ。

設定を保存して終了
設定を保存しないで終了
デフォルト設定する
設定を戻す
設定を保存する

セットアップユーティリティー起動時の状態、または「設定を保存する」で保存した状態に戻します。

標準設定にします。(工場出荷状態)

◀ 起動時、パスワードの入力を求められた際にユーザーパスワードを入力した場合、「デフォルト設定する」の項目は表示されません。

2 設定を保存して終了するか、保存せずに終了するかを選び、Enter を押す。

コンピューターが再起動し、Windowsが起動します。

◀ パスワードが有効になっている場合は、Windowsが起動するまでにパスワードの入力が必要です。

メインメニュー

1 ← → で「メイン」メニューを選ぶ。

◀ 左記は標準設定（工場出荷状態）の画面例です。

ディスプレイ

起動時、どのディスプレイに表示するかを[内部LCD][外部ディスプレイ][同時表示]の中から選びます。

表示可能な解像度・色数

	ディスプレイ設定		
	外部ディスプレイ	内部LCD	同時表示
640×480　16色	○	○*1	○*1
640×480　256色	○	○*1	○*1
640×480　65,536色（High Color）	○	○*1	○*1
640×480　約1,677万色（True Color）	○	○*1*2	○*1*2
800×600　256色	○	○*1	○*1
800×600　65,536色（High Color）	○	○*1	○*1
800×600　約1,677万色（True Color）	○	○*1*2	○*1*2
1024×768　256色	○	○	○
1024×768　65,536色（High Color）	○	○	○
1024×768　約1,677万色（True Color）	○	○*2	○*2
1280×1024　256色	○	○*3	○*3

◀ [外部ディスプレイ]や[同時表示]に設定していても、起動時に外部ディスプレイが接続されていない場合は、内部LCD表示となります。

*1 画面の中央に小さく表示されますが、セットアップユーティリティーで「拡張表示」を有効（→前ページ）に設定すると画面いっぱいに表示することができます。

*2 内部LCDには、ディザリング機能により約1,600万色までの表示が可能です。

*3 画面全体の一部（1024×768の範囲）が表示されます。
カーソルを画面の端に移動すると、画面表示がスクロールします。

キー操作による切り換え

Fn ＋ F3 で表示先を切り換えることもできます。

詳しくは→128ページ

詳細メニュー

1 ← → で「詳細」メニューを選ぶ。

それぞれのポートの設定を行います。

プラグ＆プレイ：	[使用する]
シリアルポート:	[3F8/IRQ4]
赤外線通信ポート:	[338/IRQ5]
パラレルポート:	[378]
モード:	[ECP]
i.LINK ポート：	[有効]
内蔵モデム：	[有効]
レガシー USB：	[使用しない]

◀ 左記は標準設定（工場出荷状態）の画面例です。

レガシーUSB機器を[使用する]か[使用しない]かを設定します。

◀ レガシーUSB機器とは、電源を入れた後、Windowsが起動していない状態でも動作するUSB機器（マウス、キーボード）のことです。

内蔵モデムを[有効]または[無効]に設定します。
モデムモデル のみ

i.LINK端子を[有効]または[無効]に設定します。

◀ i.LINKポートを[有効]に設定していると消費電力が増えます。必要のないときは[無効]に設定しておくことをおすすめします。

パラレルポートのデータ送信方向を[ECP]、[EPP]、[単方向]、[双方向]のいずれかに設定します。

パラレルポートのポート設定を[378]または[無効]に設定します。

◀ ポート設定では、割り込み要求（IRQ）とI/Oポートアドレスを設定します。

赤外線通信ポートのポート設定を[338/IRQ5]または[無効]に設定します。

シリアルポートのポート設定を[3F8/IRQ4]または[無効]に設定します。

[使用する]にすると、各項目の設定値をOS側がより最適と判断する値に自動的に変更することができます。
[使用しない]にすると、各項目の設定値をOS側は変更することができません。

セキュリティーメニュー

1 ← → で「セキュリティー」メニューを選ぶ。

スタンバイ状態のとき、内蔵モデムに着信があった場合に電源が入るリングリジューム機能の[有効]または[無効]を設定します。（→124ページ）
モデムモデル のみ

システムを起動するドライブを[A:/C:]または[C:]に設定します。

フロッピーディスクドライブの操作の[有効]または[無効]を設定します。

起動ドライブ:	[A:/C:]
フロッピー操作:	[有効]
内蔵モデムリングリジューム:	[有効]
▶スーパーバイザーパスワード設定:	[Enter]
ユーザーパスワード保護:	[保護しない]
▶ユーザーパスワード設定:	[Enter]

コンピューターの起動およびセットアップユーティリティーの起動をパスワードによって機密保護します。

ユーザーパスワードの変更をできないようにする（保護する）かできるようにする（保護しない）かを設定します。

コンピューターの起動およびセットアップユーティリティーの起動をパスワードによって機密保護します。

◀ 詳細メニューで「内蔵モデム」を[無効]にした場合は設定できません。

◀ 「起動ドライブ」が[A:/C:]のときは、自動的に[有効]に設定されます。

◀ 左記は標準設定（工場出荷状態）の画面例です。

◀ スーパーバイザーパスワードが設定されているときのみ設定できます。

セットアップユーティリティーの起動時にユーザーパスワードを入力した場合

下記の設定を行うことができません。
- 詳細メニュー（→前ページ）
- セキュリティーメニューの一部（起動ドライブ・フロッピー操作・内蔵モデムリングリジューム・スーパーバイザーパスワード設定・ユーザーパスワード保護）
- 終了メニューの一部（デフォルト設定）

セットアップユーティリティー

パスワード設定のしかた

1 セットアップユーティリティーの「セキュリティー」メニューを選び[スーパーバイザーパスワード設定]または[ユーザーパスワード設定]を選んで Enter を押す。

◀ 画面は､スーパーバイザーパスワードを設定する場合を例にしています。

◀ ユーザーパスワードはスーパーバイザーパスワードを設定している場合のみ設定できます。

2 パスワードを設定する。

<パスワードを新規に設定する場合>

▶スーパーバイザーパスワード設定
新しいパスワードを入力してください [　　　]
新しいパスワードを確認してください [　　　]

❶ パスワードを入力して Enter を押す。

❷ 手順❶で入力したパスワードを入力して Enter を押す。

◀ 入力したパスワードは画面に表示されません。

◀ ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードを同じパスワードにした場合、そのパスワードはスーパーバイザーパスワードとして扱われ、ユーザーパスワードは設定されていないとみなされます。

<パスワードを変更する場合>

❶ 設定済みのパスワードを入力して Enter を押す。

❷ 新しいパスワードを入力して Enter を押す。

❸ 手順❷で入力したパスワードを入力して Enter を押す。

お願い

パスワードは忘れないようにしてください。忘れたパスワードを解除する方法はありません。
忘れた場合は、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。

パスワード入力の制限

- 入力可能な文字は、半角の英数字で、最大７文字までです。大文字、小文字の区別はありません。
- Shift や Ctrl およびスペースキーなどの特殊キーとあわせて入力することはできません。
- テンキーによる入力はできません。数字は、キーボード上段の数字キーを使って入力してください。

無断でパスワードを変更されることを避けるために

- セットアップユーティリティーを起動したままコンピューターから離れないでください。
- 「ユーザーパスワード保護」を「保護する」に設定してください。（→前ページ）

<設定済みのパスワードを無効にする場合>

▶スーパーバイザーパスワード設定	
現在のパスワードを入力してください	[ ]
新しいパスワードを入力してください	[ ]
新しいパスワードを確認してください	[ ]

1. 設定済みのパスワードを入力して Enter を押す。
2. 何も入力せずに Enter を押す。
3. 何も入力せずに Enter を押す。

3 「変更が保存されました。」と表示されたら、任意のキーを押す。

必要なときに

パスワードを設定時の起動

以下のようにパスワードの入力を求められますので、設定したパスワードを入力してください。

セットアップ
ユーティリティー起動時：パスワードを入力してください。[ ]

コンピューター起動時　：

コンピューター起動時のパスワード要求はユーザーパスワードを設定している場合に表示されます。上記アイコンが表示されたら、パスワードを入力してください。

パスワードの入力を3回間違えると

・電源オン時には、電源が切れます。
・スタンバイ状態からのリジューム時には、スタンバイ状態に戻ります。
・休止状態からのリジューム時には、休止状態に戻ります。

内蔵モデムリングリジューム機能　モデムモデルのみ

<内蔵モデムリングリジューム機能とは>
スタンバイ状態のときに電話がかかるとコンピューターの電源が自動的に入る機能のことです。
リングリジューム機能を使用する場合は、「まいと〜く FAX V3 Lite」など電話の待ち受け状態を保持できるソフトウェアを起動しておく必要があります。
不在時のFAX自動受信などを活用する際に便利です。

◀ 休止状態からはリジュームできません。

<使用時のお願い>
・内蔵モデムリングリジューム機能により、長期不在時にもかかわらず電源が入ったままになることを避けるために、省電力ユーティリティーソフトウェア「PowerPanel」を使って、受信完了後、再度スタンバイ状態になるようなプロファイルを新規に作成・設定することをお勧めします。その際「プロファイル自動選択」を選ばないようにしてください。
・内蔵モデムリングリジューム機能を使用しない場合は、セットアップユーティリティーで「内蔵モデムリングリジューム」を「無効」に設定してください。
・内蔵モデムリングリジューム機能を使用している場合、電話がつながるまで時間（リジュームで起動する時間相当）がかかります。リジュームを行うには通常の電話呼び出しよりも長く呼び出しを行ってください。
・内蔵モデムリングリジューム機能を使用する場合、[コントロールパネル]→[電源の管理]→[詳細]の「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」にチェックマークを付けないでください。
・LCDパネルが閉じられている状態で、セットアップユーティリティーの「省電力管理」メニューの「パネルスイッチ」が「サスペンド」や「ハイバーネーション」に設定されていると内蔵モデムリングリジューム機能は働きません。

省電力管理メニュー

1 ← → で「省電力管理」メニューを選ぶ。

電源オン時に、コンピューターの電源スイッチをスライドしたときの動作を[サスペンド][ハイバーネーション][パワーオフ]のいずれかに設定します。

パワースイッチ:	[サスペンド]
パネルスイッチ：	[LCD オフ]

LCDパネルを閉じたときの動作を[LCDオフ][サスペンド][ハイバーネーション]のいずれかに設定します。

＜サスペンドを選んだ場合＞

LCDパネルを閉じると、スタンバイ状態になる。

LCDパネルを開けると、リジュームする。

＜ハイバーネーションを選んだ場合＞

LCDパネルを閉じると、休止状態になる。

LCDパネルを開けて電源スイッチをスライドしたら、リジュームする。

＜LCDオフを選んだ場合＞

LCDパネルを閉じると、LCDの電源が切れる。

LCDパネルを開けると、LCDの電源が入る。

◀ セットアップユーティリティーでは、「スタンバイ」を「サスペンド」、「休止状態」を「ハイバーネーション」と呼んでいます。

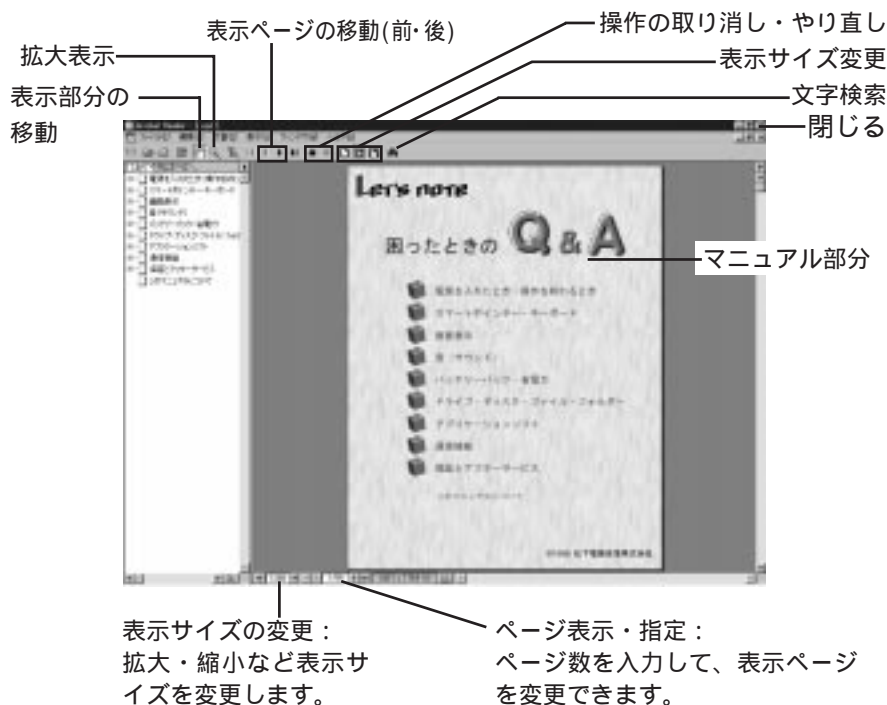
◀ LCDパネルを閉じる以外の方法でスタンバイ状態にした場合は、LCDパネルを開いてもリジュームしません。

オンラインマニュアルの見かた

画面で見ることができるオンラインマニュアルとして、以下のものが用意されています。プリンターが接続されていれば、印刷することもできます。ここでは、オンラインマニュアルの見かたについて説明します。

＜内蔵モデムコマンド一覧＞ モデムモデル のみ
内蔵モデムのATコマンドについて説明しています。
＜ワイヤレスステーションモデムコマンド一覧＞ ワイヤレスモデル のみ
ワイヤレスステーションのモデムのATコマンドについて説明しています。
＜ワイヤレスコムポートコマンド一覧＞
携帯電話/PHS接続モジュールのATコマンドについて説明しています。
＜困ったときのQ&A＞
本機が思ったとおりに動かないなど、トラブルが発生したときの対処方法をQ&A方式でまとめています。

オンラインマニュアルの起動のしかた

1 **[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[オンラインマニュアル]をクリックし、見たいマニュアルを選ぶ。**

◀ オンラインマニュアルを見るには、Acrobat® Readerをインストールしておく必要があります。（→『セットアップ編』「Acrobat® Readerを使えるようにします」）

◀ Acrobat® Readerの下部がタスクバーにかくれてみえないときは、ウィンドウを最大表示にしてください。

必要なときに

キーボードの操作

ここでは、そのキー自体に特殊な機能をもつキー（特殊キー）や、Fn キーといっしょに押すことによって特殊な機能が有効になるキー（ホットキー）の使いかたについて説明します。

特殊キー

キー	機　能
Esc、ScrLk	アプリケーションソフトによって機能が異なります。
NumLk	Shift を押しながら押して、テンキーを有効にするかどうかを切り換えます。有効にするとテンキーを使って数字を入力できます。 <NumLkインジケーター点灯時：テンキー有効時> そのまま押す → テンキーモード 7 8 9 − / 4 5 6 Enter / 1 2 3 + ＊ / 0 ・ / <NumLkインジケーター消灯時：テンキー無効時> Fn キーを押しながら押す → カーソルキーモード Home ↑ PgUp − / ← → Enter / End ↓ PgDn + ＊ / Ins Del /
Pause/Break	プログラムの実行を中断します。続行する場合は、任意のキーを押してください。 Ctrl を押しながら押した場合は、プログラムの実行を中止します。
CapsLock/英数	英数字入力になります。 Shift を押しながら押した場合は、CapsLock状態に入ります。もう一度押すと、解除されます。
Enter	コンピューターに対して、コマンドやデータが入力されます。
Shift	通常、このキーを押しながらアルファベットキーを押すと、大文字入力になります。また、このキーを押しながら数字キーか特殊キーを押すと、キートップの上部に印字されている記号が入力されます。
Ctrl、Alt	このキーを押しながら他のキーを押すと、特殊機能が有効になります。このキーを押しながら他の特殊キーを押した場合、アプリケーションソフトによって機能が異なります。

◀ CapsLock状態では、アルファベットキーを押すと、大文字入力になり、 Shift を押しながらアルファベットキーを押すと小文字入力になります。

キーボードの操作

キーコンビネーション（ホットキー）

Fn を押しながら下記のキーを押すことによって、特殊機能が有効になります。
この操作を「ホットキー」と呼びます。

キーとアイコン	機　能
Fn ＋ F1	LCDバックライトの輝度を下げます。 キーを押している間、輝度が下がります。
Fn ＋ F2	LCDバックライトの輝度を上げます。 キーを押している間、輝度が上がります。
Fn ＋ F3	画面の表示先を切り換えます。キーを押すごとに（内部LCD→同時表示→外部ディスプレイ）の順に表示先が切り換わります。
Fn ＋ F4	内蔵スピーカーから出る音を消します。 再度押すと元に戻ります。
Fn ＋ F5	内蔵スピーカーの音量を下げます。 キーを押している間、音量が下がります。
Fn ＋ F6	内蔵スピーカーの音量を上げます。 キーを押している間、音量が上がります。
Fn ＋ F7	本機を休止状態にします。
Fn ＋ F9	バッテリーの残量が、画面にアイコン表示されます。 （詳しくは→87ページ）
Fn ＋ F10	本機をスタンバイ状態にします。
Fn ＋ F12	画面全体をクリップボードにコピーします。 Fn ＋ Alt ＋ F12 を押すと選択されているウィンドウのみをコピーできます。

◀ 外部ディスプレイが接続されていない場合でも切り換え処理が行われます。（デュアルディスプレイモード時は無効です。）

◀ Fn ＋ F5 あるいは Fn ＋ F6 が押されると、自動的にスピーカーオンの状態になります。

◀ 「ボリュームコントロール」パネル（→13ページ）でミュートや音量ゼロにしている場合、スピーカーオンでも音は出ません。

ホットキーの操作について

- Fn ＋ F1、Fn ＋ F2、Fn ＋ F4、Fn ＋ F5、Fn ＋ F6 キーを押した場合は、各設定値を表すアイコンが表示されます。
- システム起動中、あるいはスタンバイや休止処理を実行中は一部のホットキーは使用できません。
- 高速なシリアル通信中などにホットキーを使用すると、通信エラーになることがあります。通信中はホットキーを使用しないでください。
- 音声再生、録音中にホットキーを使用すると、音がみだれることがあります。
- Fn ＋ F3、Fn ＋ F4 で変更した設定は一時的なものです。再起動後はセットアップユーティリティーで設定されている状態に戻ります。

1.2Mバイトのフロッピーディスクの読み書き

1.2Mバイトのフロッピーディスクを読み書きする場合は、以下の手順に従ってWindows用の３モードFDドライバーをインストールしてください。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順に選び、[ハードウェアの追加]アイコンをダブルクリックする。

2

3

4

5

6

（次ページへ続く）

7

8

❶「c:\util\drivers\3mode」と入力する。

❷ クリック

9

❶「パナソニック3モードフロッピーディスク」が表示されていることを確認する。

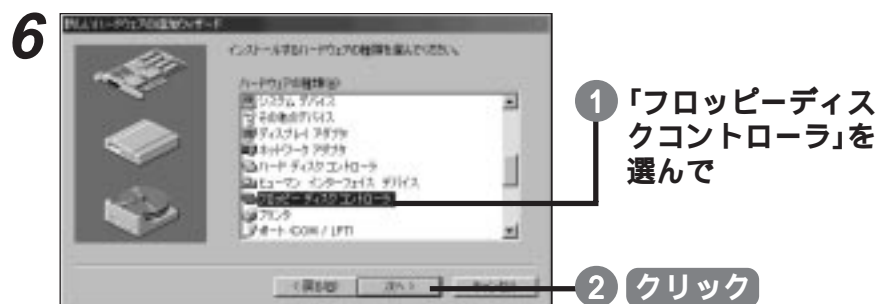
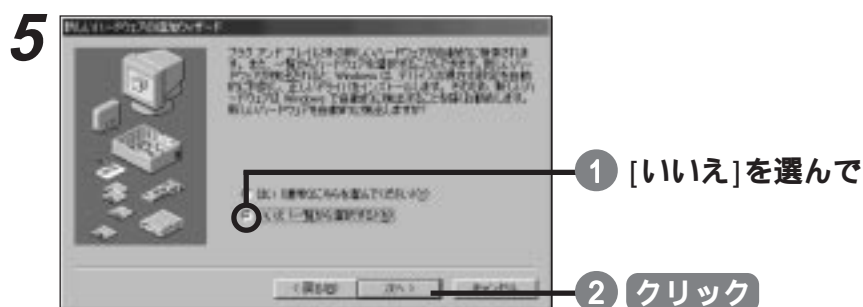
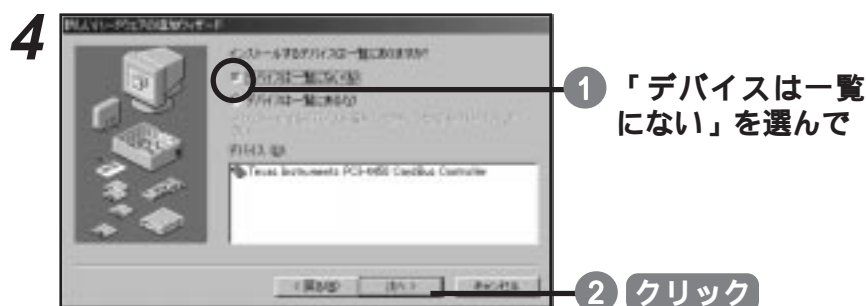
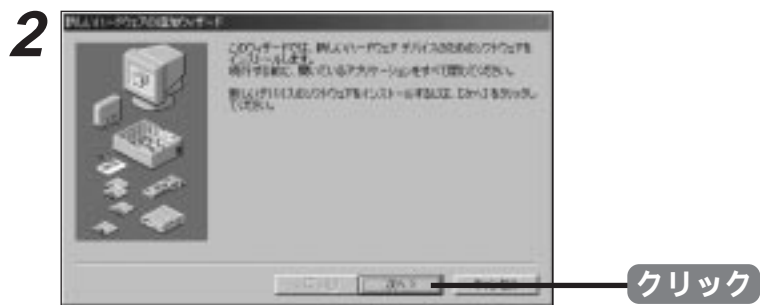
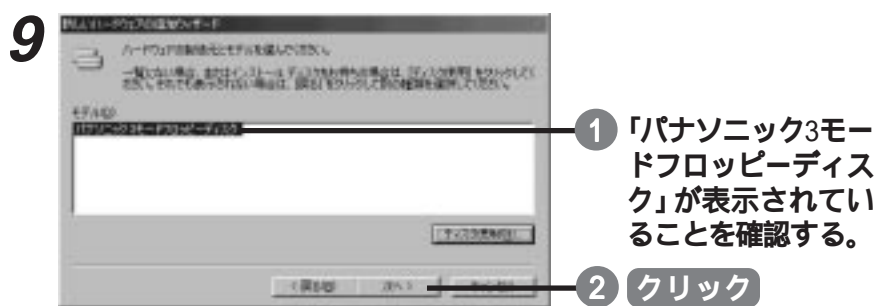
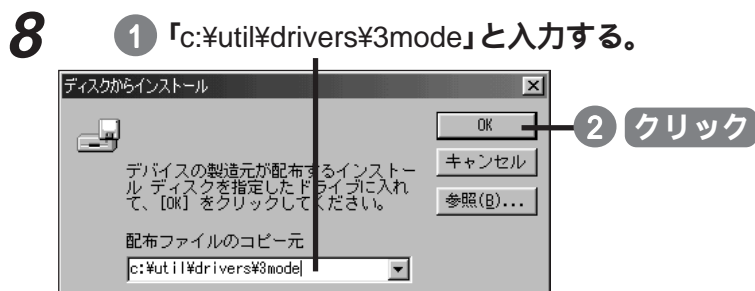
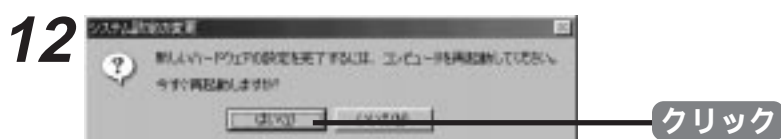
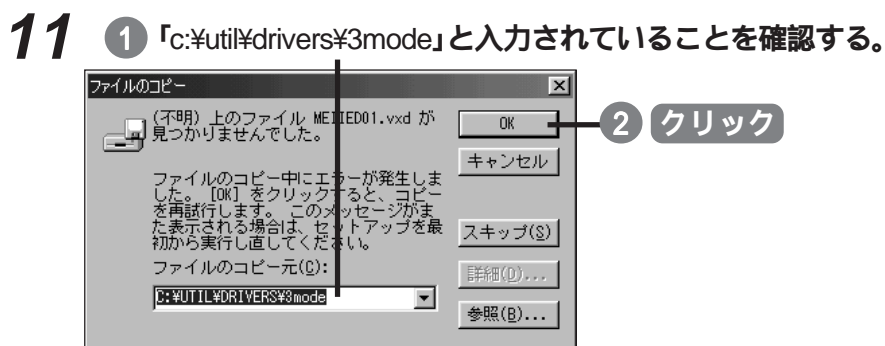
❷ クリック

10

11

❶「c:\util\drivers\3mode」と入力されていることを確認する。

❷ クリック

12

困ったときに

本機を動かそうとして思ったとおりに動かないときの対処方法や再インストールのしかたなどについて説明しています。

もくじ

困ったときのQ&A

本機を動かそうとして、思ったとおりに動かないことがあります。おかしいな？と思ったら、このページを読んでください。また、「オンラインマニュアル」の「困ったときのQ&A」にはより詳しい情報が記載されています。（→「オンラインマニュアルの見かた」126ページ）
その他、ソフトウェアによる原因も考えられますので、Windowsやアプリケーションソフトなど各ソフトウェアのマニュアルも参照してください。どうしても原因がわからないときは、お買い上げになった販売店または当社ご相談窓口にご相談ください。

起動時の問題

こんなときは	ここをお調べください
操作できない	確認1 • ACアダプターは、本体の電源端子および電源コンセントに差し込まれているか確認してください。 • 十分充電されたバッテリーパックが正しく入っているか確認してください。 • 電源を切った直後は、電源スイッチをスライドしても電源が入らない場合があります。5秒以上待ってから操作してください。 確認2 リセットスイッチを押して、本機を再起動させてみてください。 確認3 本体のACアダプターおよびバッテリーパックをすべて外してから再度装着し、再度起動してみてください。 確認4 ハードディスクにアクセス可能かどうか確認し、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。 ＜確認方法＞ ①フロッピーディスクドライブを接続し、「ファーストエイドFD」をドライブにセットする。 ②電源を入れる。 • CD-ROMドライブのセットアップ（→『セットアップ編』）を行っていない場合は、「Windowsの再インストールに使用するCD-ROMドライブを選択してください」と表示されるので、Q を押してください。 ③「A:\>」と表示されたら、「C:」と入力し、Enter を押す。「C:\>」と表示されない場合は、ハードディスクが物理的に破損していることが考えられます。 ④「dir」と入力し、Enter を押し、Cドライブのフォルダー名が表示されるかどうか確認する。
画面上の日付/時刻の表示が違っている	確認1 • コントロールパネルの「日付と時刻」を使って、またはセットアップユーティリティーを起動して正しい日付/時刻を設定してください。 • LANに接続している場合、サーバーの日付や時刻を確認してください。 確認2 正しく設定してもすぐに表示が違ってくる場合、日付/時刻の情報を保持しているクロックバッテリー（リチウム電池）の残量がない可能性があります。 お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
パスワードを忘れた	お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。

起動時の問題（つづき）

こんなときは	ここをお調べください
「Invalid system disk Replace the disk, and then press any key」と表示される	・システムを起動できないフロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにセットされています。フロッピーディスクを取り出してから、何かキーを押してください。 ・フロッピーディスクがセットされていないのに左記メッセージが表示される場合、ハードディスクに何らかの問題が発生していることが考えられます。お買い上げの販売店またはご相談窓口にご相談ください。
数字とメッセージが表示される	表示されている番号はエラーコードです。コンピューターに何か問題が発生しています。 「エラーコード一覧」（→140ページ）に従って確認してください。
「Microsoft Scandisk」が起動している	前回終了時に、コンピューターを正しい方法で終了しなかった場合には、次にコンピューターを起動したときにハードディスクのエラーを検出するプログラム「Microsoft Scandisk」が自動的に動作します。その場合は、画面に従って操作してください。 また、コンピューターは必ず正しい方法で（[スタート]→[Windowsの終了]から）終了するようにしてください。

操作中の問題

こんなときは	ここをお調べください
操作中に動かなくなった	確認1 • バッテリーパックを使って操作していたときは、バッテリーの残量がない可能性があります。ACアダプターを接続してください。 • 使っていたアプリケーションソフト上の問題でシステムが止まってしまった可能性があります。以下の手順で操作中のアプリケーションを終了してください。 ① Alt ＋ Ctrl ＋ Del を押す。 ②動作しなくなったアプリケーションを選び、[終了]をクリックする。 ③確認のメッセージが表示されたら[終了]をクリックする。 場合によっては、壁紙が白くなることがあります。その場合は、「Active Desktopを元に戻す」をクリックした後、コンピューターを再起動してください。 確認2 ポインター（カーソル）が動かない場合は、リセットスイッチ（→14ページ）を押して、コンピューターを再起動してください。 リセットスイッチを押して再起動するとハードディスクのエラーを検出するプログラム「Microsoft Scandisk」が自動的に動作します。 画面に従って操作してください。
バッテリー状態表示ランプが赤く点灯している または キー操作による残量表示で0%と表示された	確認1 • バッテリー残量がありません。ACアダプターを接続してください。 • ACアダプターが正しく接続されていない可能性があります。正しく接続し直してください。 確認2 ACアダプターが正しく接続されているのに、またバッテリー残量はあるはずなのに赤色点灯や0%表示が続く場合は、「バッテリー容量を正確に表示させるために」（→89ページ）に従って操作をしてください。

操作中の問題（つづき）

こんなときは	ここをお調べください
バッテリー状態表示ランプが赤く点滅している	確認1 バッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。正しく装着し直してください。 確認2 それでも赤く点滅するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
使用中に「ピー・ピー」と音が鳴り始めた	バッテリー残量がわずかです。ACアダプターを接続してください。
充電中にバッテリー状態表示ランプが消灯している	確認1 ACアダプターとバッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。ACアダプターとバッテリーパックを取り外し、再度正しく装着し直してください。 確認2 それでも消灯するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
オンラインマニュアルを表示できない	確認1 Acrobat® Readerをインストールしていますか？オンラインマニュアルを見るにはAcrobat® Readerをインストールしておく必要があります。（→『セットアップ編』「Acrobat® Readerを使えるようにします」） 確認2 「C:\UTIL\MANUAL」フォルダーに次のファイルがありますか？ない場合は「プロダクトリカバリーCD-ROM 1」の「\JA\UTIL\MANUAL」からコピーしてください。 • QA.PDF（困ったときのQ&A） • COMPORT.PDF（ワイヤレスコムポートコマンド一覧） • WIRELESS.PDF ワイヤレスモデル のみ（ワイヤレスステーションモデムコマンド一覧） • MODEM.PDF モデムモデル のみ（内蔵モデムコマンド一覧）

スタンバイ機能の問題

こんなときは	ここをお調べください
[Windowsの終了]画面で「スタンバイ」が表示されない または スタンバイや休止状態に入れない	以下の手順で「アドバンストパワーマネージメント」を入れ直してください。 ①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[システム]をダブルクリックする。 ②[デバイスマネージャ]をクリックし、「システムデバイス」の中の「アドバンストパワーマネージメントサポート」を選んで、[削除]をクリックする。 ③確認のメッセージが表示されたら、[OK]をクリックして[はい]をクリックし、コンピューターを再起動する。 ④「コントロールパネル」の[ハードウエアの追加]をダブルクリックする。 ⑤「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面で[次へ]をクリックし、もう一度[次へ]をクリックする。 ・「インストールするデバイスが一覧にありますか」と表示された場合は、「デバイスは一覧にない」にチェックマークを付け、[次へ]をクリックする。 ⑥「はい」を選んで[次へ]をクリックする。 ⑦[次へ]をクリックする。 ⑧[詳細]をクリックして「アドバンストパワーマネージメントサポート」と表示されていることを確認して、[完了]をクリックする。

ディスプレイ画面の問題

こんなときは	ここをお調べください
画面が消えた	確認1 省電力機能によって、ディスプレイの電源がオフになることがあります。その場合、いずれかのキーを押すと元に戻ります。 確認2 省電力機能によって、スタンバイ状態に入る（電源表示ランプが緑色点滅する）ことがあります。 その場合、電源スイッチをスライドすると元に戻ります。
残像が残る	イメージが画面に残ると、画面に焼きつき、残像となることがあります。これは、異常ではありません。別の画面が表示されてしばらくすると、残像は消えます。
画面に緑、赤、青のドットが残る または正しい色が表示されないドットがある	カラー液晶ディスプレイの製造には精度の高い技術が要求されます。ちょっとした環境変化等で点灯しなかったり、常時点灯したりする画素ができますが、これらの画素が0.002%以下（有効画素が99.998%以上）のものは故障ではありません。あらかじめご了承ください。

ドライブの問題

こんなときは	ここをお調べください
フロッピーディスクドライブ（外部FDD）にアクセスしない	確認1 ・フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。 ・フロッピーディスクは正しくセットされているか確認してください。 ・フロッピーディスクは初期化されているか確認してください。 ・ライトプロテクトタブが書き込み禁止の状態になっていないか確認してください。 確認2 セットアップユーティリティーで「フロッピー操作」を「無効」に設定していないか確認してください。
フロッピーディスクが初期化できない	・デスクトップ上の「マイコンピュータ」から[3.5インチFD(A:)]を選んで[ファイル]→[フォーマット]をクリックした後、ディスクの容量やフォーマットの種類を確認してフォーマットしてください。 ・1.2 Mバイトのフロッピーディスクをフォーマットする場合は下記手順に従って操作してください。 ①コンピューターの電源を入れる。 ②すぐに Ctrl を押し、メニュー画面が表示されたら手を離す。 （ユーザーパスワードを設定している場合は、パスワード入力後、約1秒以内に Ctrl を押してください。） ③メニュー画面で「Safe mode command prompt only」を選ぶ。 ④ 全角／半角 を押す。 ⑤次のように入力する。cd \windows\command Enter fd3mode Enter format3 a: Enter ⑥以降、画面のメッセージに従って操作する。
ハードディスクドライブにアクセスできない	原因がわからない場合は、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。

周辺機器の問題

こんなときは	ここをお調べください
割り込み要求（IRQ）、I/Oポートアドレス等､アドレスマップがわからない	「コントロールパネル」の[システム]アイコンをダブルクリックし、[デバイスマネージャ]をクリックし、[コンピュータ]を選んで[プロパティ]をクリックしてください。
プリンターが動かない	確認1 ・ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 ・プリンターの電源が入っているか確認してください。 確認2 ・セットアップユーティリティーで「パラレルポート」を「378」に設定してください。 ・適切なプリンタードライバーが選択されているか確認してください。
マウスが使えない	確認1 マウスケーブルが正しく接続されているか確認してください。 確認2 ・マウスがシリアルまたはUSBコネクターに接続されている場合はドライバーをインストールする必要があります。（→14ページ） ドライバーをインストールしても動作しない場合： セットアップユーティリティーで「スマートポインター」を「無効」に設定し、「シリアルポート」を「3F8(IRQ4)」に設定してください。 ・インテリマウス™のホイールスクロール機能などを使用する場合は、セットアップユーティリティーで「スマートポインター」を「無効」に設定してください。(→118ページ)
スマートポインターが使えない	セットアップユーティリティーの「スマートポインター」の設定が「有効」になっているか確認してください。
PCカードが使えない	確認1 カードが正しくセットされているか確認してください。 確認2 適切なドライバープログラムがインストールされているか確認してください。

困ったときは

通信時の問題

こんなときは	ここをお調べください
接続できない	＜モデムモデルの場合＞ 確認1 電話回線とモデムが正しく接続されているか確認してください。（→8、39、40ページ） 確認2 ・電話回線の種類は正しく設定されているか確認してください。（→52ページ） ・通信環境の設定をが正しく行われているか確認してください。（→39～49ページ） ＜ワイヤレスモデルの場合＞ 『ワイヤレスステーション取扱説明書』の「困ったときのQ&A」ご覧ください。
メールの自動送受信ができない	「接続できない」場合の対処方法に従って、確認してください。
メールを自動送受信中、接続が切断される	回線を自動的に切断するように設定している可能性があります。（→64ページ）

エラーコード一覧

ここでは、ハードウェアの不良が発生した場合など、起動時に表示されるエラーコードとその原因・対処について説明します。

エラーコード・メッセージ	原 因・対 処
0211 キーボードエラーです。	外部キーボードが動作していません。外部キーボードを取り外してください。
0251 システムCMOSのチェックサムが正しくありません。−デフォルト値が設定されました。	CMOSデータがアプリケーションによって壊されたか、変更されました。 確認1 セットアップユーティリティーでいったんデフォルト設定にした後、再度、適切な値に設定し直してください。 確認2 それでもエラーになる場合は、CMOSバックアップバッテリーが消耗している可能性がありますので、「ご相談窓口」にご相談ください。
0271 Check date and time settings	システムの日付と時間が正しくありません。セットアップユーティリティーで日付と時間を正しく設定してください。
0280 起動を3回失敗しました。-デフォルト値を使用して起動します。	電源を入れてからOSが起動するまでに、3回連続してシステムがシャットダウンされました。正しくOSを起動すれば表示されることはありません。
02B0 フロッピーディスクAのエラーです。	確認1 ドライブが正しく接続されているか確認してください。 確認2 正しく接続してもエラーになる場合は、ドライブの故障が考えられます。「ご相談窓口」にご相談ください。

下記のエラーコードが表示された場合は、そのメッセージを記録して「ご相談窓口」にご相談ください。

エラーコード・メッセージ	原 因
0200 ハードディスクエラーです。	ハードディスクドライブまたはシステムボードの故障です。
0212 キーボードコントローラエラーです。	システムボードの故障です。
0230 システムRAMエラー。オフセットアドレス：nnnn 0231 シャドウRAMエラー。オフセットアドレス：nnnn 0232 拡張RAMエラー。オフセットアドレス：nnnn	メモリーの故障です。
0250 システムのバッテリがありません。−バッテリを交換して、コンピュータを再起動して下さい。	CMOSバックアップバッテリーが消耗しています。 バッテリーの交換が必要です。
0260 システムタイマーエラーです。	システムボードの故障です。
0270 リアルタイムクロックエラーです。	システムボードの故障です。
02D0 システムキャッシュエラーです。−キャッシュは使用できません。	CPUの故障です。
02F5 DMAのテストが異常終了しました。	システムボードの故障です。

再インストールのしかた

ハードディスクの内容が壊れてしまった場合などには、もう一度ハードディスクを工場出荷状態に戻すことができます。

再インストールの準備

1 下記のものを準備する。
- あらかじめ作成しておいたバックアップディスク（ファーストエイドFDなど→『セットアップ編』）
- 「プロダクトリカバリーCD-ROM 1」（付属）
- フロッピーディスクドライブ（付属）
- 周辺接続ケーブル（付属）
- CD-ROMドライブ（別売）

◀ 必ず、ライトプロテクトタブを書き込み不可の状態にしておいてください。

◀ ファーストエイドFDにセットアップを行ったCD-ROMドライブを準備してください。（→『セットアップ編』「CD-ROMドライブをセットアップします」）

2 ハードディスクを圧縮している場合は、Windowsを起動して解除する。

◀ Windowsを起動できない場合などで圧縮を解除できないときは、次ページの手順5で「1.ハードディスク全体を工場出荷状態に戻す。」を選んでください。

3 Windowsを終了して操作を終わり、電源が切れたことを確認する。（→『セットアップ編』）

お願い

必ず、ACアダプターを装着してください。ACアダプターを装着していないと、再インストールは行えません。

4 フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブを取り付け、CD-ROMドライブの電源を入れる。

◀ ハードディスクのパーティションを変更したり、フォーマットを行う前に、「ファーストエイドFD」で起動して、CD-ROMドライブが認識できるか確認してください。
（『セットアップ編』「CD-ROMドライブをセットアップします」の手順に従って確認してください。その際、手順5と6は必要ありません。手順4の後、手順7に進んでください。）

再インストールする

1 「ファーストエイドFD」および「プロダクトリカバリーCD-ROM 1」をそれぞれのドライブにセットし、コンピューターの電源を入れる。

2 「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに、F2 を押し、セットアップユーティリティーを起動する。
（→116ページ）

困ったときは

再インストールのしかた

3 「終了」メニューから「デフォルト設定する」を選んで、Enter を押す。
確認メッセージが表示されたら、再度 Enter を押し、設定を保存してセットアップユーティリティーを終了する。

4 「再インストールを開始しますか」と表示されたら Y を押す。

5 ＜ハードディスクの内容をすべて工場出荷の状態にする場合＞
[1.ハードディスク全体を工場出荷状態に戻す。]を選ぶ。
＜ハードディスク(Cドライブ)を工場出荷の状態にする場合＞
[2.Cドライブをフォーマットして、工場出荷状態に戻す。]を選ぶ。
または
[3.Cドライブをクイックフォーマットして、工場出荷状態に戻す。]を選ぶ。

◀ パーティション設定も行います。

◀ パーティション設定は行いません。

◀ [3.…クイックフォーマットして…]を選んだ場合は、フォーマット時間が約10～15分短縮されます。

6 確認のメッセージが表示されたら Y を押す。
再インストールが始まります。（30分～1時間程度かかります。）

7 再インストール終了の画面になったら任意のキーを押す。
コンピューターの電源が自動的に切れます。
ファーストエイドFDをフロッピーディスクドライブから取り出し、CD-ROMドライブを取り外してください。

8 電源を入れ、Windows 98のセットアップを行い、Acrobat® Reader 4.0Jをインストールする。（→『セットアップ編』）

＜「アップデートFD」がある場合＞
アップデートFD内のREADME.TXTを参照して操作してください。

◀ バックアップディスク作成時に、「アップデートFD」を作成した場合

ハードディスクの「C:\UTIL」フォルダーの各種ドライバーやパナソニック製のソフトウェアを個々に復元したいときは：
「プロダクトリカバリーCD-ROM 1」の「\JA\UTIL」フォルダーにあります。ただし、CD-ROM内のそれらのファイルを使用するときには、更新が必要な場合があります。その場合は、ファーストエイドFDのREADMEファイルをご覧ください。また、パナソニックPCのホームページに新しい情報が掲載されている場合もありますので、そちらもご覧ください。

休止状態用データ領域の作成

休止状態に入るには、ハードディスク上にメモリーの内容を保存するためのデータ領域を確保しておく必要があります。
工場出荷時には、約135 Mバイトの領域が確保されています。

休止状態用データ領域は、「ファーストエイドFD」のPEDPARTコマンドを使って作成します。
ここでは、PEDPARTコマンドの使用方法について説明します。

◀ データ領域は、通常は変更する必要はありませんが、ハードディスクのパーティションを変更したときなどには確保し直す必要があります。

PEDPARTコマンドの使用方法

PEDPARTは「ファーストエイドFD」から起動したMS-DOS環境で実行してください。Windowsの「MS-DOSプロンプト」などから実行すると、正常に起動しません。

「PEDPART」には下記のオプションがあります。コマンドとオプションの間は、１スペース空けて入力してください。

オプション	内容
/RESIZE:[サイズ]	休止状態用データ領域を作成します。 [サイズ]にはメインメモリー相当の容量をメガバイト単位で指定します。（メインメモリーの容量以下の値を設定すると休止状態の機能を使用することができません。）
/TOP	ハードディスクの先頭に休止状態用データ領域を設定します。（工場出荷時には先頭に設定されています。）
/?	PEDPARTコマンドの使用方法などを表示します。

お願い

データエリアの作成や削除などを行った後は、すぐに再起動してください。

(例) PEDPART /RESIZE:128 /TOP

メインメモリーが128Mバイト（オンボードメモリー＋64Mバイト RAMモジュール装着時）以下の状態で休止状態に入るために必要な領域を、ハードディスクの先頭に作成します。

PEDPARTコマンドの使用方法

画面表示	原因・対策
パーティションテーブルの内容が不正です。	何らかの理由で、領域の管理情報が存在しません。FDISKコマンドで領域の管理情報を初期化する必要があります。 まず、FDISK /MBRコマンドを実行し、続いてもう一度FDISKコマンドを実行して、存在している「基本MS-DOS領域」を削除してください。 再起動の後、もう一度、PEDPARTコマンドを実行してください。
ハイバーネーション領域のための十分な空きがありません。	休止状態用データ領域を作成するためには、十分な容量を持った空き領域が必要になります。 既存の領域を削除するなどして、空き領域を作成してください。

Windows 98関連ファイルのインストール

工場出荷時にはインストールされていない以下のフォルダーのファイルをインストールしたい場合は、下記の手順に従ってインストールしてください。

\add-ons　\cdsample　\drivers　\tools

インストールするには、ハードディスクのCドライブに十分な空き容量が必要です。

<準備する物>

- あらかじめ作成しておいたファーストエイドFD（→『セットアップ編』）
- 「プロダクトリカバリーCD-ROM 2」（付属）
- フロッピーディスクドライブ（付属）
- 周辺接続ケーブル（付属）
- CD-ROMドライブ（別売）

◀ 使用するCD-ROMドライブにあわせて「ファーストエイドFD」を作成しておいてください。（→『セットアップ編』「CD-ROMドライブをセットアップします」）

1 CD-ROMドライブとフロッピーディスクドライブを接続する。

2 「ファーストエイドFD」をセットして、コンピューターの電源を入れる。

3 確認のメッセージが表示されたら N を押す。

お願い

必ず、N を押してください。
間違って Y を押してしまった場合は、その後の画面で「4.再インストールを中止する」を選んでください。

4 「プロダクトリカバリーCD-ROM 2」をセットして、「A:\>」に続けて以下のように入力する。

L:\JA\ADDFILE L:

◀「L:」はドライブ文字です。コンピューターの使用状況に合わせて変更してください。

5 確認のメッセージが表示されたら Y を押す。

「c:\win98add」フォルダーにファイルがインストールされます。

6 インストール完了のメッセージが表示されたら任意のキーを押す。

コンピューターの電源が自動的に切れます。

もくじ

ソフトウェア使用許諾書

この製品にインストールされているソフトウェアについては、「ソフトウェア使用許諾書」の内容を承諾していただくことがご使用の条件になっています。

第1条　権利
お客様は、本ソフトウェア（コンピューター本体に内蔵のハードディスク、フロッピーディスク、CD-ROM、マニュアルなどに記録または記載された情報のことをいいます）の使用権を得ることはできますが、著作権がお客様に移転するものではありません。

第2条　第三者の使用
お客様は、有償あるいは無償を問わず、本ソフトウェアおよびそのコピーしたものを第三者に譲渡あるいは使用させることはできません。

第3条　コピーの制限
本ソフトウェアのコピーは、保管（バックアップ）の目的のためだけに限定されます。

第4条　使用コンピューター
本ソフトウェアは、コンピューター1台に対しての使用とし、複数台のコンピューターで使用することはできません。

第5条　解析、変更または改造
本ソフトウェアの解析、変更または改造を行わないでください。お客様の解析、変更または改造により、何らかの欠陥が生じたとしても、弊社では一切の保証をいたしません。また解析、変更または改造の結果、万一お客様に損害が生じたとしても弊社および販売店等は責任を負いません。

第6条　アフターサービス
お客様が使用中、本ソフトウェアに不具合が発生した場合、弊社窓口まで電話または文書でお問い合わせください。お問い合わせの本ソフトウェアの不具合に関して、弊社が知り得た内容の誤り（バグ）や使用方法の改良など必要な情報をお知らせいたします。

第7条　免責
本ソフトウェアに関する弊社の責任は、上記第6条のみとさせていただきます。本ソフトウェアのご使用にあたり生じたお客様の損害および第三者からのお客様に対する請求については、弊社および販売店等はその責任を負いません。また製品に付属されている「保証書」はコンピューター本体（ハードウェア）の保証に限定したものです。

第8条　その他
上記第6条のアフターサービスには、ご愛用者登録が必要です。

仕様

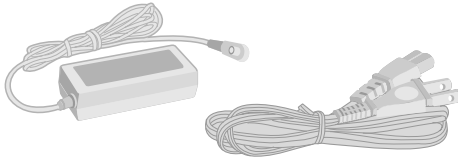
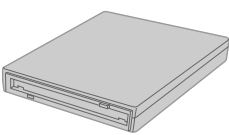
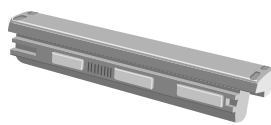
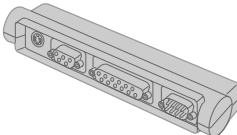
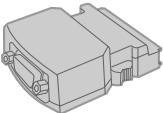
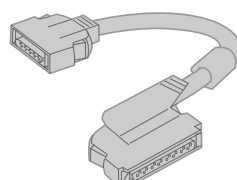
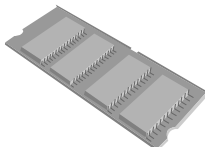
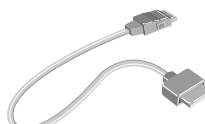
機種		CF-A1R	CF-A1V
CPU		Intel® モバイル Celeron™ プロセッサ 366 MHz	
メモリー	メインRAM*1	64 Mバイト(最大128 Mバイト)	
	キャッシュ L1	16 Kバイト	
	キャッシュ L2	128 K バイト	
	ROM	512 Kバイト	
	ビデオメモリー	2.5 Mバイト	
ハードディスクドライブ		6.0 Gバイト*2	
表示機能	テキスト表示	80文字×25行	
	グラフィック表示	タイプ:10.4 型(TFT) 解像度:1024×768ドット 色数:26万色*3	
入力装置	キーボード	総数86キー	
	ポインティングデバイス	スマートポインターIII	
インターフェース	音声 マイク入力	ミニジャックM3(コンデンサーマイク使用のこと)	
	音声 オーディオ出力	ミニジャックM3	
	赤外線通信ポート	IrDA1.1準拠(最大転送速度 4 Mbps)	
	USBコネクター	4ピン Universal Serial Bus	
	モデム端子	――	本体内蔵 データ: 56 kbps (V.90 & K56flex両対応) FAX: 14.4 kbps
	ワイヤレスステーションとの通信機能	自営3版 64 kbps	――
	拡張バスコネクター	専用68ピン	
	i.LINK端子	IEEE1394端子S400 (4ピン)	
	ワイヤレスコムポート	18ピン(携帯電話/PHS電話接続用)	
カードスロット	PCカード専用	タイプIまたはタイプII×1スロット Card Busサポート (3.3 V: 500 mA, 5 V: 400 mA, 12 V: 120 mA)	
	RAMモジュール専用	1スロット	
オーディオ機能		PCM音源(16ビットステレオ) モノラルスピーカー/モノラルマイク搭載	
時計機能		クロックバッテリーバックアップ 月差±60秒	
電源	入力	DC 15.1 V (ACアダプター:入力AC100 V*4, 50 Hz/60 Hz)	
	バッテリーパック	10.8 V (Li-Ion),1.7 Ah (標準バッテリーパック)	
	消費電力*5	約33 W	
バッテリー稼働時間*6		約2時間	
外形寸法(幅×奥行×高さ)		255 mm×204 mm×23.8 mm (突起部を除く)	
質量*7		1.18 kg	
使用環境条件		温度:5 ℃〜35 ℃ 湿度:30 %RH〜80 %RH (結露なきこと)	
導入済みソフトウェア		Microsoft® Windows® 98 Second Edition,NIFTY Manager,Intellisync® for Notebooks,Acrobat® Reader,Phoenix Power Panel™,インターネットスターター,まいと〜く FAX V3 Lite,イラストメール,似顔絵メール,ボイスオンメール,ムービーオンメール,イメージブラウザー,DVキャプチャー,ドライバー等	
フロッピーディスクドライブ		外付け1ドライブ3.5型(1.44 M/1.2 M/720 Kバイト)	

*1 シンクロナスDRAMおよびセルフリフレッシュのモジュールに限り使用可能です。

*2 1Gバイト=10⁹バイト表記です。

*3 ディザリング機能を使用して約1600万色表示を実現しています。

*4 ACアダプター本体はAC240 Vまで対応、電源コードは、AC125 Vまで対応です。

*5 電源オン時、バッテリー充電中の表記です。(電源オフ、バッテリー充電終了時、ACアダプターは約0.8 Wの電力を消費しています。また、電源オフ時のバッテリーの消費電力は約120 mWです。)

*6 省電力モードでLCDバックライト輝度最低時。また使用条件により異なります。

*7 標準バッテリーパック装着時の表記です。

ワイヤレスステーションの仕様について ワイヤレスモデル のみ

ワイヤレスステーションの『取扱説明書』をご覧ください。

別売り商品

別売り商品の名称と品番は最新のカタログでご確認ください。仕様改善のため、予告なく変更することがあります。

I/Oボックス
　外部FDD・外部ディスプレイ・プリンター・シリアル・拡張キーボード／マウスを接続できます。

ミニI/Oボックス
　外部ディスプレイ・拡張キーボード/マウスを接続できます。

PHS電話接続ケーブル
　NTTドコモまたはアステルのデータ通信対応PHS電話専用です。DDIポケットのPHS電話、デジタル/アナログ携帯電話、cdmaOneは使用できません。
　詳しくはカタログやパナソニックPCのホームページ（→154ページ）でご確認ください。

携帯電話接続ケーブル
　デジタル携帯電話専用です。アナログ携帯電話、cdmaOne、PHS電話は使用できません。
　詳しくはカタログやパナソニックPCのホームページ（→154ページ）でご確認ください。

さくいん

A〜Z

あ

か

さ

た

さくいん

西暦2000年問題について
本パーソナルコンピューターのハードウェア（BIOSなどのファームウェアを含む）は、西暦2000年問題についての動作確認済みです。
西暦2000年問題については、下記のインターネット上の情報などもご覧ください。
・松下電器産業株式会社のパソコンの西暦2000年問題情報
http://www.pcc.panasonic.co.jp/y2000/（1999年9月現在）
・マイクロソフト社の西暦2000年問題情報
http://www.microsoft.com/japan/year2k/（1999年9月現在）

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

・本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。
・漏洩電流について、この装置は、社団法人　日本電子工業振興協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へお申し付けください。
転居や贈答品などでお困りの場合は…
・修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
・その他のお問い合わせは、「テクニカルサポートセンター」へ！

■保証書（別添付）
お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。
よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間　（バッテリーパックを除く）

■修理を依頼されるとき
『困ったときのQ&A』（→132ページ）にしたがってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。
ワイヤレスモデル の場合、修理を依頼されるときは、コンピューターと一緒にワイヤレスステーションもご持参ください。

●保証期間中は
保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書を添えてご持参ください。

●保証期間が過ぎているときは
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。
ただし、パーソナルコンピューターの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後6年です。
注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●修理料金の仕組み
修理料金は、技術料、部品代、出張料などで構成されています。
技術料は、診断・故障個所の修理および部品の交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
部品代は、修理に使用した部品および補助材料費です。
出張料は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

• FPANAPC*1アクセスについてのご相談は、「Let's note Station」へ！
*1 パソコン通信NIFTY SERVEのユーザーフォーラムでユーザーどうしによる情報交換などが行われています。
• Let's noteのホームページ*2では製品紹介、FAQなど情報掲載やご購入ユーザー様のご愛用者登録を行っております。
*2 [お気に入り]→[パナソニックお勧めのサイト]→[パナソニックPCのホームページ]にリンクされています。

パナソニックパソコン
テクニカルサポートセンター

0120-873029（パナソニック）

フリーダイヤル（料金無料）365日／受付 9時〜20時

ご来店技術相談窓口
Let's note Station
東京都千代田区外神田6丁目13番10号
（ミクニ・イーストビル2F）
TEL 03-3834-8896
E-mail asklets@cbdo.mei.co.jp

受付日および時間
月曜日〜金曜日（祝・祭日を除く）
10時〜12時　12時45分〜17時

1999年8月1日現在

ナショナル／パナソニック修理ご相談窓口

北海道地区

- 札幌 ☎(011)894-1251 札幌市厚別区厚別南2丁目17-7
- 旭川 ☎(0166)31-6151 旭川市2条通21丁目左1号
- 函館 ☎(0138)48-6631 函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）

東北地区

- 青森 ☎(0177)39-9712 青森市大字八ッ役字矢作1-37
- 秋田 ☎(018)826-1600 秋田市御所野湯本2丁目1-2
- 岩手 ☎(019)639-5120 盛岡市羽場18地割30-3
- 宮城 ☎(022)375-2512 仙台市泉区市名坂字清水端59-2
- 山形 ☎(023)641-8100 山形市流通センター3丁目12-2
- 福島 ☎(0243)34-1301 福島県安達郡本宮町字南ノ内65

首都圏地区

- 栃木 ☎(028)689-3321 宇都宮市御幸町104-20
- 群馬 ☎(027)352-1217 高崎市浜尻町沖中205-13
- 水戸 ☎(029)225-0119 水戸市柳河町309-2
- つくば ☎(0298)64-8090 つくば市花畑2丁目3-1
- 埼玉 ☎(048)728-8960 桶川市赤堀2丁目4-2
- 千葉 ☎(043)208-6011 千葉市中央区星久喜町172
- 船橋 ☎(047)334-5111 船橋市本中山6丁目11-7
- 柏 ☎(0471)63-8905 柏市北柏1丁目6-9
- 東京 ☎(03)5477-9780 東京都世田谷区宮坂2丁目26-17
- 山梨 ☎(0552)22-5171 甲府市下飯田2丁目1-27
- 神奈川 ☎(045)847-9720 横浜市港南区日野5丁目3-19
- 新潟 ☎(025)286-7725 新潟市東明1丁目3-14

中部地区

- 石川 ☎(076)294-2683 石川県石川郡野々市町稲荷3丁目30
- 富山 ☎(0764)32-8705 富山市牛島1293
- 福井 ☎(0776)54-5606 福井市開発4丁目112
- 長野 ☎(0263)58-0073 松本市大字笹賀7600-7
- 静岡 ☎(054)287-9000 静岡市西島795
- 名古屋 ☎(052)819-0225 名古屋市瑞穂区塩入町3-10
- 岡崎 ☎(0564)55-5719 岡崎市岡町南久保23
- 岐阜 ☎(058)323-6010 岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30
- 三重 ☎(059)255-1380 久居市森町字北谷1920-3

近畿地区

- 滋賀 ☎(077)582-5021 守山市勝部町3丁目2-1
- 京都 ☎(075)672-9636 京都市南区上鳥羽石橋町20-1
- 大阪 ☎(06)6359-6225 大阪市北区本庄西1丁目1-7
- 奈良 ☎(0743)59-2770 大和郡山市椎木町404-2
- 和歌山 ☎(0734)75-1311 和歌山市中島499-1
- 兵庫 ☎(078)272-6645 神戸市中央区琴ノ緒町2丁目2-9

中国地区

- 鳥取 ☎(0857)26-9695 鳥取市安長295-1
- 米子 ☎(0859)34-2129 米子市米原4丁目2-33
- 松江 ☎(0852)23-1128 松江市西津田2丁目10-19
- 出雲 ☎(0853)21-3133 出雲市渡橋町416
- 浜田 ☎(0855)22-6629 浜田市下府町327-93
- 岡山 ☎(086)292-1162 岡山県都窪郡早島町矢尾807
- 広島 ☎(082)295-5011 広島市西区南観音8丁目13-20
- 山口 ☎(0839)86-4050 山口市鋳銭司字鋳銭司団地北447-23

四国地区

- 香川 ☎(087)868-9477 高松市勅使町152-2
- 徳島 ☎(0886)98-1125 徳島県板野郡北島町鯛浜字かや103
- 高知 ☎(0888)66-3142 南国市岡豊町中島381-1
- 愛媛 ☎(089)971-2144 松山市土居田町750-2

九州地区

- 福岡 ☎(092)593-9036 春日市春日公園3丁目43
- 佐賀 ☎(0952)26-9151 佐賀市本庄町大字本庄303-2
- 長崎 ☎(095)830-1658 長崎市東町1940-1
- 大分 ☎(097)556-3815 大分市萩原4丁目8-35
- 宮崎 ☎(0985)85-6530 宮崎県宮崎郡清武町下加納393-2
- 熊本 ☎(096)367-6067 熊本市健軍本町12-3
- 鹿児島 ☎(099)250-5657 鹿児島市与次郎1丁目5-33
- 大島 ☎(0997)53-5101 名瀬市矢之脇町10-5

沖縄地区

- 沖縄 ☎(098)877-1201 浦添市城間4丁目23-11

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0699

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピューターをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピューター、ディスプレイ、プリンター、ファクシミリおよび複写機などのオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

愛情点検　長年ご使用のコンピューターの点検を！

こんな症状はありませんか	・異常な音やにおいがする ・水や異物が入った	▶	このような症状の時は故障や事故防止のため、電源を切り、電源プラグとバッテリーパックを抜いて、必ず販売店に点検をご依頼ください。

便利メモ おぼえのため記入されると便利です	お買い上げ日	年　月　日	品 番*	
	販売店名	☎(　　)　－	お客様ご相談窓口 ☎(　　)　－	

*保証書に記載されている品番（例：CF-A1R）を記入してください。

松下電器産業株式会社　パーソナルコンピュータ事業部

〒 570-0021　大阪府守口市八雲東町一丁目10番12号

FJ0899-0
DFQM5287ZA